Gakken Mook
スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!
コンプリートファンブック
全48話&映画
ストーリーガイド
最終回アフレコ
漫画レポート
…ほか、楽しい企画がいっぱい!
秘蔵イラスト&
インタビュー満載!

原画／川村敏江

contents

初出：「スマイルプリキュア！」スチール1

キャラクターデザイン・川村敏江 イラストギャラリー

初出：「スマイルプリキュア！」スチール2

初出：「月刊アニメージュ」2012年6月号（徳間書店刊）

初出：TV Bros. 2012年11月10日号（東京ニュース通信社刊）

初出：月刊アニメディア2012年7月号

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：「スマイルプリキュア！」カレンダー 2013年（発売元：東映アニメーション）

初出：番組宣伝ポスター

第48話エンドカード

打ち上げ用描きおろし

スマイルプリキュア！
コンプリートファンブック 表紙

キュアハッピー／星空みゆき

▲変身する前のみゆき。私服の襟部分はファスナーを閉めるとフードになる

キュアハッピー

（声／福圓美里）

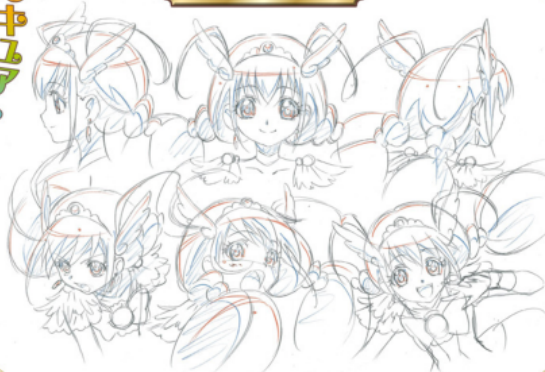
ウルフルンに襲われかけたキャンディを助けたいというみゆきの思いにスマイルパクトが反応し、みゆきは聖なる光の力を持つキュアハッピーに変身！　プリキュアになりたての頃は、決め技「プリキュア・ハッピーシャワー」を出すために、スマイルパクトに「気合いだ！　気合いだ！」と力を込めている姿がよく見られた。

初期設定のハッピー

▲初期の段階では、右側の髪が外に向かってはねていたようだ

▲耳の上で少しだけしばった髪が2本のアンテナのように見える。スカートの下にはフリルがついている

プリキュア・ハッピーシャワー！

両手で大きくハートを描き、手をハートの形に組んで衝撃波を放つ。44話では広範囲に攻撃可能な「ハッピーシャワーシャイニング」も使えるようになった。

▼39話ではハッピーが単独でプリンセスフォームに変身。決め技の「プリキュア・シンデレラ・ハッピーシャワー」は、通常よりも強力な技だ

ハッピー表情集

プリンセスハッピー

プリンセスキャンドルの力でパワーアップした姿。23話から登場。

ウルトラハッピー

ウルトラキュアデコルの力でパワーアップした姿。

▲左右に羽のついたティアラを装着し、体にふたつの輪が浮かぶのが特徴

変身前のみゆきは次ページに登場!

みゆき表情集

星空みゆき

(声／福圓美里)

絵本が大好きな女の子。おっちょこちょいだが、失敗してもくよくよせずに、いつも明るく前向きに進もうとする。傷つきやすく繊細な面もありながら、それを人には見せないようにしている。ログセは「ウルトラハッピー」。「ハップップー」と言って、口をとがらせながらむくれることもある。

夏の私服

お出かけ服

祖母の家に遊びに行ったときの装い。屋内では素足で過ごしている。

パジャマ

朝には弱いのか、設定にも眠たそうに背を丸めた姿が描かれている。

初期設定のみゆき

両サイドの巻き髪が、決定稿と比べてやや短め。

みゆき's COLLECTION

みゆきの持ち物をチェック！　全体的にピンクや白のものが好きなよう。

バッグ

肩掛けやショルダーなど、バッグの形もいろいろ。必ずどこかにピンクが使われている。

トートバッグ

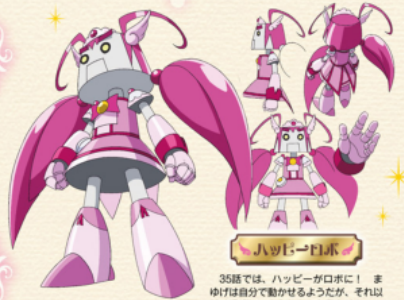
7話に登場。みゆきのお気に入りの本が数冊入り、ワンポイントでリボンがついている。

弁当箱

デジタルカメラ

自転車

36話で、空港に向かうあかねに貸したもの。

キャンディになったみゆき
8話でキャンディと入れ替わったみゆき。耳がみゆきの髪形と同じ形になっている。
浴衣
髪は普段よりゆるめに巻いていて、少し先がほつれている。帯はやわらかく作られたへこ帯。
透明になったみゆき
ジャージなどで透明部分をフォロー。頭にはタイツをかぶっている模様。
キュアキャンディ
キャンディと入れ替わったみゆきの、変身した姿。伸び縮みする耳を使って器用に攻撃する。
4～5歳のみゆき
44話に登場。この頃は、まだ人見知りで引っ込み思案だった。
町娘
33話で時代劇撮影に参加したときに着た衣装。髪を結い上げ、足袋をはく。
文化祭衣装
34話の文化祭では、シンデレラの衣装を身にまとった。
夏の制服
なおとあかねはネクタイを緩めており、着こなしからも性格がわかる。
シンデレラ
39話では、絵本の中に入りシンデレラになった。ドレスは文化祭のものより飾りが豪華に。
みゆき's FAMILY
星空タエ（ほしぞら）
（声／松尾佳子）
みゆきの祖母。現在は田舎に住み、農業を営んでいる。バッドエンド空間の中でもバッドエナジーを吸い取られなかった。
星空博司（ほしぞらひろし）
（声／関俊彦）
みゆきの父。娘を溺愛している。寝ぐせを気にしないといったずぼらな面もある。やや若作りらしいが……？
星空育代（ほしぞらいくよ）
（声／國府田マリ子）
みゆきの母。ドジな娘を温かく見守っている。母の日に必死で頑張る彼女の思いを受け止める、とてもやさしい女性。
ハッピーロボ
35話では、ハッピーがロボに！　まゆげは自分で動かせるようだが、それ以外は操縦してもらわないと動かせない。

キュアサニー／日野あかね

Character Collection 2

初期設定のサニー

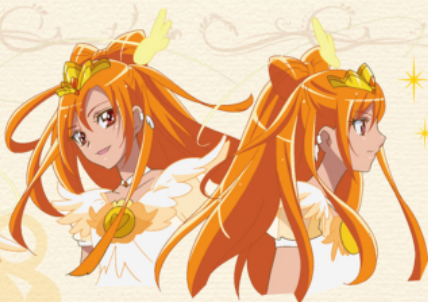
決定稿よりもお団子のボリュームがやや少なかったようだ。

▼サニーの大きなお団子頭は、根元の部分を自分の髪でまとめている。アームカバーは5人の中で一番長い

▼変身する前のあかね。私服は腰の部分をリボンで絞るゆったりとしたデザイン

キュアサニー

（声／田野アサミ）

バレーボールの練習試合中に現れたアカンベェと戦うハッピーの声を聞き、その正体がみゆきだと気づいたあかね。そんな彼女がみゆきを助けようとアカンベェに挑んだ結果、変身できるようになった。炎の力を持ち、炎を身にまとって戦うこともできる。力持ちで、大岩を持ち上げることも可能。

変身前のあかねは次ページに登場!

あかね表情集

日野あかね

(声／田野アサミ)

1年前に大阪から転校してきた、関西弁で話すノリのいい女の子。人を笑わせるのが大好きだが、つい話にオチを求めてしまいがちなところも。熱い心の持ち主で、友達をとても大切にしている。バレー部に所属して、エースアタッカーを目指して練習する努力家でもある。実家はお好み焼き屋さん。

お出かけ服

ストラップ1本のボディバッグを持参し、キャップをかぶっている。

ユニフォーム

部活中はTシャツの袖をまくってやる気満々！

夏の私服

25話で、海の家のお手伝いをしていたときの服装。ヘソチラ姿がかわいい。

あかね's COLLECTION

あかねにまつわる小物をチェック！
食べ物に絡んだものが多い……？

ショルダーポーチ

小ぶりでシンプルなポーチ。ストラップは必ず右肩からかけている。

お好み焼きの容器

10話では町内会の食事会にお好み焼きを持参。かなり重かったらしい。

お好み焼きのコテ

マスコット

40話でみゆきたちからもらったもの。大切な宝物だ。

弁当箱

初期設定のあかね

バッテンの髪留めは初期の頃からあったよう。決定稿より少しだけ幼い雰囲気だ。

エプロン
お父さんとお母さんは頭に手ぬぐいを巻く。あかねは焼くときのみ腕まくりをする。
浴衣
浴衣姿のときのみ、後ろ髪を三つ編みにしている。花のピン留めも、イメージカラーのオレンジで統一。
透明になったあかね
ジャージの上に剣道着をつけることで、透明になった部分をフォロー。
ホットプレートを背負ったあかね
左ポケットに焼き用のコテを2本、右ポケットには食べる用の小さいコテを5本入れている。
ステージ衣装
17話でお笑いコンテストに出たときの衣装。リボンは手作りで、首にゴムひもで止めている。
髪を下ろしたあかね
36話でブライアンを追いかけて行く途中、邪魔になって髪をしばっていたゴムを外した。
あかねずみ
39話で絵本の中に入ると、なぜかねずみに……。バッテンのピンは健在。
文化祭衣装
文化祭では『アラジンと魔法のランプ』のお姫様衣装を身につけた。
あかね's FAMILY
日野げんき
（声／白石涼子）
あかねの弟で、同じ中学に通っている。学校ではバスケ部に所属している。お好み焼きの味にはうるさい。
日野大悟
（声／てらそままさき）
あかねの父。お好み焼き屋さん「あかね」の店主。あかねに対しては、照れくさいのか素直に話せないことが多いよう。
日野正子
（声／雪野五月）
あかねの母。夫の大悟と共にお好み焼き屋さんを営む。10話ではお好み焼き作りに悩むあかねに、的確なアドバイスをした。
女郎蜘蛛
33話で時代劇撮影に参加したときの衣装。ひとりだけ敵役だったことに不満もあったようだが、ポーズを見るとかなりノリノリ。

キュアピース／黄瀬やよい

Character Collection 3

キュアピース

（声／金元寿子）

校内美化週間のポスターをアカンベェに変えられ、それに怒ったハッピーとサニーの声を聞いたやよい。ふたりがみゆきとあかねだと気づいたやよいが、窮地に陥った彼女たちを助けるために勇気を出したところ、変身できるようになった。雷の力を持つ。戦いで驚いたときには、条件反射的に雷を落とすことも。

▲変身する前のやよい。スカートは二枚重ねで、下はバルーンタイプ

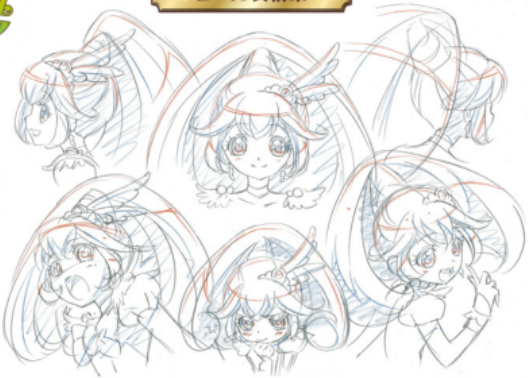
ウルトラピース

ウェーブはなくなり、髪が内側にカールするようになった。

▲ピースのティアラの羽は左側だけについているが、サニーと違い２枚ある

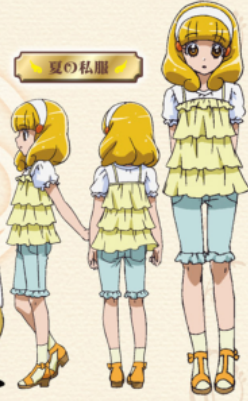
プリンセスピース

23話から登場。髪にウェーブがかかり、全体的にやや大人っぽくなった。

▼ピースサンダーでいつも泣きそうになるピース。しかし、父親の思い出を胸に戦った19話では雷にも耐えた！

右手をピースサインにして挙げて雷を集め、両手のピースからそれを放つ。41話ではさらにパワーアップし、雷に嵐の力を加えた「ピースサンダーハリケーン」を放った。

ピース表情集

変身前のやよいは次ページに登場!

やよい表情集
黄瀬やよい
(声／金元寿子)
引っ込み思案で少し泣き虫だが、一度交わした約束は絶対に守る、芯の強い女の子。マンガを描くのが大好きなのに、自信がないためか人に見せることはあまりなかった。スーパーヒーローに憧れていたり、虫や高いところが平気だったりと、おとなしそうな見た目とは違った意外な一面も持つ。
パジャマ
ウエスト部分にギャザーが入った個性的なデザイン。ポケットは右側にひとつだけ。
お出かけ服
帽子の下には、愛用のカチューシャをつけている。家の中ではソックスで過ごす。
夏の私服
やよい's COLLECTION
やよいの持ち物は、イメージカラーの黄色を基調にしたグッズで決まり！
トートバッグ
エコバッグのような薄い布製。バッグに入って照れているポップがかわいい♥
紙袋
7話のひみつ基地探しの最中に、やよいが持っていたもの。中身は不明。
弁当箱
デジタルカメラ
目覚まし時計
声で起こしてくれる時計。ヒーローの名前は不明。
初期設定のやよい
決定稿よりも、おとなしそうな印象が感じられる。

怪人
やよいが描いていたマンガの敵役。アカオーニによってハイパーアカンベェにされてしまった。

ミラクルピース
やよいが描いていたマンガの主人公の、変身後の姿。やよいの理想のヒロイン。

変身前のミラクルピース
やよいが描いていたマンガの主人公の、変身前の姿。

ベレー帽姿
マンガコンクールに応募するためのマンガを描き始めたときのスタイル。

小さくなった5人
38話では、マジョリーナの道具で子どもに。キャンディは赤ん坊に。

浴衣
普段とは異なり、髪をツインテールにして、リボンのついたシュシュでまとめている。

チビキュア
小さくなった5人が変身した姿。決めゼリフが揃わないところもかわいい。

魔法使い
39話の絵本の中では、シンデレラを助ける魔法使いに。ほうきで空も飛べた。

文化祭衣装
文化祭では、赤ずきんちゃんの衣装に。バスケットの中は空っぽ。

やよい's FAMILY

黄瀬勇一（きせ・ゆういち）
（声／阪口周平）

やよいの父。やよいが5歳のときに他界。妻・千春のようなやさしい子になってほしいという理由から、春にまつわる「やよい」という名を娘につけた。

黄瀬千春（きせ・ちはる）
（声／氷上恭子）

やよいの母。キッズファッションの会社に勤めている。時間があるときには家事もきちんとこなすが、ちょっと不器用？

だんご屋の娘
33話で時代劇撮影に参加したときの衣装。たすき掛けにして袖をまとめている。

キュアマーチ／緑川なお

Character Collection 4

▲変身する前のなお。動きやすさを重視したシンプルなファッション

キュアマーチ

（声／井上麻里奈）

みゆきたちや弟妹と遊んでいる最中に現れたアカオーニから、「絆なんてくだらない」と言われたなお。その言葉に反論するなおの思いに応えるように、変身できるようになった。風の力を持つ。垂直の壁を登れるほどの速さで走れるようになり、橋柱に激突しても平気なほど、身体も頑丈になる。

初期設定のマーチ

サイドの髪のボリュームが、決定稿よりもやや少なめ。

▲ブーツは一番短いショート。髪形はツインテールとポニーテールの組み合わせ

風の力を集めたボールを敵に蹴り込む技。一度に複数のボールを蹴ることも可能。42話の「マーチシュートインパクト」は、高速回転することでより強力な風のエネルギーを集めた。

▼変身すると、５人の中でも特に大きく髪形が変わる。サイドの髪のボリュームには自分でもビックリ！

髪は全体的に長くなり、ポニーテール部分は地面につくほどまでになっている。

23話から登場。髪が少し長くなり、ややウエーブがかかるようになった。

◀ティアラにつく羽はサニーとは逆で、右サイドに1枚だけ

変身前のなおは次ページに登場！

なお表情集

緑川なお

(声／井上麻里奈)

女子サッカー部で１年生のときからレギュラーを務めるスポーツ少女。姉御肌で面倒見がよく、爽やかな外見から、女子の間で人気がある。かわいいものが好きで、虫やオバケ、高いところが苦手。家で６人の弟妹の面倒を見ていることもあり、裁縫や料理が得意。

お出かけ服

夏服とスポーツ少女らしいドラムバッグの組み合わせ。

夏の私服

右の薄緑色のシャツは海の家で働いていたときの服。夏服は袖や裾にフリルのついたものを好んでいるようだ。

エプロン姿

家事を手伝うときはエプロンを着用。ポケットは両脇にふたつ。

なお's COLLECTION

スポーティーななおは、持ち物からも活発な雰囲気が伝わってくる。

バスケット

７話でひみつ基地探しに出かけた時の荷物。５人とキャンディの分のお茶セット入り。

着替え袋

弁当箱

ボディバッグ

初期設定のなお

決定稿では少しツリ目になっているなおだが、初期段階ではややまるい目だった。

浴衣
シュシュには花がつき、スカシの帯留めをするなど、かなりオシャレを意識している様子。
リレーのユニフォーム
18話の運動会で着ていたユニフォーム。
サッカー部のユニフォーム
上着をズボンに入れているので、腕を上げてもおヘソは見えない。
なおねずみ
39話で絵本の中に入った時、あかねともどもねずみに。トレードマークのポニテは健在。
馬
39話では、魔法使いのやよいによって馬にも変身。上は同じく馬にされたあかね。
髪を下ろしたなお
13話の修学旅行の夜の姿。外ではいつも束ねているので、なかなか見られない髪形だ。
人魚プリキュア
30話で世界旅行をしていたみゆきたちは、アマゾン川で人魚の姿に変身！
くノ一
33話で時代劇撮影に参加したときの衣装。正義の味方スタイルにやる気満々。
文化祭衣装
文化祭では「不思議の国のアリス」のアリスに扮した。
なお's FAMILY
緑川こうた
(声／疋田涼子)
緑川ひな
(声／藤井ゆきよ)
緑川けいた
(声／寺崎裕香)
緑川ゆい
5人の中ではけいたが一番お兄さんで、はる、ひな、ゆうた、こうたと続く。42話で生まれた女の子には「ゆい」と名づけられた。
緑川ゆうた
(声／中上育実)
緑川はる
(声／赤崎千夏)
緑川とも子
(声／高橋里枝)
なおの母。笑うとえくぼができる。42話では7人目の子どもを授かった。
緑川源次
(声／神奈延年)
なおの父。職業は大工で、江戸っ子のようなべらんめえ口調で話す。なおからは「お父ちゃん」と呼ばれている。

しんしんと降り積もる清き心！キュアビューティ！

キュアビューティ

（声／西村ちなみ）

生徒会主催の、子どもたちへの読み聞かせ会に協力してくれたみゆきたちを守りたいという気持ちと、マジョリーナにそれをバカにされたことへの怒りにより、れいかは変身できるようになった。水と氷の力を持ち、冷気でものを凍らせたり、氷の剣や盾を作り出したりすることができる。

▲変身する前のれいか。短めのブーツをはいている

初期設定のビューティ

表情が柔らかく、決定稿よりも少しかわいらしい雰囲気がある。

▲変身するとショートボブをベースにした髪形になり、後ろ髪はざっくり4分割される

プリキュア・ビューティブリザード!
ビューティ表情集
水着姿
29話ではウルフルンとの水泳対決で、スカートの下にロングスパッツをはいた水着姿を披露。残念ながら泳ぐ姿は見られなかった。
氷のエネルギーと空中に作った雪の結晶を組み合わせ、そこから冷気を放つ。43話に登場した「ビューティブリザードアロー」は、氷の剣２本を組み合わせ、弓に変化させて弓矢を放つ技だ。
ウルトラビューティ
プリンセスフォームのたてがみはそのままに、後ろ髪が６分割される。
プリンセスビューティ
23話から登場。４分割された髪がのび、ボブ部分がたてがみのように逆立つ。
▲ビューティはハッピーと同じく、ティアラのサイドに羽が２枚現れる
変身前のれいかは次ページに登場!

れいか表情集
青木れいか
(声／西村ちなみ)
みゆきのクラスの学級委員で、生徒会でも副会長を務めながら、弓道部にも所属。容姿端麗で、成績優秀、上品なこともあり、男子生徒からの人気が高い。まじめすぎてややズレた部分もある。なおとは幼なじみで、彼女をよく知っており、「なおは昔っから～」と言うことがよくある。
夏の私服
海の家に行った際の服（右端）は、スカートのように見えるが、実はキュロット。
お出かけ服
つばが広めの帽子に、ブランドものっぽいバッグを持つ。家の中では素足で過ごす。
エプロン姿
母親の料理を手伝うことも。エプロンはなおのものとは違い、ポケットはついていない。
れいか's COLLECTION
れいかの持ち物は、古風なものや和風な雰囲気のものがたくさん
弓と矢
掛け軸
7話でみゆきたちに披露。ひみつ基地にもかけようとするなど、とても大切にしている。
弁当箱
道
ばっ!!
初期設定のれいか
決定稿でも着ている水色の上着は、初期段階から着ることが決まっていたよう。

浴衣
ロングヘアはリボンでまとめ、ちょうちょのヘアピンをさす。帯飾りもつけている。
ジャージ
兄の淳之介と体力作りのためにジョギングをするときは、白いジャージを着用し、髪を束ねている。
姫君
33話で時代劇撮影に参加したときの衣装。少し照れたような表情を浮かべている。
選挙
37話の生徒会選挙で演説をしたときにはたすきをかけた。
文化祭衣装
文化祭ではかぐや姫に扮した。髪の両側を赤いリボンで結んでいる。
冬服
44話に登場した5人の冬のお出掛け服。れいかのコートはフリルがつき、袖口が少し広がっている。なおのニーソが貴重。
ポニーテール
弓道部で活動中は、髪はまとめてポニーテールにしている。
王子
39話で絵本に入ったときには王子様に。シンデレラみゆきをエスコートする際は表情もキリッとする。
弓道着
れいか's FAMILY
あおきじゅんのすけ
青木淳之介
(声／吉開清人)
れいかの兄。柔道で道を極めようとしているらしい。れいかとは毎朝一緒にジョギングをしている。
父
右から2番目がれいかの父。画家。れいかと共に過ごしているシーンは本編中では描かれなかった。
あおきしずこ
青木静子
(声／篠原恵美)
れいかの母で、合気道の達人。普段はかっぽう着を着て家事をしている。おだやかなものごしの、和風美人。
あおきそうたろう
青木曽太郎
(声／西村知道)
れいかの祖父。書道家。れいかという名前をつけた人物でもある。れいかにとっては、よき相談相手でもあるようだ。

キャンディ役 大谷育江 INTERVIEW

――キャンディの第一印象は？

うわっかわいい。やりにくいなぁ。ナビゲート役だから、割と何でも知ってるのかな？ どうやって皆を導いていくんだろう。

――その印象は変化しましたか？

小さくて頼りなくて、でも皆と一緒に闘ってる気になって一所懸命になってる所は、「妖精」という特殊な力を持っているであろう神秘の存在というよりは、幼稚園児がお姉ちゃんのまねをしたくて後ろをくっついていくような、何とも頼りない、守ってあげなければいけない立場逆転の構図に変わった気がします。

――キャンディの役作りで、スタッフの方々からの要望はありましたか？

キャンディは子供達にとって身近な存在である事。そのために子供達に少し優越感を持ってもらえるよう、「あ、私の方がお姉ちゃんだ」と思える様に、キャンディがどんなに頑張っても、色んな事が出来ても、4歳児位の知能である事を忘れないよう心がけました。

――妖精という立場で1年間プリキュア5人を見つめてきて、今なんと声をかけてあげたいですか？

このメンバーは、本当に涙もろくて、皆よく最初の通し見から泣いていましたね。同じ様に感情をキャッチ出来るという意味でも、本当に良いチームワークだったと思います。

――プリキュアを演じたキャスト5人にもひと言お願いします。

出会いは一期一会と言うけれど、本当に大切にして行きたいメンバーに出会えて、幸せでした。1年間ありがとう。そして、これからも、

どこかでよろしくね。

——シリーズを通して印象に残ったセリフ、エピソードは？

最終回の「それが私たちスマイルプリキュアだから」は名台詞でしょう！

エピソードは、

1、運動会のリレーの話。なおちゃんがまさかの転倒。大泣きする回。一生懸命やれば、たとえ結果が悪くても、みんなの心に残るものなんだ、って、心に響いたお話でした。

2、夏祭りでキャンディが景品になったヒヤヒヤドキドキの話は笑えて微笑ましくて好きです。

3、みゆきのおばあちゃんの宝物の話。田舎には、まだまだ不思議な話が沢山あるかもね～と夢いっぱいのお話でした。

——最終回が終わっての感想を教えてください。

終わっちゃったな～というより、私は始まった様な気がしています。プリキュアを探して一緒にピエーロを倒す、という最初の目的は果たせたものの、キャンディとしては、次期女王としての勉強や、映画プリキュアオールスターズで見せた、あのフォルムから、まだまだ終わらない物語、最終回を迎えてから始まったストーリーが、頭の中で渦巻いています。

——最後に、ファンにメッセージを！

みゆきが目指した、沢山の友達を作って、周りにある幸せに、自分が気付く事で、それぞれの人が持っている、「絶望」という名のピエーロを本当に倒せるのかもしれません。「スマイルプリキュア！」は、まだ終わっていません。これからは、皆さんの手でピエーロを倒して下さい。そして、みなさんのスマイルが世の中に溢れる事を、心から祈っています。とりあえず、1年間、応援ありがとうございました。またどこかで……。

Profile

【おおたに・いくえ】8月18日生まれ。東京都出身。主な出演作品は、「ポケットモンスター」シリーズ（ピカチュウ役）、「ワンピース」（トニートニー・チョッパー役）など。

プリンセスフォームのプリキュアによる決め技。ペガサスのオーラをまとう「レインボーバースト」に、フェニックスのオーラをまとった技。ハイパーアカンベェはこの技でないと浄化できない。

三幹部
Character Collection 7
ウルフルン表情集
ウルフルン太郎
37話に登場し、生徒会長選挙に乱入。「宿題をなくす」という公約をかかげたが落選。
ウルフルンタロー
ゴーグル
29話でサニーとゴーカート勝負をしたときに着用していた。
ウルフルン
(声／志村知幸)
バッドエンド王国三幹部のひとり。夢や希望、努力を否定しており、人々の笑顔がきらい。クールそうに見えるが、ロボットアニメが好きという一面もある。
チビフルン
38話で小さくなった姿。みゆきよりも背が低い。短パンになる。
黒ウルフルン
45話に登場。世界中のバッドエナジーを吸い上げて、凶悪化した。
水着
29話で、ビューティとの水泳対決時に着用。体の上下をおおった競泳用。
黒アカオーニ
45話に登場。凶悪化した結果、上着がなくなり、角が長くなっている。
ウルルン
ウルフルンから邪心が抜け、メルヘンランドの妖精に戻った姿。
従者
39話に登場。正体がばれた後には髪の中から耳が出てくる。
漫才コンビ
17話のお笑いコンテストでの姿。ふたりともネクタイがちょっと曲がっている。
アカオーニ
(声／岩崎ひろし)
バッドエンド王国三幹部のひとり。仲間や友情、絆といったものがきらい。怪力が自慢で、頭脳戦は苦手。ピースにじゃんけんでまけて悔しがるというお茶目な面も。
サングラス
海を訪れた際には、サングラスも着用。実はオシャレ？
水着
25話ではサーフボードを持って海を訪れ、みごとな波乗りを披露。
チビオーニ
38話に登場。闇の絵本を忘れたり、ウルフルンとケンカをしたりと、子どもそのものの行動をとった。
オニニン
メルヘンランドの妖精に戻ると、角が見えなくなり、先が丸くなっているしっぽが生えた。
アカオーニ表情集
赤井鬼吉
37話に登場。「マンガ、ゲームの学校への持ち込み許可」を公約として生徒会長選挙にのぞんだ。
マンガもゲームもOK！
アカイ・オニキチ

マジョリーナ表情集1
マジョリーナ
(声／冨永み一な)
バッドエンド王国三幹部のひとり。努力や善意をバカにする。さまざまな道具を発明するが、ウルフルンやアカオーニに捨てられては地球に探しに行っている。
お菓子
ケーキ
魔城理奈
まじょうりな
37話でほかのふたりとともども生徒会長選挙に乱入。公約は「授業中にお菓子食べ放題」。
マジョリーナ表情集2
マジョリン
メルヘンランドの妖精に戻った姿。右の上側の歯が、八重歯のようになっている。
従者
39話ではカツラをかぶって従者に扮した。
ドレス姿
39話でお城の舞踏会にやってきた3人。ウルフルン、アカオーニもちゃんとお化粧済み。
黒マジョリーナ
バッドエナジーを吸収して凶悪化。爪がのび、口もとには牙が生える。
若返ったマジョリーナ
バッドエンド空間で若返った姿。この姿の時間を本人は「マジョリーナ・タイム」と言っている。
ジョーカー&ピエーロ
ジョーカー
(声／三ツ矢雄二)
ピエーロの直属の配下。ピエーロを復活させることを目的とし、三幹部にバッドエナジーを集めさせていた。最終的にはピエーロの一部となって消滅した。
▲怠け玉を使って、プリキュアたちを異空間に閉じ込めたことも
バッドエンドプリキュア
45、46話に登場。本物のプリキュアと正反対で、他人の不幸を望む。服はスカートのように見えるが、実はキュロット。
ピエーロの卵
45話では巨大化して地球に襲来。中からピエーロの実体が生まれた。
ジョーカー表情集
ピエーロ
(声／玄田哲章)
バッドエンド王国の皇帝。人々の負の感情が集まってできた存在。
ジョーカーのトランプ
戦闘時に使用。普段は手で持てるほどの大きさだが、巨大化させることもできる。

第1話〜第48話

第1話 誕生！ 笑顔まんてんキュアハッピー‼

転校生・星空みゆき 伝説の戦士に変身！

星空みゆきは中学2年生。七色ヶ丘に引っ越してきた。転校初日、学校へ急ぐみゆきは、空を飛ぶ本と妖精キャンディに出会う。これって夢？ 最初はそう思ったけれど……。

新しいクラスは2年2組。自己紹介で緊張するみゆきだったが、あかね、やよい、なお、れいか、みんなに助けられ、クラスにとけこむことができた。そして放課後、図書室でみゆきは不思議な体験をすることに。本棚で光る本に触れると、奇妙な空間を抜けて街の中へと転送されてしまう。そこではキャンディがウルフルンに追われていた。ウルフルンは世界をバッドエンドに変えようとしていたのだ。キャンディを助けたい！ みゆきが強く願うとスマイルパクトが現れ、伝説の戦士・プリキュアのキュアハッピーに変身！ ウルフルンはレンガの家を怪物アカンベェに変えて攻撃するが、みゆきの放つ「プリキュア・ハッピーシャワー」でアカンベェは浄化され、キュアデコルに姿を変えたのだった。

▲▶「遅刻、遅刻〜！」学校へ急ぐみゆきは、空を飛ぶ本の中から現れた、かわいらしい何かと激突する。それは本物の妖精だった！

七色ヶ丘中学校 2年2組 5人の座席表

青木れいか

日野あかね

星空みゆき

緑川なお

黄瀬やよい

▲緊張して、みゆきはうまく自己紹介ができなかった。ピンチを救ってくれたのが､あかね。そして、やよい、なお、れいかだった

◀5人の席はココ！

▲スマイルパクトを手にし、キャンディに教えられた通りにするとプリキュアに変身！

▲ウルフルンは謎の赤っ鼻を使ってアカンベェを生み出し、攻撃してくる

▲ウルフルンは、人びとの悲しみや怒りなどのバッドエナジーを集め、世界をバッドエンドに染めようとしていた

▲決め技「プリキュア・ハッピーシャワー」は、さっそく1話から使用された

【第1話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 佐々木先生／小野涼子 男子生徒／飯田利信 女子生徒／赤﨑千夏 女子生徒／津田美波 ウルフルン／志村知幸 アカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：高橋任治 松田千鶴 完甘美也子 大田和寛 原田節子 田中伸郎 兼高里圭 福本泰子 星川信芳 三輪幸彦 大内智美 美馬健二 森下勇輝 荒川めぐみ 増田誠治 稲葉仁 安田陽子 柳孝相 渡邉貴子 太田晃博 福島英 石野聡 濱野裕一 手塚江美 赤田信人 林祐己 稲上晃 宮本絵美子 大塚健 桑原幹根 小島彰 渡辺浩二 神谷智大 森田岳士 板岡錦 古川知宏 羽田浩二 杉藤さゆり 深本泰永 色指定：佐久間ヨシ子 背景：萬三キ 佐藤千恵 渡部葉 西田渚 増田竜太郎 デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 吉野和宏 石川晴彦 清水正道 CGデザイナー：宮本浩史 小林真理 さとうえい 中谷純也 林沙樹 金井弘樹 梶玲子 海老沼宏之 渡部高志 江本晴 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：伊藤聡何 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：神木優 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：増田竜太郎 作画監督：山岡直子 演出：大塚隆史

とっておきデコルの見方

星空みゆき役／福圓美里 p68

日野あかね役／田野アサミ p70

黄瀬やよい役／金元寿子 p72

緑川なお役／井上麻里奈 p74

青木れいか役／西村ちなみ p76

大塚隆史SD p83

シリーズ構成／米村正二 p88

キャラクターデザイン／川村敏江 p90

★この本を10倍楽しむために「とっておきデコル」を作ったよ！ ストーリーを紹介する記事の中にこれらのデコルが出てきたら、そのページへGO！ プリキュア役の声優さんやスタッフが語るとっておきの話とリンクしているよ♪

プリキュア誕生 STORY GUIDE

第2話 燃えろ！熱血キュアサニーやで!!

2番目の戦士は熱血のバレー少女

キャンディによれば、プリキュアは全部で5人。仲間をさがし始めるみゆきだが、どんな人がなれるのかは、キャンディにもわからなかった。そんなとき、みゆきは河原であかねを見かける。バレー部のあかねは、ひとりで特訓をしていたのだ。転校初日、最初に手をさしのべてくれたあかね。みゆきは練習相手を買って出る。そこにウルフルンが現れ、バッドエナジーであかねを落ち込ませてしまった。キュアハッピーはバレーボールアカンベェと戦うが苦戦！ その声にあかねは我に返る。そして出現したスマイルパクトでキュアサニーに変身。「プリキュア・サニーファイヤー」を放つのだった！

▶ハッピーをいじめるアカンベェが許せない！

▲みゆきを思うあかねの気持ちが、スマイルパクトを出現させた！

▲あかねは、バレーボールに熱中する元気いっぱいの少女

◀▲太陽のように明るく熱いハートの持ち主あかね。炎のパワーを操るキュアサニーに変身を果たす！

◀関西から昨年転校してきたあかねは、ノリのよさバツグン

第3話 じゃんけんポン♪でキュアピース!!

3番目の戦士だじゃんけんポン♪

校内美化週間のポスターコンクールに、クラスからやよいが作品を出すことになった。ひっこみ思案のやよいだが、みゆきたちに励まされ、ヒーローのポスターを完成させた。でも結果は努力賞。心ない生徒の一言に、やよいは傷ついてしまう。そこに今度はアカオーニが現れ、みゆきのポスターをアカンベェに変えてしまう。「もしかして、星空さん!?」と気づいたやよい。ふたりを助けたいと願い、やよいが勇気を振り絞ると、スマイルパクトが出現した。やよいは、3人目のプリキュア、キュアピースに変身。「プリキュア・ピースサンダー」でアカンベェを浄化したのだ。

今日のぴかりんじゃんけん

チョキ！ じゃんけんポン♪

ピカピカぴかりん♪

▲雷のパワーを操るキュアピースに変身したやよい。じゃんけんも♪

▲ひっこみ思案のやよいだけれど友達をいじめるアカオーニやアカンベェを許すことはできなかった！

モデル みゆき！
モデル キャンディ…
▲勇気を出してポスターコンクールに応募したやよい。モデルは、あのふたり♪

▲やよいは絵や、漫画のヒーローに思いを託していた

【第3話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 佐々木先生／小野涼子 男子生徒／白川周作 男子生徒／高口公介 アカオーニ／岩崎ひろし ウルフルン／志村知幸 アカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：小林雄次 原画：なまためやすひろ 飯島秀一 本吉悟 郡司智一 大谷房代 佐藤元 西村元秀 渡邉貴子 島崎望 福島英 曽根崎由紀 永澤謙一 比留間裕 福原恵次 佐藤麻紀子 山本佐和子 上野ケン 赤田信人 松田千織 完甘美也子 深本泰永 大内智美 福本泰子 色指定：秋元由紀 背景：篤ミキ 佐藤千恵 増田竜太郎 Toei Phils. ネリート・アクーニャ デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井麻子 山口博睦 金子直広 夏原弘成 CGデザイナー：宮本浩史 本岡宏紀 中谷純也 林沙樹 吉岡智和 澤志織 中沢大樹 岩本千尋 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：田中雅史 製作進行：内藤拓也 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕服 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：神木優 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：西田渚 渡部葉 作画監督：宇津野勇樹 演出：芝田浩樹

【第2話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 女子生徒／米山有佳子 女子生徒／中上育実 ウルフルン／志村知幸 アカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ ノエル・アンニョヌエボ ビクター・パラノン レジー・マナバット レム・バレンシア アリエス・ナリオ 星川信芳 芹田明雄 藤井孝博 永島英樹 冨木由美子 福島史士 小原広志 河村信道 永澤謙一 福原恵次 松田千織 島崎望 紅野華奈 福本泰子 福島英 渡邉貴子 柳島洋介 大田和寛 大内智美 深本泰永 色指定：小日置知子 背景レイアウト：脇崎博 本間薫 背景：Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 荊坂邦仁 花見早苗 佐伯美範 寺崎光喜 CGデザイナー：宮本浩史 小林真理 本岡宏紀 堀内美緒 米澤真一 今泉歩 藤澤菜月 澤志織 猪野高史 高師史靖 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 製作進行：八重樫逸郎 美術進行：西牧正人 仕上進行：金子隆 CG進行：三輪泰地朗 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：神木優 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：斉藤優 作画監督：ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ 演出：黒田成美

直球勝負！風のキュアマーチ!! 第4話

◀▼スポーツ万能で、曲がったことが大きらいな性格

▼髪のボリュームにビックリ

◀家では6人兄弟の長女。やさしいお姉ちゃん

▶何事も一直線のなおらしく、変身のキメのポーズは、ビシッと！

4人目の戦士は弟妹思いで勇気リンリン

みゆきたちがお弁当を食べていると、先輩にいじわるをされそうに。助けてくれたのは、なおだった。サッカー部のエースで正義感が強く、プリキュアにピッタリかも。そう思ったみゆきは、なおの家を訪ねる。なおは、家では5人の妹や弟の面倒を見るやさしいお姉さん。ますます大好きになるみゆき。

その後、あかねたちもやってきてみんなで河原で遊んでいるとアカオーニとアカンベェが出現する。変身したプリキュアがアカンベェに苦戦していると、気を失っていたなおが復活。弟たちの危機に怒りを爆発させたなおの前にスマイルパクトが現れ、キュアマーチに変身。「プリキュア・マーチシュート」を力強く放った！

美しき心！キュアビューティ!! 第5話

5人目の戦士は頭がよくてしっかり者

残るプリキュアはひとり。みゆきはれいかになってもらおうと提案する。生徒会副会長のれいかは頭がよくてしっかり者。だが、みんなで頼みにいくと断られてしまった。れいかは生徒会主催の絵本の読み聞かせ会が近づき、忙しかったのだ。そこでみゆきたちは、れいかを手伝うことに。読み聞かせる絵本は「白雪姫」。読み聞かせ会の最中、絵本の中の魔女そっくりなマジョリーナが出現。4人はプリキュアに変身するが、鏡アカンベェは分身の術を使い、苦戦を強いられてしまう。そのとき5つめのスマイルパクトが現れた。れいかがキュアビューティに変身。本物のアカンベェを見破ると「プリキュア・ビューティブリザード」で浄化するのだった。

▶絵本の読み聞かせを準備していたれいか。本物の魔女が来るなんて！

▲成績優秀。授業で指されても、完璧！

▼れいかは雪と氷のパワーを操るキュアビューティに変身！

問題です 本物のアカンベェはどれでしょうか？

▲リボンの位置がひとつだけ違っていた

今日のぴかりんじゃんけん グー！

【第５話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　寺田るな／赤﨑千夏　男の子／ふしだ里穂　女の子／米山有佳子　マジョリーナ／冨永みーな　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所
●STAFF　脚本：佐々木なふみ　原画：仁井学　さとう陽　平野絵美　安彦英二　坂本千代子　山本翔　岩崎亮　山本帆　北條直明　小松英司　山田美香　高橋真一　今岡大　荒川絵里香　川田栄三　常盤健太郎　三木達也　阪口良多　南東寿幸　工藤千栄美　館川慎平　杉本智子　中尾香奈美　伊藤真奈美　佐々木まり子　塩澤柾　澤田知世　小川未帆　宮本絵美子　板岡錦　赤田信人　色指定：秋元由紀　背景レイアウト：本間薫　鯨﨑博　背景：Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　財友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：宮本浩史　米澤真一　髙師史靖　金井弘樹　中沢大樹　岩本千尋　竹中佑城　高橋友彦　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：平山美穂　製作進行：八重樫逸郎　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：神木優　宣伝：多田香奈子（ABC）美術：戸杉奈津子　作画監督：仁井学　梅津茜　平野絵美　演出：池畠博史　大塚隆史　岩井隆央

今日のぴかりんじゃんけん パー！

【第４話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　緑川けいた／寺崎裕香　緑川はる／赤﨑千夏　緑川ひな／藤井ゆきよ　緑川ゆうた／中上育実　緑川こうた／疋田涼子　生徒会長／樋口智透　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：清水陽正　松本和志　飯田悟　廣中美佳　高階雅基　荒川理恵　小原広志　永澤謙一　川瀬和香子　稲本泰子　完甘美也子　原田節子　ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・パラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　美馬健二　森田岳士　田中伸明　池みさき　大内智美　渡邉貴子　島崎望　福島英　紅野華奈　深本泰永　大田和寛　秋山由樹子　色指定：小日置知子　背景：デザインオフィス・メカマン／高橋英次　上原里香　石原信明　梶原芳郎　ミキミチヨ　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：小林真理　さとうえい　堀内美緒　梶玲子　中村佳朝　藤沢菜月　海老沼宏之　佐々木嘉久　宮澤孝介　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡則　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：河本隆弘　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：神木優　宣伝：多田香奈子（ABC）美術：田中美紀　作画監督：小島彰　演出：門由利子

妖精ポップが教えるプリキュアの使命

ついに5人のプリキュアがそろった！　でも何をすればいいの？　困っていると、妖精ポップがやってきた。ポップはキャンディのお兄さん。プリキュアにメルヘンランドを救ってほしいと言う。メルヘンランドはバッドエンド王国に攻められ、キュアデコルを奪われてしまった。女王ロイヤルクイーンは皇帝ピエーロを封印するが、力を使い果してしまったのだ。5人には女王を復活させるためキュアデコルを取り戻す、という目標ができた。

そこへマジョリーナ出現の情報が。5人のプリキュアが初めて同時に変身。みゆきが考えた決めゼリフ、「5つの光が導く未来！輝け！　スマイルプリキュア！」も決まり、アカンベェを力を合わせて浄化した。

▲5人の決めゼリフとポーズで、これはボツに

▲バッドエンド王国からやってきたのは三幹部と謎の人物ジョーカーも！

▲さまざまな謎を解決してくれるポップ

本棚の扉の開け方

▼空間移動のトンネルを開ける方法

◀5人のプリキュア決めポーズはこちら！

作戦会議のため!?ひみつ基地をさがそう！

メルヘンランドに戻ったポップと連絡がとれるようになり、みゆきたちはひみつ基地をさがすことに。5人それぞれのオススメの場所はというと……。「道」を求めるれいかは最高の高み・富士山。やよいが案内した「基地」は撮影用のセットだ。なおはぬいぐるみ屋さんの真ん中で、あかねは動物園のオリの中。どこもイマイチ。みゆきは大好きだった森へみんなを連れていくが、今は子どもたちの大切な場所になっていた。そこにウルフルンが現れる。5人はプリキュアに変身し、樹木アカンベェを浄化させるのだった。

適当な場所が見つからないまま、5人が本棚に尋ねてみると、案内してくれたのは、ふしぎ図書館そのものなのだった……。

▶ぬいぐるみ屋さんの展示の中に……

▶▼高みを求めてやまないれいかだが、富士山はあまりにも寒く……

◀あかねは、そんなにゴリラ好き？

◀結局、ふしぎ図書館がひみつ基地に！

▲「基地」を願ったら、撮影現場に出てしまい……

【第7話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　金本ひろこ／合田絵利　尾ノ後きよみ／津田美波　飼育員／飯田利信　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木誠夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：高橋任治　田中伸昭　芹田明雄　福島史士　兼高里圭　大内智美　安田陽子　永澤謙一　福本泰子　稲上晃　美馬健二　増田誠治　柳孝相　三輪章彦　深本泰永　松田千鶴　紅野草奈　福島英　渡邉貴子　太田晃博　ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・パラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　色指定：秋元由紀　背景：デザインオフィス・メカマン／高橋英次　上原里香　石原信明　梶原芳郎　ミキミチヨ　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶怜子　海老沼宏之　濃部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡司　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：神木優　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：稲上晃　演出：池田洋子

【第6話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木誠夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　色指定：小日置知子　背景：萬三キ　増田竜太郎　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：小林真理　本間宏紀　さとうえい　中村佳嗣　江本靖　今泉歩　小泉正行　猪野高史　町田政彌　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：内藤拓也　美術進行：西牧正人　仕上進行：金子翔　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：神木優　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：佐藤千恵　作画監督：河野宏之　演出：土田豊

第8話 みゆきとキャンディがイレカワ～ル！？

キュアキャンディにまさかの大変身！

学校へ行く途中、2個の指輪を見つけたみゆきとキャンディ。はめてみると、ふたりの中身が入れ替わってしまう。指輪はマジョリーナが作った魔法アイテム「イレカワ～ル」だったのだ。仕方なく中身がキャンディのみゆきが授業に出るが、無邪気に遊んでしまい、あかねたちもヒヤヒヤ。みゆきに怒られ、キャンディはいなくなってしまう。そこへマジョリーナが現れるが、キャンディ姿のみゆきは変身できない。4人で戦うが、スプリングアカンベェに大苦戦。そのとき奇跡が！　キャンディの姿のまま、みゆきが変身できたのだ。キュアキャンディの活躍でデコルを取り戻すと、「モトニモド～ル」も手に入れ、元の姿に。みゆきとキャンディも仲直りできた。

▲「くるくるきらめく未来の光！」奇跡の変身！

朝の情報番組『モーニングバード！』から羽鳥アナと赤江珠緒さんが出演！？

▲赤江珠緒さん役で本人が声の出演！

▲中身が入れ替わり、キャンディの入ったみゆきは、学校の机にお絵かき♪

第9話 うそ～！やよいちゃんが転校！？

4月1日 やよいが招いた悲劇！？

今日は4月1日。エイプリルフール。イタズラ心から、やよいは「転校する」とうそをついてしまう。すぐにうそだと告白するつもりが、みゆきによって転校情報はまたたくまにクラス中に広がり、急きょお別れ会開催、寄せ書き贈呈というマズイ状況に陥ってしまう。そこへアカオーニが出現。変身して立ち向かうが、アカオーニはピースのうそを知り、ハッピーたちの前でしゃべってしまう。きらわれても仕方ない、勇気を出して告白するピース。でも、4人は、笑って許してくれた。ピースは張り切ってコートローラーアカンベェを浄化する。やよいに戻り、クラスのみんなにも謝ることに。でも、お返しにちょっとしたうそをつかれてしまうのだった。

▲「お～！」やよいちゃんに同情しまくり

▲話した相手が悪かった？　やよいは、どんどんピンチに！

▲言えなくなっちゃったー！　どうしよう!!

▲寄せ書きまでもらい、言いだしづらくなったやよいは絵に描いたが……

【第9話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　黄瀬ちはる／氷上恭子　佐々木先生／小野涼子　北原ともふみ／吉開清人　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：稲葉仁　松田千鶴　赤田信人　宍甘美也子　原田節子　伊部由起子　川瀬広大　上野ケン　冨木由美子　西村元秀　小原広志　渡邉貴子　島崎望　曽根崎由紀　色指定：秋元由紀　背景レイアウト：下川忠海　背景：飯野敏典　田中里緑　佐南友理　増田竜太郎　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶玲子　海老沼宏之　渡部高志　江本晴　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：内藤拓也　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：西田涌　作画監督：上野ケン　演出：芝田浩樹

【第8話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　赤江珠緒／赤江珠緒　佐々木先生／小野涼子　堀毛先生／神田みか　警官／白川周作　女の子／赤崎千夏　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：小林雄次　原画：小林慶輝　岸祐弥　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　下村こず恵　白井奈緒子　川口幸治　阿部隆司　池田志乃　大田謙治　飯島秀一　渡邉貴子　色指定：小日置知子　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：Toei Phils.　エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本岡宏紀　堀内美穂　米澤真一　今泉歩　藤澤葉月　澤志織　猪野貴史　高頭史靖　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：八重樫逸郎　美術進行：西牧正人　仕上進行：河本隆弘　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：神木優　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：斉藤優　作画監督：大谷房代　演出：田中裕太

みんなの素顔

第10話 熱血！あかねのお好み焼き人生!!!

あかねが見つけたおいしさの秘密

あかねの家はお好み焼き屋さん。ところが、父ちゃんがギックリ腰になり、町内会長の食事会の準備ができなくなってしまった。あかねが代役を申し出るが、あかねが焼いたお好み焼きを食べた弟のげんきは「何かたりない」と言う。父ちゃんは「秘密の隠し味がある」と言っていた。あかねはみゆきたちの協力で試行錯誤を重ねるが、どうしても見つけられない。その後、街に出たあかねたちの前にウルフルンが現れる。心ないウルフルンに反発するハッピーの言葉にヒントを得て、隠し味に気づいたサニーは、元気にソース入れアカンベェを浄化。食事会も大成功だった。あかねが見つけた「秘密の隠し味」それは……。

▶▼お父ちゃんの代わりにウチが焼いたる。自信満々のあかねだったが……

◀みんなの協力も「隠し味」探しの役に立たず

▼「かぶりもの」を取らないと、お店に入れてもらえない

▼▶隠し味とは「食べた人に元気になってもらいたい」という気持ちだと気づくあかね

第11話 プリキュアがチイサクナ～ル!?

勇気の人、なおの意外な弱点が！

おとぎ話に出てくるような「こづち」を見つけたみゆきたち。キャンディが振ると、みゆきたち5人が小さくなってしまった。それはマジョリーナの発明「チイサクナ～ル」だったのだ。みゆきたちがいなくなったと思い、さがすキャンディ。キャンディに気づいてもらおうと、追いかけるみゆきたち。だんご虫より小さくなったみゆきたちにとって、それは大冒険だ。勇気リンリンのなおが、高所恐怖、虫が大の苦手という意外な事実も発覚。だが、虫はやっぱり苦手だけれど、命をないがしろにするマジョリーナの攻撃に、マーチの怒りが爆発。マーチの活躍で、タンポポアカンベェを浄化することができた。

▶一方、この人の意外な一面も。やよいのほうが怖い物知らずだったのだ♪

▲怖い物知らずと思われたなおの、意外な一面が明らかに！

▶マジョリーナが作ったアカンベェも小さかった

【第11話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん グー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　警官／白川周作　野球部員／後藤祐希　野球部員／広山和比古　野球部員／保坂勝紀　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：なまためやすひろ　本吉修　都司智一　完甘美也子　藤井孝博　田中伸昭　金子美紀　福島英　大田和寛　星川信芳　稲原恵次　原田勝子　兼高里圭　小原広志　佐藤元　比留間桐　杉江敏治　松田千鶴　島崎望　太田晃博　直井千春　渡邉貴子　紅野華奈　大内智美　小松こずえ　曽根崎由紀　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鬼崎博　背景：狼谷勝己　遠山麻理子　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光嘉　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶怜子　海老沼宏之　渡部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：平山美穂　製作進行：八重樫逸郎　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：戸杉奈津子　作画監督：なまためやすひろ　演出：黒田成美　三塚雅人

【第10話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん パー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　日野大悟／てらそままさき　日野正子／雪野五月　日野げんき／白石涼子　町内会長／金子由之　OL／赤崎千夏　サラリーマン／高橋英則　マジョリーナ／冨永みーな　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：佐々木なふみ　原画：星川信芳　清水隆正　荒川理恵　飯田悟　廣中美佳　松本和志　河村信道　増田誠治　永島美樹　飯飼一幸　小松こずえ　大内智美　森知範　福島史士　永澤謙一　紅野華奈　濱野裕一　深本泰永　渡邉貴子　安田陽子　島崎望　直井千春　太田晃博　山岡直子　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／高橋英次　上原里香　石原信明　梶原芳郎　ミキミチヨ　大関雅美　小原志野　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間宏紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志鳳　猪野高史　高勝史晴　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：金子隆　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：山岡直子　演出：地岡公俊　岩井隆央

▲旅行に行けないと知ったキャンディは……

目覚める力！レインボーヒーリング!! 第12話

キャンディが家出？修学旅行前に大ピンチ！

もうすぐ修学旅行。みゆきたちはウキウキと準備中だ。でも、連れていってもらえないと知ったキャンディが家出してしまい、ウルフルンにつかまってしまう。ウルフルンはプリキュアの技が効かない青っ鼻をジョーカーからもらっていた。青っ鼻をつけたトイベンダーアカンベェは、カプセルの中にプリキュアたちを閉じ込めてしまう。プリキュアのピンチに、力になりたいと強く願うキャンディ。すると、レインボーキュアデコルが出現！　新しい合体技「プリキュア・レインボーヒーリング」で、アカンベェを消し去った。キャンディと6人でプリキュアの戦士なのだと気づくみゆきたち。全員で、修学旅行に行きたいと思うのだった。

▲青っ鼻は赤っ鼻より強力。ウルフルンはキャンディに目をつけていた！

▲キャンディの不思議なパワーで、新しい合体技が使えるように！

修学旅行！みゆき、京都でどん底ハッピー!? 第13話

楽しい修学旅行は「大凶」で始まった……

修学旅行初日は京都。到着早々、みゆきはおみくじで「大凶」を引いてしまう。何をやっても失敗続き。それでも夜になれば「枕投げ」や「告白タ～イム」！　みんなで大盛り上がりだ。

2日目、アカオーニが京都に現れ、大凶アカンベェで攻撃してきた。ところが、スマイルパクトを川に落として必殺技が使えないし、アカンベェの攻撃にはすべて当たる。変身してもハッピーはやっぱりツイてない！　でもみんなの力を合わせ、青っ鼻のアカンベェを浄化することができた。みゆきに笑顔が戻った。すると、ラッキーにも舞妓さんと記念撮影ができて、みゆきのウルトラハッピーも戻ったようだった。

▲到着早々、いきなり池に落ち、記念撮影もひとりだけジャージ

▲このみゆきの驚愕の表情！　確かに、このおみくじは当たっていた！

▲◀宿では枕投げや告白タイム。髪をほどくと、みゆきも別人に見える!?

修学旅行！大阪で迷子になっちゃった!? 第14話

願いがかなうか？れいかの初たこ焼き！

修学旅行最後の日は大阪。大阪出身のあかねは大張りきりだ。たこ焼きを食べたことがないれいかのために、みんなで食べようと提案する。ところが、大阪城でみゆきとやよいがはぐれ、チームは二手に分かれてしまう。大阪のおばちゃんたちに親切にしてもらうみゆきたち。一方、みゆきたちをさがすあかねたちはツイてない。そんなとき、マジョリーナが通天閣を青っ鼻でアカンベェに変えてしまう。中にはみゆきとやよいが！　あかねたちはプリキュアに変身し、デコルの羽で空を飛んだ。やっと合流できた5人はアカンベェを浄化。念願のれいか初たこ焼きは、みんなで食べて最高においしいのだった。

▲この3人だけで行動したら、どうなる……

今日のぴかりんじゃんけん グー！

↘麻理子 Toei Phils. ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯美範　寺崎光喜　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間宏紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野高史　高師史晴　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：八重樫逸郎　美術進行：西牧正人　仕上進行：金子翔　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：斉藤優　作画監督：仁井学　梅津茜　演出：森川滋　岩井隆央

【第13話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん チョキ！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　佐々木先生／小野涼子　野川けんじ／飯田利信　井上せいじ／樋口智透　木角まゆみ／赤崎千夏　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：星川信芳　美馬健二　飯島秀一　板岡錦　大内哲美　高橋任治　中村真由美　清水隆正　松本和志　長中美佳　高阪雅基　荒川理恵　飯田悟　永澤謙一　若野哲也　森島浩一　中村綺子　山田真也　森下勇輝　安田陽子　島崎望　渡邉貴子　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：行信三　佐藤美幸　牟田いずみ　神山裕美　佐南友理　飯野敏典　萬三キ　増田竜太郎　Toei Phils. エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴郎　清水正道　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶玲子　海老沼宏之　渡部高志　江本晴　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕磁　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中里緑　作画監督：小島彰　演出：土田豊

【第12話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん パー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　井上せいじ／樋口智透　岡田まゆ／赤崎千夏　尾ノ後きよみ／津田美波　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：小林雄次　原画：ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・パラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　稲葉仁　川瀬和香子　小松こずえ　野澤隆　島崎望　酉井千春　渡邉貴子　福島英　馬場充子　大田和寛　秋山由樹子　深本泰永　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：佐藤千恵　皆川真紀　Toei Phils. グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間宏紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野高史　高師史晴　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：内藤拓也　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：萬ミキ　作画監督：フランシス・カネダ　アリエス・ナリオ　演出：山口祐司　門由利子

修学旅行と…

▶みゆきが自分で作ったプレゼント

▲おこづかいの残高にボー然とするみゆき。総額１７４円で買えるものは……？

◀お母さんにはみゆきの気持ちだけで十分なのだ

ドタバタ！ みゆきの母の日大作戦!! 第15話

大切な母の日を忘れていたのは……

ふしぎ図書館で一生懸命母の日のプレゼントを作るみんなの姿を見て、母の日のことをすっかり忘れていた。のに気づいたみゆき。プレゼントを買うおこづかいは残ってないし、お母さんのお手伝いをすれば失敗ばかり。そこでキャンディのビーズメーカーを借りて、ネックレスを作ることに。だが、ウルフルンにネックレスを奪われ、おまけに出来栄えをからかわれ、みゆきは落ち込んでしまう。ウルフルンの心ない言葉に仲間たちが怒った。サニーのパンチ！　マーチのキック！　怒りのコンビネーションがカーネーションアカンベェを浄化した。こんなプレゼントで喜んでくれるかな？　不安なみゆきだが、お母さんはハッピーな様子。

▲手作りのネックレスをあざ笑うウルフルン

れいかの悩み！ どうして勉強するの!? 第16話

▲そろいもそろってテストに惨敗

▶悩みをおじいさまに打ち明けるれいか

なぜ学ぶのか？ れいかが行く奥深き道

テストの成績が残念だったみゆきたちは、学年トップのれいかに問う。なぜそんなに勉強するの？　れいかは答えられなかった。れいか自身、言われて勉強してきたから。プリキュアだって頼まれたからだ。悩むれいかはおじいさまの助言もあり、すべてをやめてみることにした。

キュアビューティがお休みで、４人の戦士は大混乱。アカオーニが生んだ問題集アカンベェの出題に誰も答えることができず、「×」に閉じ込められてしまう。そこへ、れいかが駆けつけた。わからないから知りたいと思う、その気持ちがあればいいのだと気づいたのだ。ビューティはアカンベェの出題をことごとく解き、ビューティブリザードで浄化するのだった。

▲心のモヤモヤをふっきり、正解続出！

▶残念な成績の４人は情けない解答を連発！

▲デコルをセットしたら羽が生えた。プリキュアは飛べたのだ！

▲みんなでたこ焼きを食べることができた！

【第16話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　青木曾太郎／西村知道　青木静子／篠原恵美　青木淳之介／吉岡清人　緑川ゆうた／中上育実　生徒会長／樋口智透　子ども／藤井ゆきよ　子ども／瀬めぐみ　子ども／上田のりこ　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：青山充　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香　石原信明　鈴木祥太　田文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間恵紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野高史　髙師史靖　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：青山充　演出：芝田浩樹

【第15話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　星空育代／國府田マリ子　女の子／米山有佳子　マジョリーナ／冨永みーな　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：佐々木なふみ　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　色指定：板坂泰江　背景：西田渚　田中里緑　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶玲子　海老沼宏之　渡部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：平山美穂　製作進行：平野正和　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：渡部葉　作画監督：河野宏之　演出：田中裕太

【第14話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　佐々木先生／小野涼子　金本ひろこ／合田絵利　岡田まゆ／赤崎千夏　尾ノ後きよみ／津田美波　飴屋店員／内藤玲　タコ焼き屋店員／安部慎二郎　おばちゃん／杉本ゆう　おばちゃん／熊谷ニーナ　おばちゃん／斉藤祐子　おばちゃん／前田綾香　おばちゃん／吉田麻実　マジョリーナ／冨永みーな　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：岩崎亮　塩澤桂　荒川絵里香　岡本秀康　丸岡功治　山本善哉　山田美香　熊谷勝弘　鮎川慎平　工藤千菜美　森山剛史　斉藤和也　常盤健太郎　南東寿幸　平野絵美　山本翔　仁井学　梅津茜　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　嶋崎博　背景：猿谷勝己　戸杉奈津子　遠山↗

第17話 熱血！あかねのお笑い人生!!

FUJIWARAに学ぶお笑いの神髄!?

商店街のお笑いコンテスト。ゲストは、あかねの大好きなお笑い芸人FUJIWARAだ。当日、楽屋に入れてもらい、あかねのテンションは急上昇。FUJIWARAからチーム漫才をすすめられ、5人でコンテストに出場することに。かぶり物コンビ・バッドエンドボンバーズの次に登場した。5人はぎこちなさがウケて、会場は笑いの渦に包まれる。

ところが、肝心のFUJIWARAの芸が全然ウケない。マジョリーナが作った首輪、「ツマラナクナ〜ル」をはめられていたのだ。おまけにふたりの姿をしたアカンベェも出現！　お笑いなんかくだらないというマジョリーナの言葉にスマイルプリキュアのパワーが炸裂。アカンベェを浄化するのだった。

BADEND BOMBERS!

▶ナイスな衣装だが、ウケなかった漫才コンビ

▼あかねはFUJIWARAの大ファン

▶チーム漫才で急きょ出演！

◀▲大好きなお笑いを守るため、サニーは戦う！

第18話 なおの想い！バトンがつなぐみんなの絆!!

この5人で走りたい！感動の名レース！

体育祭の女子リレーに2年2組はみゆきたち5人で出場することになった。運動が苦手なやよいだったが「この5人で走りたい」と言うなおの言葉に背中を押された。練習を続け、やよいのスピードも上がってきたが、陰口を叩く子もいて、やよいの心は揺れていた。だが当日、アカオーニの玉入れアカンベェを力を合わせて浄化し、やよいは仲間のいる心強さを感じるのだった。

リレーが始まった。あかね、みゆき、れいかと順調にバトンをつなぐ。やよいは順位を落としたけれど、あきらめない。クラス全員の歓声が上がった。最終走者なおにバトンがつながる。トップに立つなおだったが……！

▼ゴール寸前、アクシデントが！

▲▶ゴールしたなおにみんながかけ寄る！　言葉はいらなかった

▲あきらめなかったやよい！　その思いを受けてなおが走る！

【第18話】CAST&STAFF

チョキ!

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　木村さとし／白川周作　井上せいじ／樋口智透　北原ともふみ／吉開清人　金本ひろこ／合田絵利　岡田まゆ／赤崎千夏　尾ノ後きよみ／津田美波　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・バラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　青山充　田中伸明　浅田一　川瀬広大　福島史士　冨木由美子　佐藤元　星川信芳　飯島秀一　金子美紀　柴崎雄輔　福島英　渡邉貴子　島崎望　色指定：板坂泰江　背景：行信三　芳野満雄　田中里緑　西田者　神山裕美　皆川真紀　平井純　増田竜太郎　エルウィン・サディア　Toei Phils.　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井湧子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間宏紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野高史　高部史靖　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：平野正和　美術進行：西牧正人　仕上進行：金子隆　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小沢匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ＡＢＣ）　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：篁ミキ　作画監督：フランシス・カネダ　アリエス・ナリオ　演出：池田洋子　三塚雅人

【第17話】CAST&STAFF

パー!

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　星空博司／関俊彦　星空育代／國府田マリ子　日野大悟／てらそままさき　日野げんき／白石涼子　司会者／白川周作　焼肉ダイナマイト／飯田利信　FUJIWARA藤本／藤本敏史（FUJIWARA）　FUJIWARA原西／原西孝幸（FUJIWARA）　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：小林雄次　原画：稲葉仁　松田千鶴　星川信芳　高橋任治　田中伸明　紅野華奈　赤田信人　芹田明雄　比留間崇　佐々木瞳　兼高里圭　小原広志　増田誠治　野澤隆　島崎望　渡邉貴子　福島英　廣中美佳　稲上晃　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　遠山麻理子　背景：斉藤優　戸杉奈津子　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶裕子　海老沼宏之　渡部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：八重樫逸郎　澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小沢匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ＡＢＣ）　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：狼谷暁己　作画監督：稲上晃　演出：森川直　岩井隆央

みんなの想い

第19話 パパ、ありがとう！ やよいのたからもの

▶パパの写真に名前の話をしてみるけれど……

▲子どものころの記憶は少しずつ薄れ……

▲大好きだったパパのことも……

◀お母さんが渡してくれたのはお父さんの「宝物」だった

名前が呼び覚ますパパとの記憶

自分の名前について調べる宿題が出た。どんな意味がこめられているのか。やよいは困ってしまった。名付けてくれたお父さんは、今は天国にいるからだ。そんなやよいにお母さんは、お父さんが大切にしていた「宝物」を渡してくれた。幼いころのやよいがパパにプレゼントしたものだ。そこへウルフルンが現れ、大切な宝物をアカンベェに変えてしまう！

アカンベェと戦いながら、やよいはパパとのことを思い出していく。「やよい」はやさしいお母さん「千春」と同じ春の名前だったことを。雷の力を集めるとき、いつもビクビクしてしまうピースだが、今日だけはパパとの思い出を胸に力強く耐えるのだった！

▲今日のピースはビリビリにも耐えてがんばった！

▲名前に残されていた、パパの愛の深さを思う

第20話 透明人間？ みゆきとあかねがミエナクナ〜ル！？

◀見えないのをいいことに遊ぶあかね

◀▲やよいが得意の筆で顔を描いてあげると、またブキミなことに

▲顔だけ見えないと超ブキミ

▲見えなくなって楽しそうなふたり

▲よりによって、この日はふたりとも宿題をしてきたのに！

マジョリーナの珍発明 今度はカメラ！

道でカメラを拾ったキャンディ。みゆきとあかねをパシャリと写すと、ふたりは透明人間に。カメラはマジョリーナが作った「ミエナクナ〜ル」だったのだ。みゆきは野球のキャッチャーマスク、あかねは剣道の防具でごまかし、なんとか授業に出るが、持ち物ごと消えてしまうため、ふたりにしては珍しく持ってきた宿題も先生には見えないのだった。

公園では、マジョリーナも透明人間になって悪さをしていた。ビックリ箱アカンベェまで透明だ。相手が見えず、苦戦するプリキュアたち。だが、ビューティの機転で、ビューティブリザードを吹きつけるとアカンベェの輪郭が現れ、浄化に成功したのだ。

▲同じ膝カックンをマジョリーナにやられちゃった！

【第20話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 佐々木先生／小野涼子 堀毛先生／神田みか 藤川あみ／中上育実 金本ひろこ／合田絵利 木角まゆみ／赤崎千夏 警官／白川周作 マジョリーナ／冨永みーな ウルフルン／志村知幸 アカンベェ／佐々木啓夫 ジョーカー／三ツ矢雄二 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：小林雄次 原画：なまためやすひろ 本吉悟 都司智一 深本泰永 安田陽子 大内賀美 野澤隆 比留間純 飯島秀一 完甘美也子 松田千織 渡邉真子 島崎望 小原広志 福島英 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：鷲崎博 本間薫 背景：猿谷勝己 戸杉奈津子 遠山麻理子 宮本里香 桜井理美子 ネリート・アクーニャ Toei Phils. デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 則友邦仁 花見早苗 佐伯美範 寺崎光喜 CGデザイナー：宮本浩史 小林真理 本岡宏紀 堀内美緒 米澤貴一 今泉歩 藤澤菜月 澤志織 猪野高史 髙詰史靖 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：田中雅史 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：三輪泰地朗 演技事務：小浜匡 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：斉藤優 作画監督：なまためやすひろ 演出：土田豊

今日のひかりんじゃんけん パー！

【第19話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 星空博司／関俊彦 日野大悟／てらそままさき 日野正子／雪野五月 黄瀬勇一／阪口周平 黄瀬千春／氷上恭子 緑川源次／神奈延年 青木皆太郎／西村知道 佐々木先生／小野涼子 ウルフルン／志村知幸 アカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：完甘美也子 原田節子 美馬健二 濱野裕一 永澤謙一 北田美弥子 大内賀美 比留間純 森下勇輝 松本和志 清水隆正 廣中美佳 荒川理恵 西村元秀 柳孝相 ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ ノエル・アンニョヌエボ ビクター・パラノン レジー・マナバット レム・バレンシア アリエス・ナリオ 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：渡部葉 佐藤美幸 飯野敏典 田中里緑 増田竜太郎 デザインオフィス・メカマン／上原里香 石原信明 Toei Phils. ルーベン・オレンセ デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 吉野和宏 石川晴彦 清水正道 CGデザイナー：宮本浩史 小林真理 さとうえい 中谷純也 林沙樹 金井弘樹 梶玲子 海老沼宏之 渡部高志 江本晴 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：伊藤聡何 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匡 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：西田渚 作画監督：上野ケン 演出：境宗久

今日のひかりんじゃんけん チョキ！

星にねがいを！みんなずーっと一緒!! 第21話

ジョーカーのねらいは？連れ去られたキャンディ

七夕の日、メルヘンランドからポップがやってきた。キュアデコルがあとひとつでそろうと、キャンディが知らせたのだ。早くメルヘンランドの女王様が復活できますように。みんなは思い思いの願いを短冊に書き、みゆきは星デコルを笹に飾った。

夜、流れ星がよく見える丘にみんなで集まった。そこにアカオーニが現れ、笹アカンベェで攻撃してくる。5人が力を合わせて浄化すると、アカンベェはキュアデコルに姿を変えた。ついにデコルがそろったのだ！

だが、ジョーカーはこの瞬間を待っていた。集めたデコルすべてとキャンディをさらい、不気味な笑いを残して消えてしまう！

▼▶笹飾りにはみんなの願いをこめた短冊が。もちろんキャンディも

◀ジョーカーはデコルがそろうのを待っていた!?

◀みゆきがなにげなく飾った星デコル

いちばん大切なものってなぁに？ 第22話

前に踏み出すために5人に必要なこと

星デコルがひとつ、七夕飾りに残されていた。希望はある。キャンディを救わなきゃ！ポップが乗ってきた本の中に入り、みゆきたちはひとまずメルヘンランドへと向かった。

だが、現れたジョーカーは圧倒的な強さ！最後の星デコルを奪われた上、言葉たくみに恐怖心を植えつけられ、5人は進めなくなってしまう。逃げてしまいたい、でも……みんなにはひとりになって考える時間が必要だった。

みゆきは思い出す。七夕の短冊に書かれたキャンディの願い。「みゆきたちとずっといっしょにあそぶくる」……キャンディを助けたい！その思いがどんどん強くなっていく。それは、5人全員の思いだった。

▼ひとりになって考える。それはプリキュアとして初めてのこと

▲ポップは叫んだ。妹を助けてほしいッ!!

◀約束の時間に戻ってきた5人は同じ決意を抱いていた！

▼▶ジョーカーに惑わされ、みゆきたちはバッドエナジーに包まれる

【第21話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん グー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　アカオーニ／岩崎ひろし　アカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：小林慶輝　岸祐弥　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　下村こずえ　白井奈緒子　阿民隆司　池田志乃　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：渡部葉　神山裕美　飯野敏典　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博暁　金子直広　東原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶玲子　海老沼宏之　渡部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：平野正和　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中里緑　作画監督：大谷房代　演出：門由利子

【第22話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん パー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：安彦英二　坂本千代子　山本翔　小林雅美　塩澤裕　小松英司　杉本幸子　山本祐子　荒川絵里香　中尾香奈美　伊藤真奈美　山田美香　丸岡功治　熊谷勝弘　森山剛史　田野光男　工藤千菜美　亀井健　上野卓志　梅津茜　平野絵美　仁井学　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香　石原信明　ミキミチヨ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本間宏紀　堀内美緒　米澤貴一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野貴史　高師史晴　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：仁井学　梅津茜　平野絵美　演出：田中裕太

第23話 ピエーロ復活！プリキュア絶体絶命!!

4人VS4人！プリキュア激闘!!

バッドエンド王国ではジョーカーと三幹部が待っていた。ハッピーをキャンディ救出に向かわせ、敵の4人に立ち向かうサニーたち4人。ジョーカーに痛めつけられ、アカオーニに圧倒され、それでもプリキュアはあきらめない。「私たちにできることを全部やらなきゃー!」。逆襲に転じた4人は敵を後退させていく。そしてついに、ハッピーはキャンディ救出に成功したのだ!

さらに、女王の声に導かれたプリキュアは、プリンセスフォームに変身。ペガサスの力を借りた「プリンセスキャンドル」を手に入れると、新しい合体技「プリキュア・レインボーバースト」でピエーロを撃退する!

▲皇帝ピエーロは完全復活目前！

▲4人の幹部せいぞろい！

▲とらわれの身のキャンディ

▶キャンディを抱きしめるハッピー！

▲ペガサスのパワーが、新しい技を与えてくれた！

▶ハッピーをキャンディのもとに行かせるため、4人は敵を引き受けた

第24話 プリキュアが妖精になっちゃった、みゆ〜!?

ピエーロは生きている!? 新たな戦いの予感

デコルを取り戻しても、女王様は復活しなかった。その謎をポップが調べる間、みゆきたちはメルヘンランドを案内してもらうことに。妖精に変身し、言葉の最後に「〜みゆ」や「〜やよ」をつけて、すっかりなりきり♥

一方、ピエーロは完全に消えてはいなかった。逆襲の時がくるまで、ジョーカーはデカっ鼻を3幹部に与えた。ウルフルンが作ったスーパーアカンベェは以前より強力だったが、プリンセスフォームで浄化。そして女王様はその力をペガサスに与えたために、復活できないことがわかった。もっとデコルを集めないと！　決意も新たなみゆきたちだった。

▲いまだ目覚めない女王様はでかかった！

◀みゆきは女王様の大きさにビックリ！

▲ジョーカーは新たな作戦を!?

▲メルヘンランドで妖精に変身♪

【第24話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん パー!

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ロイヤルクイーン／島本須美　ポップ／阪口大助　長靴ネコ妖精／野田順子　アラジン妖精／吉開清人　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　スーパーアカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　色指定：板坂泰江　背景：渡部葉　皆川真紀　飯野敏典　佐藤美幸　田中里緑　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博隆　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　本岡宏紀　堀内美緒　米澤真一　今泉歩　藤澤菜月　澤志織　猪野高史　髙師史靖　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：平野正和　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：三輪泰地朗　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：篤ミキ　作画監督：河野宏之　演出：芝田浩樹

【第23話】CAST&STAFF

今日のぴかりんじゃんけん チョキ!

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ロイヤルクイーン／島本須美　ポップ／阪口大助　ジョーカー／三ツ矢雄二　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　ピエーロ／玄田哲章　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：高橋任治　赤田信人　星川信芳　増田伸孝　上田恵未　池田早香　原田節子　完甘美也子　田中伸昭　三輪幸彦　山岡直子　青山充　増田誠治　濱野裕一　板岡錦　森下勇輝　岩野哲也　古川尚哉　石野聡　上野ケン　川村敏江　比留間帆　松田千織　深本泰永　北田美弥子　永澤謙一　大内智美　島崎望　渡邉真子　太田晃博　志田直俊　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　館崎博　背景：斉藤優　宮本里香　戸杉奈津子　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺﨑光貴　CGデザイナー：宮本浩史　小林真理　さとうえい　中谷純也　林沙樹　金井弘樹　梶玲子　海老沼宏之　渡部高志　江本靖　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡何　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：鎌谷隆己　作画監督：山岡直子　演出：大塚隆史

OP
OPを誌上で再現♪　ごく普通の中学2年生の少女たちが、プリキュアに変身、さらにプリンセスフォームへ。みゆき、あかね、やよい、なお、れいか、5人の成長していく姿を追いながら、みんなのスマイルがいっぱいはじけるハッピーなOPだ♪
1 第1話～第24話
2 第25話～第48話
バージョンアップポイント
後半が始まる第25話からOPの一部がバージョンアップ。終盤の鍵を握るペガサスのパワーで華麗に戦うプリキュアだ。カッコよさあふれるシーンに燃える！
MAIN STAFF
企画：西出将之（ABC）／三宅将典（ADK）／清水慎治
プロデューサー：松下洋子（ABC）／佐々木礼子（ADK）／梅澤淳稔／長谷川晶也
原作：東堂いづみ
連載／講談社「なかよし」
漫画・上北ふたご／「たのしい幼稚園」／「おともだち」ほか
シリーズ構成：米村正二
音楽：高梨康治
主題歌（OP）
「Let's go! スマイルプリキュア！」
作詞：六ツ見純代
作曲：高取ヒデアキ
編曲：籠島裕昌
うた：池田彩
主題歌（ED）
「イェイ！イェイ！イェイ！」
（第1話～第24話）
作詞：実ノ里
作曲：高取ヒデアキ
編曲：斎藤悠弥
うた：吉田仁美
「満開＊スマイル！」
（第25話～第48話）
作詞：六ツ見純代
作曲：高取ヒデアキ
編曲：籠島裕昌
うた：吉田仁美
マーベラスAQL
製作担当：額賀康彦
美術デザイン：増田竜太郎
色彩設計：佐久間ヨシ子
キャラクターデザイン：川村敏江
シリーズディレクター：大塚隆史
制作協力：東映
制作：ABC／ADK／東映アニメーション
54

ED
エンディングテーマ
振り付け
前田健
EDは前半と後半で2種類。全編CGで作られていて、振付師・前田健の振りつけが楽しい。また5人をひとりずつクローズアップする部分があり、その回に活躍したプリキュアがアップで見られる「お約束」アリ。
1
第1話
〜第24話
2
第25話
〜第48話

第25話 夏だ！海だ！あかねとなおの意地っ張り対決!!

あかねとなお体育会系の海の対決!?

今日から夏休み。行くあてのないみゆきは、海に来てほしいというあかねからの電話に飛びついた。待っていたのはお手伝い。お好み焼きの店を出したが、またあかねの父ちゃんがギックリ腰で人手がたりなかったのだ。ところが、隣ではなおが、おじさんに頼まれたかき氷の店をれいかと切り盛りしていた。張り合うあかねとなお。やよいも海のスケッチにやってきて、5人せいぞろい。そこへアカオーニが現れた。カキ氷スーパーアカンベェの攻撃を、サニーの炎とマーチの風をひとつにして浄化することができた。協力する大切さを知ったふたりは、お好み焼きとかき氷のセットメニューを考案するのだった。

▲波乗りアカオーニ参上！

▲海の家にプリキュア集合！

▼なおに負けてはいられない！あかねのコテ返しも絶好調！

▲こっちも負けずぎらい。なおも氷をけずりまくる！

第26話 夏祭り！夜空に咲く大きな大きな花！

お祭りの夜に意外な技の花も咲く

商店街の夏祭り。ゆかたで全員集合したみゆきたちは、夜店をのぞいて楽しい時を過ごす。れいかがおじいさま直伝の金魚すくいの技を披露すれば、なおは射的で景品をゲット。今日がお祭りデビューのキャンディは、自分の姿の飴細工を作ってもらって大喜びだ。そこへマジョリーナが現れ、お祭りを台無しにしようとする。変身したプリキュアは、お祭りスーパーアカンベェをプリンセスフォームで浄化、楽しい夜を取り戻した。最後のメインイベントは打ち上げ花火だ。夜空にお花が咲いてるクル！ その美しさに、見とれるキャンディだった。

▲あめ好きなマジョリーナもリンゴあめでお祭りを楽しむ!?

▲浴衣の柄がそれぞれ違い、みんなお似合い♪

▲おじいさま直伝のスナップを効かせた技！

▲なおは射的の腕もなかなかのもの

▲一番楽しんでいたのはキャンディかも。ソックリの飴細工をゲット♪

第27話 夏のふしぎ!? おばあちゃんのたからもの

ウルフルンに最大の難敵現る!?

みゆきのおばあちゃんの家に、みんなで遊びにやってきた。田舎の一軒家にひとり暮らし。心配する両親に頼まれ、みゆきはおばあちゃんに一緒に暮らそうと言いにきたのだ。でもおばあちゃんは、ここには宝物があるので離れられないと言う。夏バテぎみのウルフルンが来るが、おばあちゃんからはバッドエナジーを吸い取れず、不思議がる。蚊遣り豚スーパーアカンベェを暴れさせるものの、山の彼方から一陣の突風が吹いたり、水の中から足を引っ張る者がいたり、何かがプリキュアに力を貸してくれて、ウルフルンを撃退した。山のみんながお礼を言っているよ、おばあちゃんはそう言うのだった。

▲おばあちゃんの家の野菜は手作りだ

チョキ!

【第25話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 日野正子／雪野五月 なおの伯父／大林洋平 レポーター／赤崎千夏 女性客／合田絵利 子ども／中上育実 アカオーニ／岩崎ひろし スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：山田由香 原画：青山充 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 吉野和宏 石川晴彦 清水正道 CGデザイナー：牧野快 小泉正行 高橋友彦 竹中佑城 梶裕子 渡辺ゆたか 中谷純也 猪野貴史 高師史靖 江本靖 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：伊藤聡何 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：行信三 作画監督：青山充 演出：三塚雅人

パー!

【第26話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 輪投げ屋／樋口智透 射的屋／吉開清人 マジョリーナ／冨永みーな スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：小林雄次 原画：松本和志 清水降正 荒川理恵 廣中美佳 高阪雅基 深本泰永 藤井曜 星川信芳 芹田明雄 永島英樹 大内智美 比留間朋 安田陽子 小原広志 福島史士 北田美弥子 完甘美也子 松田千織 金子美紀 野澤隆 豊田桂祐 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：本間薫 鷲崎博 背景：猿谷勝己 戸杉奈津子 宮本里香 Toei Phils. エルウィン・サディア デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 財友邦仁 花見早苗 佐伯晃範 寺崎光直 CGデザイナー：小林真理 澤志織 藤澤菜月 宮澤孝介 佐々木嘉久 林春香 升井秀光 さとうえい 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：田中雅史 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：斉藤優 作画監督：小島彰 演出：森川聡 岩井隆央

パー!

佐
子 福井
道子 山口博睦 金
子直広 夏原弘成 CGデザイナー：牧野快 小林真理 小泉正行 高橋友彦 竹中佑城 梶裕子 渡辺ゆたか 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：伊藤聡何 製作進行：中村明博 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：渡部葉 作画監督：稲上晃 演出：境宗久

夏休み

◀こっちは全然怖くない。目がキラリン♪

▲怪談などが苦手なのは、このふたり

第28話 ウソ？ホント？おばけなんかこわくない！

恐怖！学校の怪談 一番の怖がりは誰？

夏休みの登校日、教室でなおが悲鳴をあげていた。あかねややよいにおばけの話を聞かされていたのだ。なおやみゆきは怪談系が苦手。この際、ふたりのおばけぎらいを克服しようというあかねの提案で、学校で〝出る〟とウワサになっている場所を回ることに。音楽室、理科室、ビビりまくりのみゆきとなお。そして、絵が動くとウワサの美術室に入ると、本当に絵が動く!?

マジョリーナのしわざだ。マジョリーナはいつもと違って若い。それも怪談!? 分身の術や巨大な学校スーパーアカンベェで攻撃してくるが、プリキュアは校舎の大きさを逆手にとって浄化に成功した。

▶美術室に出たのは右の美女。いつもの姿は左

◀若くてきれいな魔女さんの正体がマジョリーナと知って、納得がいかない表情

▲生徒会に届くウワサを検証することに

第29話 プリキュアがゲームニスイコマレ～ル!?

ゲーム世界では絶対無敵のみゆきたち!?

夏休み最後の日、道で拾ったサイコロをみゆきが振ると、5人は不思議な遊園地へと吸い込まれた。サイコロの正体はマジョリーナが作った「ゲームニスイコマレ～ル」。三幹部と対戦し制限時間内に勝たなければ、ゲーム世界から出られなくなってしまうのだ。モグラ叩きはハッピーが、ボウリングはピースがと、みんなでゲームをクリアしていく。だが最後のゲームで、宿題が終わらず補習を受ける幻影を見せられてしまい、れいか以外の4人は急激に落ち込んでしまう。キャンディとビューティの力でゲーム世界を抜け出すが、4人を補習が待っていた。幻が現実になったのだ……。

▶ゲームの世界で待っていた三幹部

▶モグラ叩きで、ハッピー快勝!

▶ボウリングが得意だったピース。息巻く!

◀補習を受ける4人のすがるような視線が!

▲れいかはアカンベェと水泳対決に

◀れいかとキャンディが教室をのぞくと……

▶バッドエンド王国は暑いらしい。クールな自分を妄想し、涼もうとするウルフルン

▲家の裏の祠には「山のみんな」のお礼の品が！

▲おばあちゃんにウルフルンの攻撃はきかない

▲みゆきについてきた4人も田舎で楽しく

今日のひかりんじゃんけん チョキ！

【第29話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 佐々木先生／小野涼子 マジョリーナ／冨永みーな アカオーニ／岩崎ひろし ウルフルン／志村知幸 スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：成田良美 原画：田中伸昭 原田節子 稲葉仁 完甘美也子 福島史士 増田誠治 森下勇輝 辻智子 堀田陽子 古池宗 中川理恵 上野ケン 星川信芳 永澤謙一 大内智美 渡邉貴子 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：鷲崎博 本間薫 背景：斉藤優 Toei Phils. ルーベン・オレンセ デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 剣友邦仁 花見早苗 佐伯英範 寺崎光喜 CGデザイナー：牧野快 小林真理 小泉正行 高橋友彦 竹中佑城 梶裕子 渡辺ゆたか 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：伊藤聡司 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：猪谷勝己 作画監督：上野ケン 演出：土田豊

今日のひかりんじゃんけん グー！

【第28話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 佐々木先生／小野涼子 マジョリーナ／冨永みーな スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ ノエル・アンニョヌエボ ビクター・パラノン レジー・マナバット レム・バレンシア アリエス・ナリオ 星川信芳 本吉悟 都司智一 色指定：板坂泰江 背景：デザインオフィス・メカマン／高橋英次 上原里香 ミキミチヨ 鈴木祥太 邱文美 デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 吉野和宏 石川晴彦 清水正道 CGデザイナー：牧野快 小林真理 澤志織 藤澤菜月 宮澤孝介 佐々木嘉久 升井秀光 さとうえい 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：田中雅史 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：田中美紀 作画監督：フランシス・カネダ アリエス・ナリオ 演出：佐々木憲世 広嶋秀樹

【第27話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 星空タエ／松尾佳子 ウルフルン／志村知幸 スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：成田良美 原画：高橋任治 松田千織 冨木由美子 兼森里圭 佐伯哲也 新井達朗 川口愽徳 濱野裕一 星川信芳 森島浩一 丸山正彦 北田美弥子 西村元秀 河村信道 深本泰永 稲上晃 完甘美也子 矢ケ崎美恵 福島英 渡邉貴子 直井千春 高木さくら 大内智美 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：行信三 田中里緑 神山裕美 佐藤美幸 飯野敏典 増田竜太郎 篤ミキ Toei Phils. ネリート・アクーニャ デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美↗

第30話 本の扉で世界一周大旅行!!

アマゾン川で伝説の戦士が人魚に？

ふしぎ図書館に集まったみゆきたちは、本棚を使って世界旅行へ。思い思いの場所を順番に回っていく。万里の長城、台湾での食べ歩き、ニューヨークでは自由の女神を見て、最後はアマゾン川にもやってきた。するとアカオーニが現れ、ピラニアをスーパーアカンベェに変えて襲ってきた。キャンディが飲み込まれ、助けようにも水の中では思うように戦えない。ところが、キャンディがデコルを使い、プリキュアたちを人魚にすると形勢逆転。プリンセスフォームで浄化できたのだった。

そして手に入れたデコルが、最後に残った2個だったのだ。これで女王様が復活する!? デコルケースにセットすると、現れたのは……！

▶ふしぎ図書館の本棚から世界へ出発〜！

▲アマゾン川で記念撮影すれば変なモノが！

▲最後のデコルをセットすると……！

▶マーメイドになってキャンディ救出に！

第31話 ロイヤルクロックとキャンディの秘密!!

ロイヤルクロック出現 キャンディがねらわれた！

光の中から現れたのは、ロイヤルクロック。クロックに呼びかけると、ロイヤルクイーン様の声が聞こえてきた。女王様は、ロイヤルクロックが本当の力を発揮するには、プリキュアとキャンディ自身がさらなる力に目覚める必要があるという。キャンディにも何か秘密がありそうだ。町にはウルフルンが現れ、黒っ鼻を使った強力なハイパーアカンベェで挑んできた。シヨベルカーハイパーアカンベェに手も足も出ないプリキュアたち。プリキュアが戦っているスキに、ジョーカーはキャンディを怠け玉に閉じ込めてしまう。みゆきの声が聞こえ、キャンディは戻ってくるが、今度はみゆき以外の4人が怠け玉に閉じ込められて……。

▲羽のはえた時計のようなものに話しかけると……

▲ロイヤルクイーン様の話を聞くことができた！

▲キャンディを救おうとして、ハッピーが倒れてしまった！

◀ジョーカーはキャンディを怠け玉に

▲▶ハッピーの声に、怠け玉のキャンディは……

第32話 心を一つに！プリキュアの新たなる力!!

◀みゆきは怠け玉の世界に飛び込んだ

▲そこには、まったりと怠ける4人がいて……

▲◀みゆきも、みんなも、キャンディのことを忘れてしまう

【第30話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 アカオーニ／岩崎ひろし スーパーアカンベェ／佐々木啓夫 ジョーカー／三ツ矢雄二 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：山田由香 原画：青山充 色指定：板坂泰江 背景：田中里緑 渡部葉 西田渚 皆川真紀 佐藤美幸 牟田いずみ 増田竜太郎 Toei Phils. グレース・トーラー デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 山口博睦 金子直広 夏原弘成 CGデザイナー：牧野快 小林真理 澤志織 藤澤菜月 宮澤孝介 佐々木嘉久 升井秀光 さとうえい 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演助進行：中村明博 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：萬ミキ 作画監督：青山充 演出：芝田浩樹

【第31話】CAST&STAFF

●CAST 星空みゆき／福圓美里 日野あかね／田野アサミ 黄瀬やよい／金元寿子 緑川なお／井上麻里奈 青木れいか／西村ちなみ キャンディ／大谷育江 ロイヤルクイーン／島本須美 ポップ／阪口大助 妖精／合田絵利 妖精／赤崎千夏 妖精／津田美波 マジョリーナ／冨永みーな アカオーニ／岩崎ひろし ウルフルン／志村知幸 ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫 ジョーカー／三ツ矢雄二 協力：東映東京撮影所 ●STAFF 脚本：米村正二 原画：河野宏之 永島英樹 藤井孝博 赤田信人 色指定：板坂泰江 背景レイアウト：下川忠海 背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香 鈴木祥太 あくつみちよ Toei Phils. エルウィン・サディア デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和 緒方美佐子 福井道子 吉野和宏 石川晴彦 清水正道 CGデザイナー：牧野快 小林真理 小泉正行 高橋友彦 竹中佑城 梶玲子 渡辺ゆたか 編集：麻生芳弘 録音：川崎公敬 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 製作進行：太田有紀 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：田中美紀 作画監督：河野宏之 演出：佐々木憲世 三塚雅人

↘美佐子 則友邦仁 花見早苗 佐伯英範 寺崎光嘉 CGデザイナー：牧野快 小林真理 澤志織 藤澤菜月 宮澤孝介 佐々木嘉久 升井秀光 さとうえい 編集：麻生芳弘 録音：林奈緒美 音響効果：石野貴久 選曲：水野さやか 記録：沢井尚子 録音スタジオ：タバック オンライン編集：東映デジタルラボ 音楽協力：東映アニメーション音楽出版 演出助手：田中雅史 製作進行：澤守洸 美術進行：西牧正人 仕上進行：村上昌裕 CG進行：高橋裕哉 演技事務：小浜匠 アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC） 宣伝：多田香奈子（ABC） 美術：斉藤優 作画監督：なまためやすひろ 演出：志田直俊 岩井隆央

キャンディの秘密と…

▼ひとりでおいしいところを持っていったポップ！

▲妖怪女郎蜘蛛とくの一の対決。やっぱり張り合うふたり

第33話 映画村で時代劇でござる!?の巻！

みんなで映画に出演！プリキュアが女優に!?

時代劇映画村を見学するみゆきたち。侍が大好きなポップもやってきた。すると、みゆきたちを見つけた映画監督から出演依頼が！　みんな大興奮で、みゆきは町娘、やよいは団子屋の看板娘、なおはくの一、れいかはお姫様、あかねはなぜか妖怪女郎蜘蛛役に扮し、はちゃめちゃに撮影は進行する。そこへアカオーニが現れ、カメラ型ハイパーアカンベェで攻撃してきた。プリキュアのピンチに、キャンディがソウデコルを使い、水に弱い機械の弱点を突いて浄化した。そして映画の完成試写会。みんな楽しみにしていたが、映っていたのは侍役のポップだけだった……。

▲れいかはお姫様役

▲みゆきは町娘、やよいはだんご屋の娘

キャンディも加わりロイヤルクロック発動！

4人を救うため、みゆきは怠け玉の中に飛び込んでいくが、どんどんやる気をなくしてしまう。キャンディが駆けつけ、必死にみゆきに語りかけると、ようやく我に返る。だが、ジョーカーのローラーコースターアカンベェの猛攻にハッピーは倒れ、助けようとしたキャンディも！　それでも、仲間を心配するみゆきとキャンディの思いはあかねたちに伝わっていた。目覚めた4人はプリキュアに変身。キャンディのパワーも重なり、ロイヤルクロックの本当の力が発動！　5人は新技「プリキュア・ロイヤルレインボーバースト」を放つのだった。

▶▼5人の力にキャンディの力を重ね、みんなの新技発動！

第34話 一致団結！文化祭でミラクルファッションショー!!

みんなで準備するから文化祭は楽しい！

文化祭が近づき、2年2組ではみゆきが提案した絵本の国のファッションショーをやることになった。多数決でみんなで選んだ演目だけれど、バンドをやりたかったクラスメイトの豊島はガッカリ。準備にも顔を出さない。みんなでやるから準備も楽しいのに。みゆきたちは何度も誘うが、豊島はかたくなだ。そんなときマジョリーナが現れ、ギター型ハイパーアカンベェで攻撃してきた。騒音攻撃に苦戦するハッピーたちだが、なんとか浄化することができた。豊島も反省し、やっと全員参加。豊島のバンドの演奏に合わせたショーは、大成功だった。

▲豊島くんも、いっしょにやろうよ！

▲念願のバンドができて豊島もハッピー！

▲クラスで楽しめてみんなもハッピー！

▲みゆきは大好きなシンデレラの衣装で

【第34話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　豊島ひでかず／皆川純子　野川けんじ／飯田利信　木村さとし／白川周作　柏本まゆか／藤井ゆきよ　金本ひろこ／合田絵利　岡田まゆ／赤﨑千夏　尾ノ後きよみ／津田美波　宗本しんや／長門三照　マジョリーナ／冨永みーな　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：佐々木なふみ　原画：星川信芳　増田伸孝　上田恵未　池田早香　田中伸昭　芹田明雄　永澤謙一　北田美弥子　西村元秀　川瀬和香子　藤城香奈　冨木由美子　矢ヶ崎美恵　福島英　鈴木理沙　野澤隆　高木さくら　小山直子　紅野華奈　丸山匡彦　直井千春　渡邉貴子　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香　石原信明　ミキミチヨ　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：田中雅史　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：山岡直子　演出：門由利子

【第33話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　深澤監督／高木渉　青鬼／樋口智透　町娘／赤﨑千夏　カラス天狗／吉開清人　アカオーニ／岩崎ひろし　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：小林雄次　原画：小林慶輝　岸祐弥　阿院隆司　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　池田志乃　下村こず恵　白井奈緒子　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：行信三　神山裕美　篁ミキ　西田渚　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博穀　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶怜子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡司　製作進行：中村明博　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　協力：東映太秦映画村　美術：田中里緑　作画監督：大谷房代　演出：山口祐司　芝田浩樹

【第32話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　佐々木先生／小野涼子　ジョーカー／三ツ矢雄二　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：なまためやすひろ　本吉悟　郡司智一　福島史士　完甘美也子　小原広志　原田節子　大内智美　丸山匡彦　三輪幸彦　安田陽子　嶋崎望　高木さくら　生水勇気　紅野華奈　福島英　小島彰　濱野裕一　比留間照明　深本泰永　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：韜崎博　本間薫　背景：猿谷勝己　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方↗

第35話 やよい、地球を守れ！プリキュアがロボニナ〜ル!?

プリキュアたちが巨大ロボットを操縦！

やよいの大好きなアニメ「鉄人戦士ロボッター」のおもちゃが発売になり、みんなも付き合って買いに行く。男の子はみんなロボット好き。ウルフルンとアカオーニも、おもちゃを買いにやってきた。そこにマジョリーナが現れ「ロボニナ〜ル」を使うが、光線がまちがってハッピーに命中。巨大ハッピーロボが出現してしまう。

中に入って操縦するプリキュアの性格によって、独自の動きをするハッピーロボ。ウルフルンとアカオーニが操縦する巨大ロボ型のハイパーアカンベェを相手に苦戦するが、ロボット大図鑑を一度読んだだけで、その内容をすべて頭に入れていたビューティの操縦で、次第に敵を圧倒していくのだった！

▲なおが操縦すると一直線に走る！

◀ふたりは悪役ロボット好き

◀光線の狙いが外れ……

▲最後には華麗な光の翼まで披露した

▲れいかの操縦するハッピーロボはクールで的確な動き

第36話 熱血!? あかねの初恋人生!!

あかねの変化に浮足立つやよいたち

イギリスから短期留学の転校生ブライアンがやってきた。最初に出会い、面倒を見るあかね。ブライアンの話ばかりするあかねに、やよいは、それが「恋」だと言う。やよいたちが「シンデレラ作戦」と名付けたおせっかいを実行するも、あかねの告白にはいたらなかった。ブライアンが帰国する日、見送りの輪にあかねはいない。そのころ、ウルフルンとハイパーアカンベェが暴れ、サニーは戦っていた。浄化すると、あかねは空港に走った。やっぱりちゃんと思いを伝えたかったのだ。みんなに助けられ、空港に駆けつけたあかね。そして言えた「サンキュー」、「おおきに」。ふたりにはそれで十分だった。

▶あかねの行動に浮足立つ4人。とくに耳年増系のやよいのこの視線！

▲▶お好み焼きで日本文化を紹介した仲だ

▲空港で、ブライアンはあかねを待っていた

▲あかねのほほの泥をふいてくれたブライアン

第37話 れいかの悩み！清き心と清き一票!!

バッドエンド王国三幹部生徒会長選挙に出馬!?

次期生徒会長選挙が近づき、みゆきたちはれいかこそ適任だと考えた。だが、みんなに道を示せない自分には無理だと言うれいか。そんなとき、ヤンキーな3人組の転校生がやってきて、いきなり生徒会長選挙に出馬宣言。3人の選挙公約は生徒に大人気だ。「宿題をなくす」「お菓子を授業中に食べてもいい」「ゲームや漫画の持ち込み自由」。だが3人の正体は「ニンゲンニナ〜ル」のワッペンで変装した三幹部だった。その後、ハイパーアカンベェとともにプリキュアに敗れたあとも、ウルフルンは選挙に参加。だが、れいかの真摯な言葉が生徒たちの心を打ち、ウルフルンの野望は実現しなかった。

▲急きょ立候補を決意するれいか

【第35話】CAST&STAFF

今日のひかりんじゃんけん チョキ！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　タケル／田村睦心　ロボッター／星野貴紀　ウルブッター／江川央生　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木誠夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：清水隆正　松本和志　荒川理恵　廣中美佳　高阪雅基　太田晃博　高橋任治　大内智美　田中伸明　宍甘美也子　及川あずさ　斎藤みどり　大張正己　渡部圭祐　小井戸まりん　石野聡　杉江敏治　大塚健　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶玲子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡司　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：猿谷勝己　作画監督：小島彩　演出：大塚健　大塚隆史

【第36話】CAST&STAFF

今日のひかりんじゃんけん グー！

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ブライアン／柿原徹也　佐々木先生／小野涼子　女／赤﨑千夏　男／吉開清人　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木誠夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：星川信芳　原田節子　宍甘美也子　丸山匠彦　稲上晃　河野宏之　藤井瞳　矢ヶ崎美恵　福島英　渡邉貴子　松田千鶴　永澤謙一　比留間朋　須崎かおる　稲上浩子　太田晃博　色指定：板坂泰江　背景：神山裕美　平井純　田中里緑　牟田いずみ　増田竜太郎　デザインオフィス・メカマン／田中美紀　鈴木祥太　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：中村明博　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：篁三千　作画監督：稲上晃　演出：田中裕太

今日のひかりんじゃんけん パー！

↘裕紀子　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶玲子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：伊藤聡司　鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ABC）　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田尻健一　作画監督：フランシス・カネダ　アリエス・ナリオ　演出：土田豊

▲▶心も体も子どもになってしまった5人とウルフルン、アカオーニ。やることすべてが幼い

▼変身もとってもかわいく、頼りない！

▲子どもピースはじゃんけんの発想もかわいい

ハッスルなお！ プリキュアがコドモニナ〜ル!? 第38話

マジョリーナさがしも電車ごっこで♪

公園にいたみゆきたちのところに、空からビンが落ちてきた。中の液体をあびたみゆきたちは、なんと小さな子どもになってしまう。マジョリーナのしわざだ！　元に戻してもらうためマジョリーナをさがすが、電車ごっこをしながらさがしだす始末。心まで幼くなってしまった。

そこへ、マジョリーナがハイパーアカンベェで攻撃してきた。5人は子どものままプリキュアに変身。チビキュアの登場だ！　技もパワーもかわいらしい。そしてマーチの機転で、ハイパーアカンベェを鬼ごっこでかく乱。「モトニモド〜ル」も手にいれて、元のサイズに。アカンベェも浄化することができた。

どうなっちゃうの!? みゆきのはちゃめちゃシンデレラ!! 第39話

▲シンデレラをダンスに誘う王子様

あかねとなおに引かれシンデレラはお城へ！

学校の図書館で見つけた本の中に、みゆきが吸い込まれてしまった。それは「はじまりのシンデレラ」。世界中の「シンデレラ物語」とつながっていて、この本がバッドエンドになれば世界中の絵本の結末も変わってしまうのだ。それを知った三幹部も本の中へ。キャンディみんなも集まり、本の中でおかしなシンデレラ物語がくりひろげられていく。シンデレラはみゆき、王子様はれいか。あかねとなおは馬役にガッカリ。そこへガラス靴アカンベェが出現。5人はプリキュアに変身しようとするが、みゆき以外はスマイルパクトを忘れてきて大苦戦。それでも最後は、ちょっと変わったハッピーエンドをむかえるのだった。

▶やよいは魔法使い。ガラスの靴見つけた！

◀なんで馬なの……。色で誰かがわかる

ごめんあそばせ〜！

▲みゆきは憧れのシンデレラとなってお城へ

▲いじわるなお姉様たち……

▲「はじまりのシンデレラ」の世界に入ってしまったみゆき

▲すてきな公約をひっさげて、どこからともなくやってきた3候補

▲ウサンくさい公約に、このふたりは目がキラリン……

【第39話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　アカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：田中伸昭　原田節子　完甘美也子　福島史士　河村信道　上野ケン　原画：美馬健二　小林慶輝　伊藤智子　大谷房代　下村こず恵　白井奈緒子　野澤隆　西村元秀　深本泰永　永澤謙一　大内智美　北田美弥子　比留間昭　渡邉貴子　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　背景：田中里緑　飯野敏典　佐藤美幸　篝ミキ　西田渚　佐藤千恵　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶裕子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：渡部葉　作画監督：上野ケン　演出：三塚雅人

【第38話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　緑川源次／神奈延年　緑川とも子／高橋里枝　緑川けいた／寺崎裕香　緑川はる／赤崎千夏　緑川ひな／藤井ゆきよ　緑川ゆうた／中上育実　緑川こうた／疋田涼子　警官／白川周作　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　大田謙治　増田誠治　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鱸崎博　背景：本間薫　猿谷勝己　戸杉奈津子　板井理英子　遠山麻理子　宮本里香　Toei Phils.　エルウィン・サディア　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演助進行：中村明博　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　アシスタントプロデューサー：北村文美（ＡＢＣ）　宣伝：多田香奈子（ＡＢＣ）　美術：斉藤優　作画監督：河野宏之　演出：芝田浩樹

【第37話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　寺田るな／赤崎千夏　本田あや／中上育実　生徒／吉開清人　生徒／飯田利信　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：小林雄次　原画：ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・バラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　星川信芳　飯島秀一　福島史士　矢ヶ崎美恵　福島英　小原広志　兼高里圭　稲葉仁　本吉晴　郡司智一　冨木由美子　比留間昭　是本晶　色指定：板坂泰江　背景：ムクオスタジオ／石田高子　工藤彰代　小松奈津子　中村圭　中根崇仁　一瀬あかね　村田裕斗　上垣↗

第40話 熱血！あかねの宝さがし人生!!

▲うれしくてみゆきに抱きつくあかね

◀お守りを縫ってくれたみゆきの指には！

◀これがウチの宝物や！大事にする！

バレーよりお好み焼きより大切なものを見つけた！

校内芸術コンクールのテーマは「私の宝物」。だが、あかねには思いつくものがない。バレーボールもお好み焼きも大好きだけど、宝物とは違う気がした。ある日、試合の近いあかねのために、みゆきたちがお守りを作ってきてくれた。これがウチの宝物や！　感激するあかね。だが、試合に向かう途中、ウルフルンがバレーボールアカンベェ2号で攻撃。戦うサニーだが、お守りを壊されてしまう。さらにウルフルンはハッピーを攻撃するつもりだ。友達を失うかもしれないと思った瞬間、サニーは本当の宝物に気づいた。これまでにないパワーがみなぎり、新技「サニーファイヤーバーニング」でウルフルンを圧倒するのだった。

▲以前にも増すパワーがサニーにみなぎる！

▲大切なお守りがボロボロに壊されてしまう

▲ウルフルンは、今回は最初からサニーを狙っていた！

▲明日、試合だというあかねのために！

第41話 私がマンガ家!?　やよいがえがく将来の夢!!

▲形から漫画家に入ってみたものの

ミラクルピースはひとりでやり抜くヒロイン

やよいは漫画の新人賞に応募してみることにした。やよいの描く漫画『ミラクルピース』はひとりでやりぬくヒロインが主役。みゆきたちの手伝いも断り、自分でがんばろうと決意する。でも、なかなか進まない。大切な原稿にインクをこぼしてしまい、捨ててしまおうかとも迷う。そこにアカオーニが現れ、漫画をハイパーアカンベェに変えて攻撃してきた。ピースはミラクルピースを思い、あきらめずに立ち向かう。するとパワーがみなぎり、新しい決め技「ピースサンダーハリケーン」で、アカンベェを撃退したのだ。そして、『ミラクルピース』も無事に完成した。

▲あきらめずに、ひとりでがんばる！

◀今まで以上の迫力！　ピースはパワーアップした

▲▶自分で考えたヒロインのようにやよいはなりたい

第42話 守りぬけ！なおと家族のたいせつな絆!!

弟たちの前で変身するなおプリキュアの秘密が……！

なおに、新しい家族ができることになった。おかあちゃんの入院中、なおがおかあちゃん代わりだ。今日はみんなが大好きなおかあちゃんカレーにしよう。だが、欠かせないリンゴを買い忘れてしまう。なおの役に立とうとだまってリンゴを買いに出たひなとゆうたは、マジョリーナに捕まってしまう。弟たちの前で変身するしかないなお。毒リンゴオリハイパーアカンベェの攻撃から弟たちを守りたい！　そう思った瞬間パワーがみなぎり、新しい決め技「マーチシュートインパクト」が炸裂する！

弟たちはお姉ちゃんの変身を夢だと思ってくれた。そして無事新しい妹が家族に加わった。

▶マジョリーナに捕まってしまった弟たち

◀弟たちの前で変身してもいいのかなおは迷う

今日のひかりんじゃんけん　チョキ！

【第40話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　日野正子／雪野五月　佐々木先生／小野涼子　町内会長／金子由之　豊島ひでかず／皆川純子　木村さとし／白川周作　尾ノ後きよみ／津田美波　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：佐々木なふみ　原画：なまためやすひろ　本吉悟　郡司智一　飯島秀一　丸山匡彦　上田恵未　池田早香　増田伸孝　紅野華奈　比留間明　板岡錦　松浦仁美　神谷智大　増田誠治　杉江敏治　古川知宏　西口智也　森下勇輝　安田陽子　小原広志　高橋任治　鈴木理沙　熊岡利治　深本泰永　渡邉寛子　島崎望　北田美弥子　大内智美　直井千春　永澤謙一　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香　石原信明　鈴木祥太　三浦智　手嶋直子　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：なまためやすひろ　演出：佐々木憲世　岩井隆央

【第41話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　佐々木先生／小野涼子　野川けんじ／飯田利信　井上せいじ／樋口智透　アカオーニ／岩崎ひろし　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　脚本：小林雄次　原画：星川信芳　松田千鶴　上野ケン　完甘美也子　田中伸昭　芹田明雄　小松こずえ　深本泰永　河村信道　原田節子　高橋任治　福島史士　森島浩一　矢ヶ崎美恵　福島英　永澤謙一　比留間明　渡邉寛子　小原広志　島崎望　大内智美　曽根崎由祈　直井千春　北田美弥子　高木さくら　新井達郎　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：斉藤優　Toei Phils．グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　財友邦仁　花見早苗　佐伯英範　寺崎光喜　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶裕子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演助進行：中村明博　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：猿谷勝己　作画監督：山岡直子　演出：境宗久

↘　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：篠ミキ　作画監督：大谷房代　演出：門由利子　三塚雅人

第43話 れいかの道！私、留学します!!

ジョーカーの心理攻撃にれいか最大のピンチ！

れいかのイギリス留学が決まった。中学生でひとりだけ選ばれるのは名誉なこと。だが、れいかは思う。私がいなくなったらプリキュアはどうなるのだろう。みゆきたちはそんなれいかを心配させないように、努めて明るくふるまう。そんなとき、れいかの前にジョーカーが現れハイパーアカンベェで攻撃してきた。しかも、れいかの迷いを知ると、心理攻撃を加え、れいかの変身は解けてしまう。プリキュア4人が駆けつけるが、4人はれいかと別れたくないと泣きだす始末。れいかも本当は行きたくないのだ。本心を打ち明け迷いの消えたれいかは、今まで以上のパワーで新しい決め技「ビューティブリザードアロー」を放つ！

▲心の迷いに、ジョーカーが入り込んできた

▲誰も引き止めてくれない、れいかはちょっと寂しい!?

▲みんな本心はれいかと別れたくなかった

▲本当は、私も行きたくないんです！

たいせつなもの

▲ジョーカーは知性派ビューティには心理戦

◀迷いをはらったビューティーはより強く！

第44話 笑顔のひみつ！みゆき本当のウルトラハッピー!!

みゆきに笑顔をくれた不思議な少女の思い出

みゆきには不思議な記憶があった。子どものころ、引っ込み思案だったみゆきにおばあちゃんが手鏡をくれた。ある日、その鏡に映った少女とみゆきは友達になった。楽しく遊んだ日々。「笑って」とその子の声に背中を押され、みゆきは子どもたちの輪に入っていく。すると、少女は現れなくなったのだ。そして今、町にはウルフルンが現れ、ハイパーアカンベェで攻撃してきた。ハッピーは大苦戦。でも少女に教えてもらったように、みんなと笑顔でハッピーになりたい。その強い思いがみゆきを支えた。そしてついに、新しい決め技「ハッピーシャワーシャイニング」を炸裂させるハッピーだった。

▶子どもの頃は引っ込み思案だったみゆき

◀おばあちゃんがくれた鏡に、何かが映った

▶それはいつも笑顔の不思議な少女だった

▶「笑って」と少女は言ったように聞こえた

◀ウルトラハッピーを探してパワーアップ！

◀友達ができると少女はいなくなってしまう

▶今のみゆきからは想像できない過去……

▲今まで以上の力強さを見せたマーチ！

▲無事だった弟たちを抱きしめ涙がこぼれた

▲◀新しい家族は「ゆい」と名付けられた

【第44話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　星空タエ／松尾佳子　ゆら／赤﨑千夏　さちこ／西野陽子　ひとみ／合田絵利　みちこ／津田美波　森の少女／今井由香　ウルフルン／志村知幸　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：河野宏之　永島英樹　藤井孝博　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：本間薫　鷲崎博　背景：猿谷勝己　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯美範　寺崎光喜　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：中村明博　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：斉藤優　作画監督：河野宏之　演出：土田豊　岩井隆央

【第43話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　青木曾太郎／西村知道　青木静子／篠原恵美　青木淳之介／吉開清人　佐々木先生／小野涼子　ジョーカー　三ツ矢雄二　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：赤田信人　清水隆正　飯島秀一　大内智美　永澤謙一　松本和志　廣中美佳　北田美弥子　板岡錦　仲條久美　渡辺浩二　中村純子　美馬健二　桑原幹根　斉藤拓也　紅野華奈　原田節子　野澤陵　荒川理恵　西村元秀　高阪雅基　冨木由美子　渡邉貴子　深本泰永　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　下川健次郎　背景：佐藤美幸　佐藤千恵　牟田いずみ　萬ミキ　とんぼスタジオ　山下千歌　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶怜子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小浜匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中里緑　作画監督：小島彰　演出：田中裕太

【第42話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　緑川源次／神奈延年　緑川とも子／高橋里枝　緑川けいた／寺崎裕香　緑川はる／赤﨑千夏　緑川ひな／藤井ゆきよ　緑川ゆうた／中上育実　緑川こうた／疋田涼子　マジョリーナ／冨永みーな　ハイパーアカンベェ／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：山田由香　原画：小林慶輝　川口幸治　阿部隆司　岸祐弥　大河内忍　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　池田志乃　下村こず恵　白井奈緒子　色指定：板坂泰江　背景：飯野敏典　渡部葉　田中里緑　牟田いずみ　Toei Phils.　ネリート・アクーニャ↗

▲バッドエナジーに包まれ、最凶となった三幹部

▶闇のエナジーをまとって

▼サニーとピースが合体技を！

▼ビューティとマーチも力を合わせ！

▼ハッピーのやさしさが三幹部たちの心を包む

第45話 終わりの始まり！プリキュア対三幹部!!

バッドエンドの三幹部は妖精さんだった!?

謎の隕石が地球に接近。時を同じくして、キャンディが石に姿を変えてしまった。ポップはそれをミラクルジュエルと呼び、謎の隕石はピエーロの卵だという。

バッドエンドの三幹部がプリキュアの前に現れた。後がない3人は黒っ鼻と同化して凶悪な姿に変貌した。プリキュアの決め技「プリキュア・レインボーバースト」と三幹部の悪の技「バッドエンドバースト」の激突！　だが、三幹部の悲しい過去を知ったハッピーは、友達になろうと語りかける。やさしさにいやされた三幹部の体から悪い心が抜け、3人は元の妖精に戻っていく。だが、ジョーカーはその3つの悪い心とキュアデコルを合体させて、驚くべきものを誕生させていた！

◀キャンティが姿を変えたミラクルジュエル

▲ハッピーにいやされ、3人は元の妖精の姿に！

第46話 最悪の結末!?バッドエンドプリキュア!!

キャンディは次期女王様だった！

ジョーカーが作りだしたのはバッドエンドプリキュア！　プリキュアたちにそっくりで、悪の心を持つ5人。彼女たちは、悩むことも迷うこともない戦うマシーンだった。自分ソックリの敵と戦うことになり、プリキュアたちは混乱してしまう。

その頃、ジョーカーが狙うミラクルジュエルを、ポップが必死に守っていた。そこへロイヤルクイーンが現れ、その秘密を明かしてくれた。ミラクルジュエルとは、女王の卵のこと。キャンディは次期女王様だった。だが、その姿はまだ見えない。バッドエンドプリキュアとプリキュアの激闘は続き、プリキュアが勝利。だが、ついにピエーロが完全復活。ジョーカーを吸収して巨大な姿を現した！

▲ジャマ者は踏みつぶす！

▲自分だけがハッピーならいい

▲美しいものだけがあればいいの

▲世界中を焼き尽くしたる！

▲バッドな5人をボー然と見つめるポップ

▲うその涙が大得意

【第46話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ロイヤルクイーン／島本須美　ポップ／阪口大助　ジョーカー／三ツ矢雄二　絶望の巨人／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：なまためやすひろ　本吉偵　郡司酷一　飯島秀一　伊藤智子　野津美智子　大谷房代　池田志乃　下村こず恵　白井奈緒子　紅野華奈　藤井龍　河野宏之　永島英樹　藤井孝博　高橋任治　三輪幸彦　鈴木勇　安田陽子　西村元秀　小原広志　北田美弥子　永澤謙一　比留間桐　星川信芳　完甘美也子　生水勇気　長屋誠志　稲熊一晃　高木さくら　渡邉貴子　島崎望　及川あずさ　中川理恵　斎藤みどり　多嘉良敦　色指定：板坂泰江　背景：デザインオフィス・メカマン／上原里香　石原信明　鈴木祥太　邱文美　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　吉野和宏　石川晴彦　清水正道　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志織　藤澤栄月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：澤守洸　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小渕匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：田中美紀　作画監督：なまためやすひろ　演出：三塚雅人

【第45話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　マジョリーナ／冨永みーな　アカオーニ／岩崎ひろし　ウルフルン／志村知幸　バッドエナジー／佐々木啓夫　ジョーカー／三ツ矢雄二　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：ポール・アンニョヌエボ　フランシス・カネダ　ノエル・アンニョヌエボ　ビクター・バラノン　レジー・マナバット　レム・バレンシア　アリエス・ナリオ　星川信芳　西位輝実　兼高里圭　完甘美也子　松田千鶴　森下勇輝　田中伸明　赤田信人　増田誠治　高木さくら　紅野華奈　佐藤麻紀子　本吉偵　渡邉貴子　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：下川忠海　下川健次郎　背景：佐藤千恵　飯野敏典　田中里緑　とんぼスタジオ　山下千歌　Toei Phils.　グレース・トーラー　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑紘　梶怜子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　演出助手：鈴木裕介　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小渕匠　宣伝：多田香奈子（ABC）　美術：渡部葉　作画監督：フランシス・カネダ　アリエス・ナリオ　演出：芝田浩樹

今日のひかりんじゃんけん
チョキ！

決戦！

▲美しく生まれかわったロイヤルキャンディ

▲▶闇の中に聞こえてきたのはキャンディの声。それは希望の光

▶プリキュアはピエーロの絶望の闇に沈む

第47話 最強ピエーロ降臨！あきらめない力と希望の光!!

ロイヤルキャンディ誕生 未来は真っ白な本の中に

ついに復活したピエーロ。その姿はメルヘンランドを襲った絶望の巨人そのものだ。

一方ミラクルジュエルから、キャンディが美しく姿を変えた新女王ロイヤルキャンディが誕生した。そしてロイヤルクイーンは真っ白なプリキュアの本をプリキュアたちに託すと、消えていってしまった。未来は自分たちの手で作るもの。女王様からのメッセージを受け取ったプリキュアとキャンディは、プリキュアの白い本を守り抜こうと決意する。だがその本を、ピエーロが黒く染めようとしている。未来をかけた戦いが始まった！　絶望の巨人を必死にくい止めるキャンディ。絶望の闇からはいあがるプリキュア。そして5人はウルトラプリキュアへと姿を変えた！

▶皇帝ピエーロはエナジーを吸収、姿を変えていく！

◀▲キャンディのおかげでウルトラプリキュア誕生！

◀みゆきたちの心に再び勇気が芽生える

◀必死に励ますキャンディ。その涙に……

第48話 光輝く未来へ！届け！最高のスマイル!!

伝説の戦士プリキュア 最後の変身！

プリキュアたちは「プリキュア・ウルトラレインボーバースト」で立ち向かっていく。だがピエーロはあまりにも強大だ。はね返されたショックで変身が解け、スマイルパクトは力を失ってしまう。ポップはもう一度だけパクトの力を借りることができるというが、その力を使えば、現実社会とメルヘンランドのつながりは絶たれ、みゆきたちとキャンディは二度と会えなくなってしまうのだ。でも、どんなにつらくても前に進まなければならない。みゆきたちは最後の力でウルトラプリキュアに変身。ロイヤルキャンディとともに「プリキュア・ミラクルレインボーバースト」でピエーロの闇を消し去っていく。そして、キャンディとの別れの時が……！

◀ウルトラプリキュアは力強く復活！

▲5人の力を合わせ、最後の戦いへ！

▲やりとげるんだからぁ～!!

◀スマイルパクトが力を失い、みゆきたちは落ち込んでしまう

Smile!!

▲ハッピーたちの戦いは、笑顔で幕を閉じたのだった

▲しりぞけられるピエーロ

【第48話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ポップ／阪口大助　マジョリン／冨永みーな　オニニン／岩崎ひろし　ウルルン／志村知幸　ピエーロ／玄田哲章　バッドエナジー／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：米村正二　原画：星川信芳　兼高里圭　大内智美　永澤謙一　深本泰永　渡邊貴子　鈴木理沙　山岡直子　井野真理恵　西口智也　川元まりこ　西位輝実　杉江敏治　板岡錦　古川知宏　郡司智一　本吉晃　馬場充子　紅野華奈　生水勇気　飯飼友里恵　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　背景：猿谷勝己　宮本里香　板井理美子　Toei Phils.　ルーベン・オレンセ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　福井道子　山口博睦　金子直広　夏原弘成　CGデザイナー：牧野快　小林真理　澤志風　藤澤菜月　宮澤孝介　佐々木嘉久　升井秀光　さとうえい　編集：麻生芳弘　録音：林奈緒美　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：太田有紀　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小沢匠　宣伝：岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　美術：斉藤優　作画監督：山岡直子　演出：大塚隆史

【第47話】CAST&STAFF

●CAST　星空みゆき／福圓美里　日野あかね／田野アサミ　黄瀬やよい／金元寿子　緑川なお／井上麻里奈　青木れいか／西村ちなみ　キャンディ／大谷育江　ロイヤルクイーン／島本須美　ポップ／阪口大助　ピエーロ／玄田哲章　絶望の巨人／佐々木啓夫　協力：東映東京撮影所　●STAFF　脚本：成田良美　原画：清水隆正　田中伸昭　比留間崇　福島史士　丸山匡彦　芹田明雄　冨木由美子　野澤隆　松田千織　完甘美也子　北田美弥子　稲熊一晃　楢崎朝子　上久保聡美　上野ケン　志田直俊　桑原幹根　石野聡　曽原淡路　舘直樹　増田誠治　小井戸まりん　杉藤さゆり　中村真由美　増田伸孝　森下勇輝　小原広志　生水勇気　新井達郎　川口侑徳　竹内広幸　古市佳祐　古家陽子　Kim Taek Yong　Choi Mi Ja　Zhang Yao　Ge Lin　Lin De　Hu Fengcheng　Zhang Ya　色指定：板坂泰江　背景レイアウト：鷲崎博　本間薫　下川忠海　背景：Toei Phils.　ネリート・アクーニャ　デジタル撮影：三晃プロダクション／白鳥友和　緒方美佐子　則友邦仁　花見早苗　佐伯美範　寺嶋光喜　CGデザイナー：牧野快　小林真理　小泉正行　高橋友彦　竹中佑城　梶玲子　渡辺ゆたか　編集：麻生芳弘　録音：川崎公敬　音響効果：石野貴久　選曲：水野さやか　記録：沢井尚子　録音スタジオ：タバック　オンライン編集：東映デジタルラボ　音楽協力：東映アニメーション音楽出版　製作進行：柏倉幸恵　美術進行：西牧正人　仕上進行：村上昌裕　CG進行：高橋裕哉　演技事務：小沢匠　宣伝：岸本拓磨（ABC）　多田香奈子（ABC）　美術：猿谷勝己　作画監督：上野ケン　演出：志田直俊　黒田成美

PLAY BACK!!

2012年10月に公開された『スマイルプリキュア!』の単独映画をふりかえります♪

▲いろいろな物語が混ざった世界は楽しそうに見えたが……

◀みゆきは幼いころ、最後のページが破り捨てられた絵本を拾い、その続きを描くと約束していた

▶絵本の主人公となり、絵本の世界を楽しんでいたら、正義の味方のはずの主人公たちに襲われて……

◀悪者になった絵本の主人公たちは、絵本の物語をさらにめちゃくちゃにしようとする!

▲ミラクルつばさライトの力で、ハッピーはウルトラハッピーへ変身!

▲プリキュアたちは魔王を倒し、絵本の世界を平和にできるのか?

大好きな絵本の世界でプリキュアたちがおとぎ話の主人公に変身!?

●2012年10月27日公開
●Blu-ray&DVDは2013年3月20日発売。発売元：マーベラスAQL、販売元：TCエンタテインメント。Blu-ray特装版：7,980円、DVD特装版：5,985円、DVD通常版：4,935円（各税込）

http://www.precure-movie.com/
http://www.toei.co.jp/movie/details/1198032_951.html

■STAFF　監督／黒田成美　脚本／米村正二　キャラクターデザイン／川村敏江、小松こずえ　作画監督／小松こずえ　美術設定／増田竜太郎　美術監督／佐藤千恵　色彩設定／秋元由紀　制作担当／額賀康彦　アニメーション制作／東映アニメーション　テーマソング／Remi「きみという未来」

世界中の絵本が集まるという大イベント「世界の絵本博覧会」にやってきたみゆきたち。そこで出会った不思議な少女・ニコちゃんから、いろんなおとぎ話の世界がひとつになった絵本の世界へと招待される。それぞれがおとぎ話の主人公になって絵本の世界を楽しんでいたものの、そこは物語が入り乱れてチグハグになってしまっていた！しかも、その世界にはハッピーエンドもバッドエンドもなく、みゆきたちは絵本から抜け出せなくなってしまう……。

絵本の主人公になりたいというみゆきたちの夢をかなえつつ、絵本の主人公たちが悪者になるという怖さ、そして約束を守ることの大切さを描いた本作。3月20日にはBlu-ray&DVDが発売されるので、そちらでもみゆきたちの活躍をチェックしよう！

ニコ表情集
ニコ
（声／林原めぐみ）
みゆきが幼いころ拾った絵本の主人公。幼いみゆきと結んだ約束が守られなかったため、魔王に追われ続け、みゆきと笑顔をきらうように。
▶みゆきが拾った絵本は、主人公のニコが笑顔のきらいな魔王に連れ去られてしまう物語
魔王
ニコをそそのかしてみゆきを憎ませ、その憎悪の力を利用。絵本の世界を「終わりのない世界」にしようとしていた。
▲魔王の本来の姿。普段はニコの影に潜む
一寸法師のあかね
一寸法師姿になっているが、身長は普段と同じ。つまようじの刀を腰に差して、りりしく決める。
灰かぶりのみゆき
絵本の世界で灰かぶり姿に。お城に招待されることを夢見る。
桃太郎のれいか
陣羽織の下には前鎧を着けている。手甲を身につけ、刀は腰に。力強く鬼退治!?
浦島太郎のなお
釣り竿とカゴを持って、これから海へ。腰みのはスカートのようにふわっとしている。
孫悟空のやよい
頭につけた“キンコジ”はカチューシャ風になっているので、痛くない？
5歳のみゆき
Message from
梅澤淳稔プロデューサー
本作のテーマは、“ハッピーエンドとはなんなのか”。人は必ず負の感情を持っているものですから、映画ではみゆきにも「絵本をそのままにした」という負い目を持たせました。そのマイナスな状態で、“ハッピー”とは、力をあわせるとはなんなのかということを浮きほりにできたら、と考え制作しました。
▲羽パフと羽キュアデコルでウルトラハッピーに変身する
ウルトラハッピー
ミラクルつばさライトから笑顔の力を得て変身。TV版とは翼や光の輪の形が異なる。

Cast Interview 1

ポジティブに笑顔でいることの素敵さを学びました

プリキュア5人にお話いっぱい聞きました！

福圓美里

キュアハッピー／星空みゆき

Profile
【ふくえん・みさと】
1月10日生まれ。東京都出身。主なアニメの出演作品は、『ストライクウィッチーズ』シリーズ（宮藤芳佳役）など。演劇ユニット「クロジ」のメンバーとして舞台でも活躍中。

どこか遠い世界のように感じていた『プリキュア』

――『プリキュア』シリーズのオーディションは、前作の『スイートプリキュア♪』から受けられていたそうですね。

そうなんです。『ハートキャッチプリキュア！』が放送されていた当時、出演していた舞台で「プリキュア」に出たい！」というセリフがあって。「プリキュア」には憧れていたので、そのセリフを思いっきり悔しがって言ったら、マネジャーが「そんなに出たいのか」と（笑）。「出たいです！」と答えたらオーディションが受けられるように調整してくれて。だから、受かったときには「言霊ってあるんだなぁ」と感じました。

でも、そのときは、毎年恒例行事みたいにオーディションを受けていって、いつかどこかでポッと引っかかったらいいなと思うくらい、『プリキュア』は遠い世界の作品なんだと感じていました。

――それが、合格の報をもらって。

私は元々ピース／やよいでオーディションを受けたんですが、会場にはほかのキャラクターのイラストも貼ってあって。それを見ながら「私、みゆきじゃないのかな」って感じたんです。でも、みゆきは5人の中では一応センターなので、そんなところを狙うのはおこがましくて（笑）。それなのに、見れば見るほど自分が演じるキャラのような気がしてきていたところに、「みゆきも演じてみてください」って言われて、すごいチャンスだと思いました。それでも合格するとは思っていなくて。「オーディション楽しかったなぁ」という感想だったので、決まったときには純粋にビックリしました。

――シリーズはもう9年目で、子どもたちに人気ですが、ハッピー／みゆき役が決まってプレッシャーはありましたか？

最初はひたすら喜んで、浮かれていたんですが（笑）、いざ収録が始まってみると、プレッシャーの連続でした。

実はオーディションを受けた当時は、元気で明るい女の子の役を演じることは少なかったんです。どちらかというとおとなしい子や、奇抜な子が多かったので、役に対しての不慣れさがあり、決め技を叫ぶような作品にもあまり参加していなかったので決まり事もわからず……。しかも、一応センターなんだから、私が引っ張っていかなきゃという気負いもあり。でもそういうの苦手だし……とか考え過ぎてしまって、最初は苦しかったですね。

――それが解消されたのは？

『映画プリキュアオールスターズNew Stage みらいのともだち』のアフレコが終わって、春くらいだったかな。映画の収録で歴代のプリキュアの皆さんが息をピッタリ合わせているのに、『スマイル』チームはできなくて。悔しくて泣いたりもしたんですが、ある日、「みゆきはしっかりした子じゃないし、周りのキャスト（声優）さんがしっかりした方が多いから、みんなに助けてもらおう」って思って。『スマイル』は「みんなで力をあわせて頑張る」というテーマの作品で、ひとりだけ肩肘張っているのは違うんじゃないかと気づいたんです。私はアフレコ現場では、しっかり見られたい、できる子だと思われたいという意識が強かったんですが、素を出していこうと思うようになったらみゆきともシンクロする部分がたくさん出てきて、肩の力が抜けましたね。お茶を持って歩いているだけなのに、（田野）アサミちゃんから「転ぶ！」とか言われて心配されちゃうくらいになりました（笑）。

みゆきはがむしゃらで一生懸命な女の子

――みゆきは主人公にしては、かなりドジなキャラクターでしたよね。

元気で猪突猛進、がむしゃらで一生懸命で、とにかく表情豊かでしたね。変身後の着地で顔から地面に落ちたり、みんながまじめに戦っているのにひとりだけドジ全開なギャグ担当になることもありました（笑）。でも、1年間演じてみて、ただ明るく前向きなだけじゃなく、繊細な部分もあって親近感が増しました。

――明るく、繊細な面がありつつも、芯はしっかりしていましたね。

土壇場での意思の固め方は早いですね。22話で、キャンディを助けたら家族にもう会えなくなるかもしれないとわかっていても、一番早くキャンディを助けるっていう決断をする。最初の戦いでは逃げちゃったくらいに気は弱いんですが（笑）、それでもネガティブな部分はできるだけ人に見せないようにと頑張る。そんな彼女にはひかれましたし、いろんなことを教わりました。

――そんなみゆきのセリフで特に印象に残っているものは？

45、46話に登場したバッドエンドハッピーに対して、「ネガティブな私、どいて――！」と言ったところです。バッドエンドプリキュアの正体が自分たちの負の感情だという説明は一切されていないのに、みゆきは、自分には弱いところや悪い部分があるというのをわかっているんだなぁと感じたセリフでしたね。

みゆきのセリフではありませんが、『映画スマイルプリキュア！ 絵本の中はみんなチグハグ！』で、あかねが言った「だって、うちみゆきのこと好きやもん」っていうセリフに泣くかと思いました。アサミちゃんがセリフを言ったとき、私は後ろで座っていたんですが、まるで自分に言われているみたいにも聞こえて、思わずじわっときました。

セリフ以外だと、作品中での「希望」というもののとらえ方が秀逸だなとずっと思っていて。私は、空や自然から少なからず希望をもらっていると思っているんです。だから、ピエーロがまず空を封じちゃうのがすごく怖くて。希望がなくなった彼女たちの心が折れかけてしまうというのもすごくリアルで。

でも、そんな中で「スマイル」は、人と人の絆のような、目には見えないものにも希望はあると描いている。それは目に見えないから消すことはできないし、どちらかが死んでしまったとしても、絆や思い出はなくなることはない。誰がどうあってもその希望をつぶすことはできないということを表現していたことが、とても素晴らしいなと感じました。

――全48話の中で、印象的だったエピソードありますか？

31話では、ハッピーがひとりで途中まで戦ったのですが、孤独感と同時にみんなが帰ってきてくれたことが心からうれしかったと今でも覚えています。あと、オンエアを見ていて一番白熱したのは43話です。れいかが「私はプリキュアをやめるとは言っていません」って強気になってからの戦いの派手さがすごくて。スポットライトが現れてからアローを撃つまでの流れが完璧で、何回も巻き戻して見ちゃいました（笑）。

この話数というのではないんですが、2012年は私、すごく遊んだと思っているんですよ。でも、実際には全然遊びには行けていない（笑）。みゆきたちが、おばあちゃんの家に行ったり、みんなで花火を見たり、クリスマスや七夕のような行事ごともたくさんやってくれたから、それを体感している気分になっていて、もう楽しかったなぁって。時代劇の撮影や母の日、あかねの初恋の応援……。それをみんなでできたことが、まるで自分で体験したことのように残っています。

アフレコ現場はまるで部活のよう!?

――アフレコ現場はいかがでしたか？

あるスタッフさんからは「部活みたいだ」って言われました。最初こそみんな遠慮があったんですが、慣れてくるにつれて14歳の女の子の集まりみたいになってしまって。年齢はみんなバラバラだし、（西村）ちなみさんや（大谷）育江さんは先輩なんですが、気がつけば一緒になってきゃっきゃと騒いでしまっていました。先輩に対する礼儀や気遣いは大事ですが、それよりも先輩たちがちょっとでも楽しいと思ってくれるやりとりができたなら、少しぐらい騒いでもいいんじゃないかなって発見ができました。

――大塚シリーズディレクター（SD）はサプライズがお好きだったとか。

そうそう、5人それぞれがメインの回があるんですが、そのアフレコのときには、いつもメインの子のTシャツを着てくるんですよ。でも、さらにその下にピースのシャツを着ているというオチがあって（笑）。ピースの抱き枕が発売されたときには、それを抱えた写真がメールで送られてきました。なので、「ピースがお好きなんですよね」って返事をしたら、わざとらしくハッピーの抱き枕を抱えた写真と「僕はハッピー一筋ですよ」ってメールが。ウソっぽいってみんなで言っていました（笑）。でも、そうやって話しやすい雰囲気を大塚SDが作ってくださったから、私たちはアフレコ中に意見や考えを言えたので、とても感謝しています。

――福圓さんとみゆきには、『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』で、後輩プリキュアができました。

はい、いかに先輩風を吹かせようか考えています。ウソです（笑）。『ドキドキ！プリキュア』の相田マナちゃんは、猪突猛進で元気だと聞いていて、みゆきと同族かと思っていたら、実はしっかり者の生徒会長だということを知り。みゆきとはまったく違うタイプだったので軽くショックでしたが（笑）、プリキュアとしての実績はみゆきのほうが上だという思いで頑張りました！

1年間、ずっとハッピーでいられた

――1年間終わってみての感想を教えてください。

キャンディが実はメルヘンランドの次期女王様で、みんなの後をくっついていた子がロイヤルキャンディとなってはっきりしゃべり始めた瞬間は、成長したな……って泣けました。ロイヤルクイーン様を演じられた島本須美さんの慈愛に満ちあふれたお芝居には感動しましたし、今でも励まされます。鎌倉の大仏や大船観音を見かけたときには、あの大きさと雰囲気から、ロイヤルクイーン様を思い出すようになりました（笑）。

――1年間で、自分は成長したなと感じられることはありましたか？

私は、アニメはスタッフさんがキャラクターのほとんどを作るものだと思っているんです。声優はキャラクターとイコールのように取り上げられがちですが、最後に声を入れているだけ。でも、1年もやっていると、自分の気持ちがキャラクターに反映されたり、キャラクターが自分に返ってきたりする部分もあって、アフレコ本番以外でも少しでもみゆきに近づけるように、明るくふるまえるようになったのは、自分自身の成長だと思います。

1週間に1回ハッピーをやらなくなって、久しぶりに福圓美里に戻ったなぁと感じていて。あぁ、私、ちゃんと1年間ハッピーでいられたんだって、改めて思っています。ハッピーがいたから、あの1年はいつもよりも笑っていられたし、ポジティブでいられたんだなって。今は少し離れた距離にいる気がするんですが、彼女といた1年を忘れないように、トイレに『スマイル』のポスターを貼りました！　いやなことがあっても、彼女たちの顔を見て頑張ろうと思っています。

それから、私は子どものころ、TVアニメ『姫ちゃんのリボン』が大好きだったんですね。なので、姫ちゃんを演じていた育江さんと共演できたことがとてもうれしかったです。20年後には自分も育江さんのように、『プリキュア』を好きだったという人と共演したいですね。

――では、応援してきてくれたファンに向けてメッセージをお願いします！

1年間応援してくださって、本当にありがとうございます。ハッピー／みゆきというキャラクターを通して希望を届けることができたのは、本当にうれしいです。私自身は、少しシニカルに物事を見るクセがあって、それが今まではいいことだと思っていたのですが、ハッピー／みゆきを演じたことでまっすぐにポジティブに、そして笑顔でいることの素敵さを学びました。『プリキュア』を通して、子どもたちと触れ合う機会にも恵まれました。子どもに伝えたいメッセージが『プリキュア』にはたくさんつまっているので、いつか子どもが産まれたら一緒にDVDを観るのが私の夢です。今お子さんがいない方もいつかその日が来たら、一緒に観てほしいなと思っています。

To 福圓美里様

泥臭い、かっこよすぎないヒロインを、厭味なく演じられる福圓ちゃんの「気合いだ気合いだ気合いだー！」が、私は大好きでした。みゆきのキャンディに対する想いが心地よくて、愛されてるなぁーって、いつもこっそり幸せになっていました。

From
キャンディ役 大谷育江

1年間ずっと緊張とドキドキのあふれた現場でした

田野アサミ

キュアサニー／日野あかね

Profile
【たの・あさみ】
2月12日生まれ。兵庫県出身。主なアニメの出演作品は、「トリコ」（リン役）、「獣旋バトルモンスーノ」（ビッキー役）など。雑誌のレギュラーモデルやドラマなどでも活躍中。

サニーとの出会いは運命だった

——田野さんは兵庫県出身ということもあって、とてもサニー／あかねに近い雰囲気がありますね。

ありがとうございます！　実は自分で言うのもなんですが、オーディションのときに、「自分はあかねじゃないかな」って感じたんですよ。最初は別のキャラクターで受けていたんですが、いただいた資料であかねが関西弁をしゃべることや髪形がショートカットだっていうのがわかって。私、中学生のころはショートカットだったんです。もう、これは運命だろうと感じて、お願いしてあかねも受けさせていただいて。だから、あかねに決まったと連絡をもらったときには「きーっ!!」と本気で叫んじゃいました（笑）。何より、サニーが初めて変身した日が私自身の誕生日だったことに、運命を感じました！

——関西弁のプリキュアはシリーズを通しても初めてですよね。

私は、関西弁はすごくあったかい言葉だと思っているんですよ。でも、ニュアンス次第では上からで強い感じにもとられてしまう。そう思われないようにするためにどうしたらいいんだろうということは、同じ関西出身である大塚SDと納得いくまで話をさせてもらいました。その結果、結構温かみの感じられる話し方にできたかなと思っているんですが、どうでしょう？

——あかねの懐の深さが伝わってきましたよ！　ところで、「プリキュア」は人気のシリーズですが、出演するにあたり、プレッシャーはありましたか？

もちろんありました！　私はまだ声優経験が浅いので、周りの方に迷惑をかけるんじゃないかという不安もありましたし、何より私が子どものころ『美少女戦士セーラームーン』を観てセーラームーンに憧れたように、今の子どもたちの中にも「スマイルプリキュア！」を見て「プリキュアになりたい」と思う子がいるんだとしたら、責任重大だなと。でも、「あかねを絶対自分のものにしてやる」くらいの気持ちでいかないと自分に負けてしまいそうだったので、気合いを入れました！

——気合いを入れてのぞまれたあかねという役ですが、彼女の第一印象は？

5人の中で最初に走り出すタイプだろうなと。あかねは考えていないわけではないですが、れいかたちが動き出すよりも4歩くらい先を行っている雰囲気のある子でしたね。友達思いで情熱的な子というのは、オレンジという色のイメージもあるんでしょうが、そのまんまだなと。

最初の頃、あかねの笑い方を「にしし」っていう感じにしたことがあるんですよ。それは私が感じたあかねのイメージで、彼女はこう笑うだろうと思ったので自分からそう演じてみたんですが、特にNGと言われることもなく。その後のアフレコで「・にしし・笑いをお願いします」と言われたときに、「よしっ！」って思って（笑）。自分が感じたあかねのイメージは間違っていなかったんだなと思いました。

——あかねは強い女の子というイメージがありますが、プリキュアになってからは、ときには弱音を吐くようにもなりましたよね。

そうなんですよ！　あかねは彼女自身も転校生なんですが、屈託のない性格ですから、クラスのみんなとはすぐ仲よくなったと思うんですね。でも、誰か特定の人と深く仲がよかったわけではなくて、人に弱音を吐いたりできない子だったんじゃないかなと。ひとりで解決したり、「うちは大丈夫やし」とか言ったりするような。それが、人前で泣けるようになったのもプリキュアになったおかげだと思うので、プリキュアになったことでものすごく成長したと思います。

みんながあかねに向かってきてくれたことがうれしかった

——48話の中で、特に印象的だったエピソードはありますか？

とにかくたくさんありますね……。あかねがメインではない回だと、18話の運動会ですね。この頃にはアフレコが進んだこともあって、現場にはすごく一体感があったんです。なおが転ぶ瞬間は、みんなが息をのんでしまって、そういう意味でも忘れられない回です。

あかねがメインの回だと、36話。ブライアンを見送るためにあかねが空港に向かうとき、れいかがお財布を持ってきてくれて、なおがバスを止めてくれて、やよいが地図を描き、キャンディを前かごに乗せて、みゆきが自転車をこいできてくれる。それまでは、サニーに対してみんなが向かってきてくれることはあっても、変身前のあかねに対してというのは、ほとんどなかったと思うんです。それが、あかねに集まってきてくれるというのが感動的で泣きそうになりました。

ブライアンに対するほのかな恋のお話でもあるかもしれませんが、一方で友達の愛も感じられた素敵なエピソードだなと感じています。ずっと髪をしばっていたあかねが、ふりほどいて走って行く姿にはキュンとしました。もう、私が恋した気分になりました（笑）。

——サニーは4歩先を走るキャラクターということでしたが、状況によってはきちんと考えて行動もしますよね。

15話はその雰囲気が強いですね！　この話数は私にとって「サニーはこうあるべき」と確信した回なんです。言葉で説

明するのは難しいんですが、手作りのネックレスをウルフルンに壊されたハッピーを見て、いつもなら怒りで行動しちゃうサニーが、冷静に怒っている。ハッピーの手に手を置きながら、ウルフルンに向かって「それ、返してんか」というセリフでは、本当に手が震えてしまって。サニーはどんな気持ちで戦っているのかがつかめたような気がしました。

アフレコは“初めて”がいっぱい！

——アフレコ現場はいつもにぎやかで楽しかったそうですね。

面白かったですよ！　でも、初めてのアフレコは緊張しすぎてかなりパニックになっていました（笑）。何しろ経験が少ないので、ベテランの皆さんからいろんなことを吸収しようと必死すぎて。1話のアフレコのときは、自分の心臓の音がマイクに入るんじゃないかというくらいバクバクいっていましたね。

——その緊張感は、緩和されましたか？

実はしていないんですよ（笑）。結局最終回のアフレコまで、ずっと緊張しっぱなしだった気がします。でも、その緊張はいやなものではなくて、スタジオに向かう階段を下りていく足取りはいつもウキウキしていて。今日はどんな発見ができるんだろう、みんなに早く会いたいから30分前に行っちゃおうかなとか、とても気持ちのいいドキドキを感じさせてもらいました。

——アフレコ現場で印象的だった出来事はありますか？

変わったルールがある、とても面白い現場だったことですね。夜の7時を過ぎると、英語しか話してはいけない「イングリッシュタイム」というのが始まったり（笑）、スタッフさんやキャスト（声優）の皆さんの誕生日には、サプライズでプレゼントを用意したり。

そういえば、長い収録期間の中ではプリキュア5人の中で誰かが別録りになることもあったんですが、戦闘シーンで4人しかいないと、なんだかしっくりこなくなりました。私は1回だけ別録りの予定があって、でもギリギリで間に合ったんですね。もう本番を録りますというところだったんですが、4人が「アサミちゃんはいける。だから一緒にやろう」って言ってくれて、マイクも調整してくれて、ぶっつけ本番でのぞんだのですが、本当にうまくいきました。そのときのあうんの呼吸は、シリーズの最初のころにはできなかったと思うし、このメンバーで本当によかったと感じた出来事でした。

——今回のプリキュアは、子どもになったりバッドエンドプリキュアが登場したりと、演じ分けが必要な部分も多かったと思います。

子どもを演じることも、悪役を演じることも初めてのことだったので、すごくいい経験をさせていただいたと思います。皆さんに教えてもらったり、皆さんの演技を参考にしながらのぞんだのですが、意外に楽しくやれました。38話で子どもになったとき、みんなで「ガタンゴト～ン」と電車ごっこをしたのもいい思い出です（笑）。

バッドエンドサニーもノリノリで演じましたよ。それまでは怖いと思われるような関西弁は封印してきたのですが、バッドエンドサニーはめちゃくちゃ怖がられるような関西弁でいきましょうということになり、最初はセリフが全部共通語だったのを、監督が関西弁に直してくださって、掛け合いをこうしましょうとか、話し合っていろいろ決めましたね。声も低めに作りましたし、そういう意味で普段のサニーとはまるで違うキャラクターになったので、むしろ切り替えはしやすかったです。

あかねは子どものころの夢をかなえてくれた

——最終回が終わって、終わっちゃったなぁという気持ちはありますか？

最終回のアフレコが終わって、スタッフさんやキャストの皆さんに挨拶をするときは、終わっちゃうんだな、さみしいなという気持ちはありました。でも、自分としてはサニーとして、日野あかねとして全力を出し切れた気持ちではあるので、卒業式のような感じで、次へのステップだと思っています。テレビの放送は終わっても、みゆきたちはこの先もあの世界で生き続けているんだと思えば、さみしくはないですよね。

何より、キャストのみんなとは、しょっちゅうメールのやりとりをしているんですよ。アフレコがあった曜日には、なぜかメールをしまくる習慣ができています。私はみんなにメールをするときに「お疲れサニー」って送るんですが、それに対して（西村）ちなみさんが「お疲れいか」って返してきたり、（井上）麻里奈ちゃんが「お疲れさマーチ」って送ってきたり（笑）。こうやってアフレコが終わっても関係は続いていくというのがうれしいです。

——1年間終わっての感想は？

1年間は長い期間ではありましたが、全部の話数に出ることができたことがうれしくて。私、48冊台本持っているんですよ！（笑）もう、本当に宝物です。

それから、私、子どものころからメリーポピンズみたいに傘で空を飛びたいっていう夢があったんですね。小学生のときに母親の傘を借りて台風の日に外に出てさしたら飛ばされて、ケガはするわ傘は壊すわですごく怒られましたけど（笑）。それから透明人間にもなりたかったんです。その夢をあかねがかなえてくれて、自分のことのように幸せでした！

サニーとして、あかねとして、この1年間を生きてこられたことは、すごく幸せだったと思いますし、永遠に終わることなくあの世界が続いていくんだと思えることがただただうれしいですね。

——最後に、1年間応援してくれたファンに向けて、メッセージをお願いします。

『スマイルプリキュア！』を通して、私自身もたくさんの笑顔に出会えました。何かひとつのシーンでもいいので、『スマイル』を観たことで、明日も頑張ろうと感じていただけていればうれしいです。ハッピーやサニーみたいになりたいと思ってくれている子がいれば、サニーとしてはウルトラハッピーなので、これからも笑顔を忘れずにスマイルで過ごしていってください！

大好きやで♥

▶田野さんの台本。最終回の台本には、出演キャストのサインが入っている

To 田野アサミ様

スゴく前向きで周りの人を明るくしてしまう皆のムードメーカー、太陽のようなアサミちゃん、型にはまらない、荒削りな感情むき出しのお芝居は、思春期の女の子そのものの存在感でした。

From
キャンディ役 大谷育江

子どもたちの応援が力になることを感じました

キュアピース／黄瀬やよい

Profile
【かねもと・ひさこ】
12月16日生まれ。岡山県出身。主なアニメの出演作品は、『侵略！イカ娘』シリーズ（イカ娘役）、『琴浦さん』（琴浦春香役）、映画『星を追う子ども』（アスナ役）など。

気合いを入れてのぞんだアフレコ

——『プリキュア』シリーズのオーディションを受けたのは、初めてだったんですよね。

そうですね。私は最初からピース／やよい役で受けさせていただいたんですが、『プリキュア』のオーディションは何人かがグループになって行われるんですね。そこで、別の方がピースをやるときに、私はハッピー役になって。そのときはピースとハッピーって、かわいいキャラクターだし似ているかなと思っていたんですが、ハッピーのテンションがあまりにも高くて、私が途中でテンション切れを起こしてしまい（笑）、「あ、私にハッピー役は無理だ」って。自分のベース的なところは、ピースのほうが似ているなと感じていました。それでも初めてのオーディションだったので、受かるとは思っていなくて。オーディションを受けさせてもらえただけでもすごい進歩だなと自分では思っていたんです。だから、決まったと聞いたときは、とにかくうれしかったですね。

——周囲の反応はいかがでしたか？

「おめでとう」とたくさんの方に言っていただきました。「『プリキュア』に出ることは勉強になるし、役者としてすごくいい経験ができるよ」と事務所の先輩が教えてくださって。実際、終わってみると、スタッフさんとキャスト（声優）の一体感もそうですが、作品を作る熱意も勉強させていただきましたし、自分の中ではピース／やよいという役は、とても大きな存在になりました。

——人気シリーズの『プリキュア』に出演されるということで、緊張はしませんでしたか？

しました！　合格してうれしかったのはもちろんなんですが、すぐにどうしようという思いがわいて。「あの子だけちょっとほかと違うんじゃない？」とは思われたくなかったので、最初はとにかく気合いを入れアフレコにのぞみました。

テレビ本編のアフレコにのぞんだときの緊張は、今でもよく覚えています。『スマイルプリキュア！』は、先にゲームやおもちゃなどの声を録っているので、プリキュアキャストでその日初対面の方はいなかったんですね。でも、動いている映像に合わせて録るのは初めてだったので、できるかなという思いと、先輩方のアフレコをよく見ておこうという思いは強かったです。

——アフレコが進むにつれて、緊張はほぐれていきましたか？

6話くらいまではガチガチでしたね。でも、テレビシリーズのアフレコの前からなんですが、（田野）アサミちゃんがフレンドリーに接してくれて。それで緊張がほぐれていったのを覚えています。

やよいは予想外な魅力が出てきたキャラクター

——やよいは小柄ですし、見た目からしておとなしそうな印象がありますよね。

最初にいただいた設定でも、泣き虫で引っ込み思案とあったので、はきはきしていないおとなしい子なんだなとイメージしていました。5人の中では一番おとなしくて、バランス的には妹的な部分があるのかなって。

——そういうところはご自身と似ていると思いますか？

う～ん、引っ込み思案なのは似ているかな。あと、好きなものに対してはテンションがあがるところも（笑）。35話でロボッターのおもちゃを買うために、周りを気にせずに並んじゃうような、そういう情熱はすごくわかります。

ただ、絵は下手なので（笑）、マンガ家を目指す気持ちはなかなかわからなくて。でも目標に向かって頑張ろうと思う気持ちを出そうと演技の面では努力しました。

——そんなやよいですが、ロボット好きなところも含め、ストーリーが進むにつれて意外な面が続々と……。

出てきましたね（笑）。お絵描きが好きで、料理もできるようなおとなしいキャラクターかと思ったら、実はヒーローものが好きで、虫も高いところも、お化けも平気という。正直、一番怖がりだと思っていたので、私の想像とはまったく違った反応を見せてくれるのが、どんどん楽しみになりました。

——そういうギャップは、最初から知らされていたわけではなかったんですか？

知りませんでした。アフレコのはじめのころから、泣き虫だけどすごく芯のある子だからとは言われていました。ですから、弱気な部分もあるけど、それをふまえて、実は頑張りたいという気持ちが強い子なんだろう、悔しいという思いがあるから頑張ろうとするし、できないから泣くんだろうと思いながら演じましたが、ここまでギャップがあるとは（笑）。

——変身のときのじゃんけんの掛け声もユニークでした。

私、最初は真剣に「じゃんけんだ、すごい！」って思っていたんですよ。でも、『映画プリキュアオールスターズNewStage みらいのともだち』のアフレコで、周りの方にツッコまれて。実は面白キャラだったんだって気づきました（笑）。

私自身変わったものは好きでしたし、じゃんけんって子どもにも覚えやすいですよね。だから、ピースっていう名前を覚えてもらえなくても、「あのじゃんけんの子」って覚えてもらえたら、ラッキーだなって思いました。

実際に、『映画スマイルプリキュア！絵本の中はみんなチグハグ!?』を劇場に観に行ったときに、子どもたちがじゃんけんをしてくれていたのを見て、すごくうれしかったです。

――子どもたちは、『プリキュア』の着ぐるみショーやミュージカルも見に来てくれていますよね。

着ぐるみショーのアフレコは初体験だったので、すごく勉強になりました。実際にショーの現場にも見学に行ったんですが、子どもたちが興奮して立ち上がって、周りのことを忘れるくらいに集中して応援してくれている姿を見て、改めて『プリキュア』のパワーを感じて。

そうそう、着ぐるみショーといえば、『スマイルプリキュア！』は、放送開始前にお披露目イベントがあったんですね。放送前ですから、子どもたちは『スマイル』のキャラクターは知らないはずなのに、出てきた着ぐるみに声援をくれたり、叫んだりしている姿を見て、じんわり涙が出そうになって。子どもたちの応援は、パワーになるなと感じました。

『プリキュア』は忘れていたことを教えてくれる

――全48話の中で印象的だったセリフはありますか？

やよいは、41話くらいから「一度決めたことは最後までやり抜く」って言うようになっていたんですが、そのセリフには芯の強さが出ていたので、心に残っています。「自分で決めたことは責任を持ってやり抜きましょう」ということなんですが、わかってはいるけどなかなか自分でもできないことが多いので、身にしみました。

――印象に残っているエピソードは？

38話はみんなが子どもになってしまって、敵味方関係なくわいわいしていて楽しかったです。一応、思い出したら戦うんですけどね（笑）。三幹部の皆さんとも騒げたのがうれしかったですね。17話の漫才の回も面白かったですし、なかなか一番は決められません。でも、その中でも22話で、みんながそれぞれひとりになってキャンディを助けに行くかを考えている回は印象に残っています。中学生くらいだと、どうしても友達やグループに引っ張られることもありますが、流されずにしっかり自分で考えるのは大事なんだと気づかされました。

改めて振り返ってみると、プリキュアは当たり前なんだけど忘れちゃっていたことをやさしく教えてくれますよね。大切なことや重大なことからは逃げたくなったりもしますが、私も『スマイル』の中のセリフを聞いて、ちゃんとやり抜かなくちゃダメだなと気づかされました。

――子どもがプリキュアに憧れる気持ちもわかりますね。

私も小学生のころは『美少女戦士セーラームーン』が憧れでしたから、今観ている子どもたちの中で、『プリキュア』がそうなっていたらうれしいですね。大人になってから、実はセーラームーンは中学生だったんだって知って「そんなばかな」って思うくらいに、彼女たちは大人びて見えたんですよ。だから、今の子どもたちにも、プリキュアは大人に見えているのかなぁと考えると、お手本になれていたらいいなって思います。

――今回は、小さくなったりバッドエンドプリキュアにもなったりと、いろいろなピース／やよいを演じることになりましたね。

子どもになったときは、姿は子どもだけど精神は中学生なので、思いっきりはしゃいでいいのかなと思ったんですが、気にせずに楽しんで演じることができました。バッドエンドピースのときは……本来のピースよりもかわいらしくというか、よりわざとらしくというか（笑）。そうすることでバッドエンドらしくなるよとスタッフさんから言われましたね。ピースを演じるときも、自分としてはものすごくかわいく頑張っているつもりなのですが、バッドエンドはそれ以上にリアクションもわざとらしくかわいく頑張りました。妖精にもなれたし、ロボにも乗れたし、本当に1年楽しかったです。

学校の卒業式が終わったような気持ち

――1年間のアフレコが終わって、今の率直な感想は？

私、1年間もオンエアがある作品に関わらせていただいたのはこれが初めてだったんですね。最初から終わりが来るのはわかっていても、本当に終わるのかと信じられなかったし、実際にそのときになるとさびしかったです。あっという間の1年でしたが、その中でスタッフさんやキャストの皆さんと密な親交ができたこともいい思い出になりました。

なんだか、学校生活に戻ったような、そんな感じでしたね。大人になると、同じ時間に同じ人たちと会うということもなかなかなくなりますから、知らない人たちと一から関係を築いていくというのが、新学年に上がったときのような気持ちでした。大塚SDは先生で、クラスの仲間たちに毎週会いに行っている気分でした。

――放送が終わったというのは、卒業したような感じですか？

そうですね。学校の卒業式って、私はあまり実感がわかないことが多かったんですが、まさにそんな感じで。あ、もう来週からこのスタジオに来ることはないのか、あれ？　あれ？　みたいな（笑）。でも、『映画プリキュアオールスターズNewStage』シリーズは歴代のプリキュアが登場するので、まだ終わったという気持ちにはなりたくないですね。

――『映画プリキュアオールスターズNewStage2 こころのともだち』では、ついに後輩プリキュアとの共演が。

アフレコ中は、新しいプリキュアの話題になると少し切なかったんですが、今では『ドキドキ！』も盛り上がって子どもたちにいっぱい愛されてほしいと思っています。きっと、歴代のプリキュアの皆さんは、同じようなことを感じてこられたんだろうなぁと思うと、感慨深いですね。自分自身が視聴者として、次の『プリキュア』も楽しんでいきたいです。

――では、最後に応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

『スマイルプリキュア！』を応援してくださって、本当にありがとうございました。私自身もピース／やよいは思い入れの深いキャラクターになりました。アニメって、子どものころはうろ覚えでも、大人になって思い出したとき、意外な力をくれたり、原点を思い出させてくれたりすると思うんです。ですから、ふとしたときに皆さんが『スマイル』を思い出して、笑顔になってくれればうれしいです。本当にありがとうございました。

To 金元寿子様

ひーちゃん（金元さん）は、ピースと同じで控えめなんだけど、意外にとってもキッパリしてる。お父さんとの話は泣かされたけど、ヒーローになりきった凛々しい回も、忘れられないです。

From
キャンディ役 大谷育江

Cast Interview 4

『スマイル』で受け取った愛や笑顔を届けていってほしい

Profile
【いのうえ・まりな】
1月20日生まれ。東京都出身。主なアニメの出演作品は、「ダンボール戦機」シリーズ（川村アミ役）、「進撃の巨人」（アルミン・アルレルト役）、「デート・ア・ライブ」（夜刀神十香役）など。

井上麻里奈

キュアマーチ／緑川なお

オーディションでマーチにひと目ぼれ

――井上さんは、2010年に放送された『ハートキャッチプリキュア!』から『プリキュア』シリーズのオーディションを受けられていたそうですね。

はい。でも、オーディションを受けていても、役柄が自分にはまっていないような気がして、ずっと自信がなかったんです。自信のなさって声に出てしまうので、合格できなかったのも当たり前かなと今は感じていますね。

――マーチ／なおはそれまでとは違いましたか?

合っているとか合っていないとか以前に、ひと目ぼれでした（笑）。キャラクターのイラストを見た瞬間に、「私にはこれしかない」と思ったし、その気持ちが声にも乗ったのかな。オーディションが終わったときには、自分のすべてを出し切れたこともあって、すごく楽しい気持ちになっていました。

私は子どものころ、『美少女戦士セーラームーン』のセーラージュピターが一番好きだったんです。マーチ／なおはジュピターと同じ緑がイメージカラーだったし、ポニーテールでしたから、運命を感じて。声優になってからは変身ヒロインを演じたいという目標もあったので、もうここしかないという気持ちでしたね。

――合格したと聞いたときは、さぞうれしかったのでは……?

それがですね、誰も「合格したよ!」って教えてくれなかったんですよ! 事務所に資料をもらいに行って、その中身を確認していたら突然「プリキュア」っていう文字が見えて。「受かったんですか?」って自分から確認に行ったので、いまいち実感がわきませんでした（笑）。

――セーラージュピターといえば、演じられた篠原恵美さんは、れいかのお母さん役で出演されていましたね。

そうなんです! アフレコで最初にお会いしたときにはすごく緊張して。以前にも別の現場でご一緒させていただいて、そのときにもジュピターが好きでしたとはお伝えしていたのですが、その日はことさら緊張しましたね。

それを覚えていてくださったのか、アフレコが終わった後に「麻里奈ちゃんが緑でよかった」って言っていただけて。うれしすぎて「ありがとうございます」くらいしか言えなかったのですが、その日は感動のあまり泣きながら帰りました。

――合格したことへの周囲の反応は?

私の年齢だと、結婚して子どもがいる友達も多くて、その子たちから「すごいね」って言われるようになって、だんだんと『プリキュア』に受かったことを実感していきました。別の現場ではお子さんがいらっしゃるスタッフさんから話しかけていただいたりして、人と人とのつながりが生まれた作品でもありますね。

なおと自分には共通点がいっぱい!

――マーチ／なおの第一印象は?

最初に彼女を見たのはオーディションの資料だったんですが、そのとき「勇気リンリン……」という決めゼリフはもう決まっていたんですね。その言葉から、まっすぐで5人の中では一番カッコいい女の子なんだろうなと。

実際に演じてみても、想像通りでした。なので、4話で初めてマーチに変身するときは、「誰よりもカッコよくやってやろう、決めるぜ!」という意気込みでのぞんだのですが、「カッコよすぎます」って言われちゃいました（笑）。「もうちょっと、中学2年生らしさを出してください」と。何しろ、先輩たちに向かって意見を言えるような子ですから、自分の中ではヒロインというよりヒーローだったんですね。ちょっとやり過ぎちゃいました。

――でも、かなりヘタレですよね。

超ヘタレでしたよね。5人の中で誰よりもヘタレ（笑）。最初はあそこまで弱点が多い子だとは思ってもいなかったんですよ。虫はきらいだし高いところも怖い話も苦手だなんて……。でも、中学生ですから、きらいなものや苦手なものはあって当然ですよね。そういう点から見ると、作品を観てくれている女の子の気持ちに一番近いのかなと。なおを見て、普通の、苦手なものがあるような女の子でもプリキュアに変身できるんだって思ってくれたら、うれしいです。

――井上さんは、虫や高いところは平気ですか?

まったくダメです！　お化け屋敷も好きではないです。

——ほかになおと似ているところは？

なおほどの正義感はありませんが、曲がったことがきらいというところは似ているというか、理解できますね。

逆に、あそこまでストレートに「家族が大好き！」って言えるのはうらやましいし、憧れます。あのくらいの年齢の子だったら、家事や弟妹の面倒を見させられると、いやだなって思うこともあると思うし、それが普通だと思うんです。でも、なおは責任感を持ってお姉ちゃんとしてしっかり弟妹の面倒を見ているところが、本当にえらいなと。

——演じるうえでの役作りなどは？

もともと私の中にあるキャラクターに近いので、作り込まずにストレートにできたと思います。それに、アフレコが始まる前、毎回大塚SDが今回の収録はどんな話で、何をテーマにしているかを説明してくれるんです。各キャラクターの立ち位置も指示してくださるので、迷わずにアフレコにのぞめました。

運動会のアフレコ前日は全速力で走って備えた

——印象に残っているエピソードは？

それはもちろん、18話の運動会ですよ！　それまでのお話では、絶対最後は笑顔で終わっていたのに、初めて涙で終わるという回でもあって。

久しく全速力で走るということをしていなかったので、アフレコ前日の深夜1時くらいだったかな、家の前の長い道路を全速力で走りましたよ！　端から見たら変な人に見えるかもしれないので、ちょっとこそこそしながらバトンの練習もちゃんとして（笑）。実際に走ってみると、速く速くと思えば思うほど、気持ちばかりが先に行ってしまって、脚がもつれそうになるんですよ。なおもこんな気持ちだったのかなぁと。

それから、19話のやよいのお父さんの話も素敵でしたね。『スマイル』では珍しく雨の日の話だったので、画面全体が暗かったんです。それが、やよいがお父さんの愛を受け取って、パーッと画面が開けていく。あのときのまぶしさは印象に残っています。

——印象に残っているセリフはありますか？

42話の戦いが終わった後、なおがみんなに言った「ありがとう」というセリフがずっと心に残っています。あの話は、すごく怖かったんですね。それまではひとりで戦わなければならないということがほとんどなかったこともあって、ひとりで戦うというのはこんなにも怖いのかと。アニメですから、絶対に助けられるというのはわかっていても、みんなが来てくれたときにはホッとしましたし、みんながいてくれてよかったと思いました。

——なおは、れいかとの幼なじみのエピソードも多かったですね。

ほかの子には「さん」づけをしているれいかが、なおだけを呼び捨てにするというのには、特別感があってキュンときました（笑）。でも、れいかはなおの過去のことをたくさん話すのに、なおはれいかのこと何も話してないんですよね。なおしか知らないれいかの話がないのかが、気になります！

——子どもになったなおやバッドエンドマーチを演じるときは演じ分けは考えましたか？

バッドエンドプリキュアのときは、元のキャラを意識しないように、むしろかけ離れた悪い感じを出してほしいと言われたのですが、それがまた大変で。でも、自分で自分と戦っている姿は、見ていて不思議で楽しかったです。せっかくカッコいいキャラクターだったので、もうちょっと演じてみたかったですね。

子ども回も難しかったですね。なおは、5人の中では精神年齢が一番大人だと思うんですね。だから、体は子どもになっても気持ちは大人というバランスが難しくて。しっかり者過ぎる幼児っていうのも怖いですし（笑）。

——なおとあかねは馬やねずみにもなりました。

馬かぁ……って（笑）。〝馬感〟を出したほうがいいかなって（田野）アサミちゃんとも相談したんですが、さすがにそこまでにはなりませんでしたね。

『スマイル』はマジョリーナの道具があったので、本当にいろんなものになりましたね。実は収録序盤のころに、大塚SDから「何かいい案はありますか」って聞かれたんです。私たちは好き勝手に「子どもになりたい」とか「男の子になりたい」とか言わせていただいて、そのほとんどはかなえてもらったんじゃないかな。普通のアニメではなかなかできないファンタジーな出来事もかなえてもらった、夢のようなアニメでした。

『スマイル』との出会いは最高の宝物

——大塚SDは、各キャラがメインになる回には、そのキャラのTシャツを着ていらしたとうかがいました。

いや～（笑）。監督はピースが好きなので、必ずピースのTシャツを下に着てくるんですが、なぜか私のツッコミ待ちだったみたいなんです（笑）。でも、言ったら喜ぶのがわかっているので、あえてスルーするというドSっぷりを発揮してみました（笑）。

——（笑）。すごくスタッフさんとも仲のいい現場だったんですね。

スタッフさんと役者の距離が近い現場だなというのは、ずっと感じていました。1年の間に結婚されるスタッフさんがいたんですが、その方の披露宴の二次会ではプリキュアたちの着ぐるみが登場すると聞いて、みんなで小芝居を収録したこともありましたね。キャンディを助ける回では、みんなでキャンディのお面をつけてみたり。なぜか、アカオーニ役の岩崎（ひろし）さんまでキャンディのお面をつけていたのが面白かったです。

——終わってしまったんだなぁという感慨のようなものはありますか？

いやいや、終わってないし！　と言いたいです。もうすぐ、深夜の放送で『すまぷり！』になって蘇るんですよ（笑）。私、収録中からずっと、『すまぷり！』をやろうって言っているんですが、まったく意見を聞いてもらえていません。

——（笑）。読者の皆さ～ん、『すまぷり！』は、今のところ井上さんの空想の番組です、念のため。それほど『スマイルプリキュア！』を愛されていたんですね。

はい。私たちの仕事って人の役に立っているというのがわかりにくいんですが、『スマイル』に関わることができて、お子さんやそのご両親から「元気をもらいました」と言っていただけて、「あぁ、私たちも誰かの役に立てているんだ」って実感できて。役者をやっていてよかったなと感じられました。

この作品が始まるときに、『スマイルプリキュア！』という作品は、東日本大震災で被害に遭った子どもたちに笑顔を届けるのが使命だと聞いて、絶対に『スマイル』をやっている間は悲しいことやつらいことがあっても現場に持ち込まないように、笑顔がみんなに届くようにという気持ちでのぞんだんです。そう思えたことが私にとっては宝物で、『スマイル』に出会えて本当に幸せでした。

——では、最後に応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

テレビ放送が終わっても、『スマイルプリキュア！』はみんなの中にも私たちの中にも生き続けるものだと思っています。これからも『スマイル』のプリキュアたちを忘れず、笑顔と人が大好きという気持ちを忘れずにいてください。笑顔は伝染していくものだと聞いたことがあるし、それは本当だと思います。ですから、やさしさと愛と笑顔を、これからも届けていってくださいね。

そして、深夜で放送される『すまぷり！』を楽しみにお待ちください！（笑）

To 井上麻里奈様

麻里奈ちゃんは、しっかり者でスポーツ万能、でも虫やお化けは恐いというヘタレのなおの両面をかっこ良く、かわいく演じ分けられる。運動会のリレーの話では泣きました。食いしん坊話や、虫やお化けの話では、ヘタレななおちゃんにギャップ萌えでした。

From

キャンディ役 大谷育江

観てくれた人たちが笑顔になってくれたらうれしい

西村ちなみ

キュアビューティ／青木れいか

Profile
【にしむら・ちなみ】
11月18日生まれ。千葉県出身。主なアニメの出演作品は、「おじゃる丸」（おじゃる丸役、小町ちゃん役）、「ARIA」シリーズ（アリア社長役）、「カレイドスター」（ミア役）など。

れいかのまじめすぎて少しずれたところがかわいい

――ビューティ／れいか役に合格した当時のことは覚えていらっしゃいますか？

ちょうど合格したと連絡をいただいた日は、友達と"食べると奇跡が起こる"という、「ミラクルランチ」を出すお店にごはんを食べに行っていたんです。このランチを食べながら「『プリキュア』に合格しますように」って祈ろうかなと思っていたら、順番待ちをしている段階でマネージャーから連絡が入って。ランチを食べる前にミラクルが起こっちゃいました（笑）。

――西村さんは、ビューティ／れいかのような役よりもハッピー／みゆきのような元気なキャラクターを演じられることが多いイメージがあります。

私はハッピー／みゆきとビューティ／れいかのオーディションを受けたんです。元気でまっすぐな女の子というのはわりと多く演じさせていただいていたので、れいかのキャラクターにすごくひかれました。しかも、昔から青が大好きで、オーディションも青い服で行ったんです（笑）。正直、最初はどうやって声を出したらいいのかなって考えていたんですが、ふっとれいかが降りてきたんですね。本編に入っても、そのときのイメージは変わっていないと思います。

そういえば、オーディションの段階では、れいかは怒ると怖いという設定があったんです。ですから、そういう要素を入れて演じたのですが、すぐに大塚SDから「れいかはそういうキャラクターじゃなかったです。ごめんなさい」って撤回されたことをよく覚えています。

――ビューティ／れいかの第一印象は？

ほかの子と比べると大人っぽいですよね。おしとやかな面もある子だなとは思っていました。ただ、演じるにあたっては、おしとやかといっても14歳ですから、そこを強調しすぎないようにしました。私は、プリキュアのキャスト5人の中では年齢的に一番年上なので、落ち着きを出し過ぎると、声に私の人生の重みが出ちゃうんじゃないかという心配があって（笑）。やはり、聴いている方に違和感があったらどうしようかと思って悩みました。でも、演じていくうちにどんどん遠かったれいかが近づいてくれる感覚があって。ほかのキャスト（声優）さんにも助けられたし、一緒に成長できたという気持ちはあります。

――れいかはしっかり者ですが、意外とお茶目な面もありますよね。

みんなでひみつ基地探しをした7話は、台本を見た段階から面白くて。「れいかちゃん、富士山」って！（笑）。でも、逆にあのシーンを見て、れいかはまじめだけど、その分見当違いな方向にいっちゃうこともあるんだって安心しました。あの回は、ノリノリでやったのを覚えていますね。

――富士山の頂上で「道」という掛け軸を広げるとは思いませんでした（笑）。

ですよね（笑）。そういう天然っぽい面を見て、もっとれいかに近づけるってうれしくなっちゃって。「道」もまさか最後まで引っ張るとは思っていなくて。彼女にとってはすごく奥深いテーマだったと知って、親しみがわきました。

子どもたちにも響いていると感じられた『プリキュア』

――プリキュアを演じることになって、周りの反応はいかがでしたか？

私の下の娘が今ちょうど3歳で、ストライクゾーンど真ん中なので、一緒に観ていたんです。娘の様子を見ていて面白いなって思ったのは、35話のハッピーがロボットになる回。「プリキュア」は大好きなのに、ロボットのシーンは興味なさそうなんですよ（笑）。でも、変身シーンになったら急にテレビに食いついて観ていて。あぁ、女の子ってこうなんだなぁって感じましたね。

それから、38話のプリキュアたちが子どもになっちゃう回は、何回も繰り返し観るほどに好きみたいで。変身シーンは「いちゅちゅのひかりが〜」ってセリフまで全部マネするんですよ。それを見ていて、ちゃんと子どもにも楽しんでもらえているんだなってうれしくなりました。

――お子さんは、46話に登場したバッドエンドプリキュアやピエーロを怖がったりはしないんですか？

意外としないんです。「バッドエンドプリキュアもいい子なんだよ」って言うので、なぜなのか聞いたんですね。そうしたら、バッドエンドピースはぶつかったときにちゃんとごめんなさいって謝ったからだと。私は「あれは作戦なんだよー」って心の中では思っていたんですが（笑）、そういうとらえ方をするんだなってビックリしました。ピエーロは巨大なので、怖がっていやがるかもと思ったんですが、特にそんな様子もなくちゃんと見ていましたね。

――子どものれいかやバッドエンドビューティの演じ方は考えられましたか？

私自身は子どもの役というのは結構やらせていただいているんですが、れいかが子どもになったらと考えると、どこまで飛び出していいのかとは悩みました。でも、実際に演じてみると、「遊びたくて仕方ありません」って子どもになったことを楽しんでいたようなので、演じる前ほどは悩みませんでした。普段はしっかり者ですからいろんなことを我慢しているんでしょうけど、子どもになって殻から飛び出した感じがかわいかったし、普段言わないような「悔しいです！」とい

うセリフを言えて、彼女も普通の女の子なんだなってわかってうれしかったです。

バッドエンドビューティは、れいかの違う一面というとらえ方でした。彼女は敵ではなく、別の角度から見たビューティなんだろうなと。もともと青というイメージカラーは、クールな印象を与えるのですが、それがバッドエンドになってより強く出る感じで。ですから、あえて普段とは温度差が出ないようにしたつもりです。バッドエンドビューティが言っていることは、ある方向から見たら決して間違いではないと思うんですね。そういう意味でも、別の方をキャスティングするのではなく、自分たちでやらせていただけたのはよかったと思っています。

れいかの成長を手伝えたことがうれしい

——1年間、行事ごともたくさんありましたよね。

印象に残っているのは、エイプリルフールかな。4月1日は春休みなので、本来なら学校はないはずなんですね。でも、大塚SDが「学校は休みだけど、僕はエイプリルフールの話が見たいんだ。エイプリルフールというものは、うそをついてもいい日なんだということを朝一番に子どもたちに教えたい」っておっしゃって。なるほどと。それ以外にも、修学旅行に行ったり海に行ったり、『プリキュア』でれいかたちが体験した出来事が私たちにとっても思い出になっていて、気持ちを共有できた感じです。

——印象的だったエピソードは?

本当にたくさんありますね。まず、とらわれたキャンディを助けに行く前の22話。大塚SDはアフレコの前に毎回意図などを教えてくれるんです。もともと、大塚SDは「僕が『プリキュア』で表現したいのは、感情のリアリティーなんです」と言っていたので、キャンディが捕まったから、ただ助けに行くのではなく、ひとりひとりがちゃんと自分と向き合って出した結論だという部分をきちんと描きたいと言っていました。それがよく表れているのがこの話数だと思っています。ひとりひとりが自分の意思でキャンディを助けると決めて集まる。そこに彼女たちの成長があったんじゃないかな。

それから、18話の運動会の話。みんな言っていると思いますが、やはりこれも外せませんね。アフレコが終わった後、誰からともなく集まって泣いたのを覚えています。

——運動会では、練習中に「腕を振って足を上げて」から前になかなか進めないれいかがかわいかったです。

普段はちゃんと走れているからふざけているのかと思ったら、やっぱりまじめでしたね(笑)。なおからの「れいか、前に進んで」っていうツッコミも、幼なじみならではの、彼女をよく知ってくれているという雰囲気が出ていて面白かったな。本番では、「足は高く腕は大きく……そして前へ!」というセリフが好きでした。

——れいかがメインになった話で印象的だったものは?

れいかの留学騒動があった43話かなぁ。まじめな子って、大人からあっちがいいと言われたらあっちになり、こっちがいいと言われたらこっちになるという、自分の意思が感じられない部分もあると思うんですが、自分の意思で「いやだ」って言えたことが成長したなぁって。大人から見たら、友達と離れたくないから留学をやめるなんて、そんな理由で、と思われるかもしれませんが、14歳の彼女なりに一生懸命考えて出した結論だし、生まれて初めてはき出したワガママだったんじゃないかなと。彼女はあそこから今まで描いてきた道とは違った道を描けるようになったんじゃないかって感じていますね。彼女が自分の意思をちゃんとはき出すお手伝いができたことが、本当にうれしかったです。

『スマイル』からもらった笑顔を大切にしたい

——アフレコ現場でのお誕生日サプライズは、西村さんが始められたとうかがいました。

5人のうち、福圓(美里)ちゃんと(井上)麻里奈ちゃん、(田野)アサミちゃんは早生まれだったんですね。で、私が11月でひーちゃん(金元寿子さん)は12月、キャンディの(大谷)育江さんが8月。アフレコは2012年1月から始まりましたから、福圓ちゃんの誕生日はまだアフレコが始まって間がなかったんですが、それでも何かしたいなって考えていて、1話のアフレコの日にケーキを持っていったんです。それを麻里奈ちゃん、アサミちゃん、育江さんでも続けて。でも自分のときはいらないなって思っていたんですね。ところが私の誕生日が間近のアフレコで、予告を録る段階で、みんなが持っている台本と私の台本が違っていて! なんでも、大塚SDが仕込みをしていたらしく。みんなが台本と違うことを話し始めたので、ひとりであわあわしていたんですが、よく聞いてみると誕生日に関連するセリフばかり。そこからケーキが登場し、ハッピーバースデーの歌が流れ、もうやられたなって(笑)。

ひーちゃんのお誕生日は、もうみんなでサプライズをやることが決定していましたね。ピースグッズをゲストでいらしていたピエーロ役の玄田哲章さんやロイヤルクイーン役の島本須美さんからも渡していただくという。そこでひーちゃんも、やられたーって気づいたみたいですが(笑)。

——1年間、笑顔がいっぱいのアフレコ現場だったんですね。

本当にそうですね。39話では、れいかは王子様にもなってりりしい姿を見せてくれました。「誰も、来ません」のセリフには笑いましたが(笑)。敵の三幹部も素敵なキャラクターでした。戦ってはいるんだけどおバカなこともやっている姿が楽しくて、ずっとこうしていたいという気持ちがありました。

私、子どものころ『魔法の妖精ペルシャ』が好きだったんですね。ですから、ペルシャを演じられていた冨永みーなさんと共演できたこともうれしかったです。

——では、最後に応援してくれたファンにメッセージをお願いします。

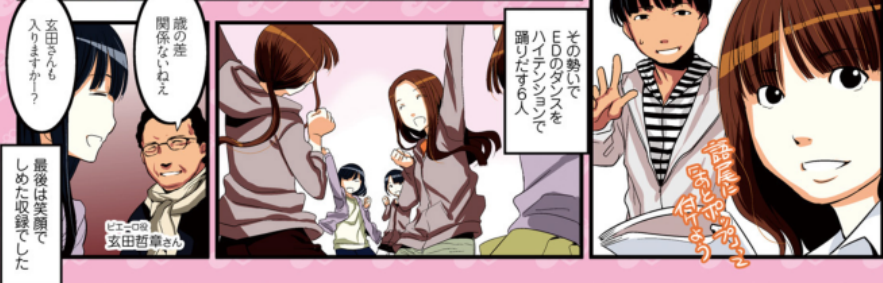
正直、とてもさびしいです。それはこの1年間が濃くて幸せだったからなので、幸せなさびしさでもあります。ここでつながったメンバーの絆は消えないし、毎週会うことはなくなるけれど、気持ちはつながっていると思っています。『スイート』から受け継いだバトンを、ハッピーに元気に『ドキドキ!』に渡せたらと思っています。

『スマイルプリキュア!』を応援していただけたこと、たくさん愛していただけたこと、本当にありがとうございます。私自身、ビューティ/れいかや作品からたくさんの愛情や勇気やハッピーをもらいました。それを皆さんに届けたいという気持ちで演じていたので、皆さんが『スマイル』を見て、ハッピーに、笑顔になってくれたらうれしいです。いつまでも笑顔を忘れないように、ウルトラハッピーな人生を過ごしましょうね。

To 西村ちなみ様

ちなちゃんの演じたれいかは、どこにいっても大人気でしたね~。かっこ良かったな~。速く走る練習で前に進まないとかのコミカルな演技も、面白くて好きでした。スタジオではいつも皆の誕生日を忘れず、ケーキを用意してくれて、そんな思いやりのお陰で、割と早くに皆、親密になれた気がします

From

キャンディ役 大谷育江

スマイルプリキュア！
最終回アフレコ漫画レポート

EDの名場面では おかしなシーンに 吹き出しつつも 懐かしいねえと しみじみ
バッドエナジー役 佐々木啓夫さん
キャンディ役 大谷育江さん
その後SDから「気持ちの熱量と流れを最優先で」、
特に「泣きのシーンはセリフが聞き取れなくてもむしろOK」とのリクエストを受けテストをへて本番に入ります
井上さんと田野さん。
さて
キャラクターの掛け合いやセリフに合わせてマイク位置なども変わっていきます
ポップ役 阪口大助さん
そろ～り そろ～り
阪口さんなどは右へ左へ行ったり来たりでなかなか大変
最終回ということもありひたすら泣きの芝居
迫真の演技に取材する我々も思わず涙……
ウルルン（ウルフルン）役 志村知幸さん
マジョリン（マジョリーナ）役 冨永みーなさん
収録を見守るおふたり
収録は順調に進みキャンディとのお別れのシーン
大谷さんがふとこんな疑問を……
やめて！ そっとしておいて！ 触れないであげて！
ポップもいなくなることには触れなくてもいいんですか？
語尾に ポップを あと付けよう
そしていよいよCパートエピローグの収録
最後の収録前に円陣を組んで決めゼリフ気合を入れます！
スマイルプリキュア!!
そして収録は無事に終了！
その勢いでEDのダンスをハイテンションで踊りだす6人
歳の差関係ないねえ
玄田さんも入りますかー？
ピエーロ役 玄田哲章さん
最後は笑顔でしめた収録でした

歴代のプリキュアたちが勢ぞろいする映画の、とっておき情報をお届けします!

©2013 映画プリキュアオールスターズNS2製作委員会
http://www.precure-allstars.com/

●2013年3月16日公開
■STAFF　監督／小川孝治　脚本／成田良美　オリジナルキャラクターデザイン／稲上晃、香川久、馬越嘉彦、川村敏江、高橋晃　キャラクターデザイン・作画監督／青山充　美術監督／渡辺佳人　色彩設定／澤田豊二　制作担当／大町義則　アニメーション制作／東映アニメーション　OP主題歌／工藤真由&黒沢ともよ&吉田仁美「プリキュア〜永遠のともだち〜（2013Version）」　ED主題歌／吉田仁美「この空の向こう」
■CAST　キュアハート（相田マナ）／生天目仁美　キュアダイヤモンド（菱川六花）／寿美菜子　キュアロゼッタ（四葉ありす）／渕上舞　キュアソード／宮本佳那子　ほか

▶歴代の戦士に加え、みゆきたちまでも氷漬けに！　キャンディは彼女たちのピンチを見て誰に助けを求める!?

▼グレルは自分勝手な態度でみんなを困らせ、エンエンは泣き虫で弱気だからプリキュアの妖精になれないと思っている

影（声／坂本千夏）

グレル（声／愛河里花子）

エンエン（声／玉川砂記子）

『映画プリキュアオールスターズ New Stage2 こころのともだち』には、第一作『ふたりはプリキュア！』から最新作『ドキドキ！プリキュア』まで、歴代のプリキュア32人と妖精たちが大集結！

ある日、妖精たちの学校からプリキュアのもとに「プリキュアパーティ」の招待状が届く。みんなは大喜びでパーティ会場に向かったものの、そこにいた怪しい影に変身アイテムを盗まれてしまう。しかも、このままだとその影に学校も妖精も飲み込まれてしまうと知り……。

変身できないという大ピンチの状態で、プリキュアたちはどうやって影に立ち向かうか。妖精学校の生徒でありながら、プリキュアをねたむグレルと、彼としか一緒に行動できないエンエンは、プリキュアたちの危機にどう関わっていくのか。大スケールで送るプリキュアたちの活躍を、劇場で応援しちゃおう！

▲みゆきたちがひみつ基地でお勉強会を開いていると、そこに妖精学校から招待状が届く

▶謎の影の攻撃にもひるむことなく、プリキュアたちは立ち向かう!

▲『スマイル』チームは5人で力をあわせて影に挑もうとする

◀影の額についているマークが、グレルのものとそっくり!

▼妖精たちも影に捕まる!? ピンチのプリキュアたちに、ミラクルハートライトで、力を送ろう!

▲プリキュアパーティへ向かう途中では、歴代作品のプリキュアたちがおしゃべりする姿も見られるぞ

梅澤淳稔プロデューサー INTERVIEW

映画を通して「いじめ」について考えてほしい

――本作のテーマを教えてください。

「いじめ」ですね。本編では、グレルとエンエンという、ほかの妖精と少し距離がある妖精たち、そして彼らの心の中が具現化された影が登場し、彼らとプリキュアが発生する問題にどう向き合って解決するかを描いています。

ただ、「いじめ」を扱うといっても、陰湿になったり暗くなったり、重くなったりはしないよう配慮しました。いじめというのは、避けて通れない問題だと考えていますが、それぞれに事情や状況が異なりますから、一概に「いじめを見たらダメと言わなきゃいけない」とは言えないし、それが言えない子はダメな子なんだとも言えない。でもそんな状況にある中で、この映画を観たことで、いじめの現場に遭遇したら、「あれはいけないことなんじゃないか」と考えたり、「もし次に見かけたらダメって言えるようになろう」と、少しでも前向きに頑張る気持ちを持ってくれたらうれしいですね。

――全員集合ポスターで『ハートキャッチプリキュア！』のキュアマリンだけこちら向きのもの（上）がありました。

映画を最後まで観ていただけると、彼女たちがある場所でポスター撮影をするというエピソードがあるのがわかると思います。僕の中にはあのポスターはその撮影中、〝カメラマンから横向きに立って前を向いてって言われているのに、ついマリンがカメラを見てしまった〟というストーリーがあります。マリン役の水沢史絵さんも、こういうことをするのはマリンしかいないとおっしゃっていました（笑）。ちょっとした遊び心を感じていただけたらと思います。

Staff Interview 1

スタッフにもお話聞きました♪

シリーズディレクター 大塚隆史

番組を観終わって「あぁ、楽しかった!」と思ってもらえたら、それが一番うれしいです

一目見ただけで楽しそうな雰囲気を

――梅澤淳稔プロデューサーから、シリーズディレクター（以下SD）の依頼があった時点で、プリキュアが5人いるというのは決まっていたんですか?

　決定ではなかったんですが、5人でやりたいと聞いていました。正直、5人だと話作りや絵を描くのが大変なので、ふたりか3人にしたかったんです。でも5人で彩る作品の華やかさもよくわかるので、その線で進めていきました。

――SDとしては、『スマイルプリキュア!』でどんな物語を描きたかったのでしょうか?

　物語以前にまず僕が大切にしたことは、「日曜日の朝8時半にどんなアニメが流れてると気持ちがいいかなぁ」ということでした。それで僕は「前向きで明るく元気なもの」にしたいと考えました。それを『プリキュア』という作品の世界観に合わせていこうと。番組を観たら笑顔になって、終わったら元気に外に遊びに行ってほしい。そんな願いを込めて、タイトルを『スマイルプリキュア!』にしました。

　なので『スマイル』だからって、笑顔の大切さを訴えるといったような説教くさいものにするのではなく、観た人が「あぁ面白かった」と素直に笑顔になるものを目指しました。そこで「ちびっ子にとって『面白い』ってなんだ?」と考えたとき、それが"楽しい"だ!と思ったんです。僕が子どものころ、TVアニメに対して初めて覚えた感覚ですね。観ていてすごく楽しかった。それを出していきたい。その結果、色と音とビジュアル、温かい太陽や空気感のある青い空、キラキラした色、明るく元気な声、わくわくする音楽……まずそういった、「一目見ただけで楽しそう」な雰囲気や空気を作品にまとわせることに全力を注ぎました。それさえ印象づけられれば、子どもたちは毎週楽しみに観てくれるんじゃないかなと思って。やはり興味を持ってもらえるようにするのがまず一番です。

　1年もののシリーズの大切なところはそういった「雰囲気」じゃないかなぁと思いました。そしてそれが決まってからは、じゃあどうしたらそれを表現できるのかをスタッフみんなで話をして考えて、作品の根元の部分を作っていきました。物語としては、みゆきたちを主体とした、みゆきたちが自分たちで考えて物語が進む流れを目指したいなと思いました。

――SDとはどのようなお仕事なんでしょうか?

　説明がすごく難しいんですけど、『プリキュア』の場合はオリジナル作品なので、プロデューサーやシリーズ構成と話し合ってまずはどんな作品にするのか大きく方向性を決めます。そのあとそれをもとにキャラクターや細かい設定などを具体化していきます。そして脚本家と打ち合わせをしながら脚本を進めていきます。打ち合わせでは問題点などを見つけて一緒に直しの方法を考えていく。できた脚本をもとに演出家と打ち合わせをし、同時に必要なキャラクターデザインの発注をしたり、色を決めたり、背景美術のチェックをしたり。とにかくイメージや方向性が要求されます。演出家から絵コンテが上がってくるとそれをチェックして、最初のテーマからズレていないかを確認し、相談や修正を重ねます。そして全話の編集やアフレコ、ダビングにも必ず立ち会い、作品全体の整合性や品質向上を目指します。作業的にはこんな感じですね。大切なのは作品と各話の芯になる部分を決めて提示することです。

――今回、5人のプリキュアは色だけ見ても、明るくて元気になれる印象ですね。

　ありがとうございます。明朗快活でわかりやすいことを大切にしました。中途半端な色はやめて、ピンクはピンク、黄色は黄色とはっきりした色を使うようにしました。5人という大量の情報量でも、0.5秒で誰がどこにいるのかがわかる。一瞬で印象的に飛び込んでくる。色はとても大切です。

――5人という人数は戦隊ものを想像させますが、センターのみゆきはリーダーカラーの赤ではなくてピンクでした。

　番組を観てくれる女の子にとってかわいくて好きな色はまずピンクなので、ピンクを主役にすえました。サニーのイメージカラーが赤ではなくオレンジなのは、主役がハッピーであることをブレさせないためです。赤を入れると誰が主役か一瞬迷うので、サニーは明確にオレンジにしました。もちろん『スマイルプリ

Profile

【おおつか・たかし】2月23日生まれ。大阪府出身。アニメ演出家、監督。『映画プリキュアオールスターズDX』、『映画プリキュアオールスターズDX2』、『映画プリキュアオールスターズDX3』の監督を務める。また、『ワンピース』などの演出も手掛ける。

キュア！』では全員が主役ではあるんですが、キャラクターの役割はハッキリさせないと、観る側がどう観ていいかわからなくなると思ったので、「ハッピーを主軸とした5人のキャラクターたち」としっかりすみ分けをしました。

——キャラクターデザインの川村敏江さんは、『Yes！プリキュア5』でもキャラクターデザインを担当されていますが、あえて川村さんに依頼した理由は？

川村さんにお願いしたのは、キャラクターデザイナーの選考コンペをへての結果でしたが、アニメにおけるキャラクターデザインというのは、実写でいう「全登場人物のキャスティング、及び衣装デザイン」にあたる、非常に重要な役職なんです。そして僕が最初に掲げた「明るく元気な作品の雰囲気」を一緒に作っていけるだろうと確信できたのは、川村さんの描くキャラクターと仕事の仕方だったので、お願いをする形となりました。

それから一緒にキャラクターを作っていきましたが、僕自身漠然としかなかったキャラクターのイメージが、川村さんの豊かな表現で僕の想像を超えて見事な形に仕上がっていくのが本当に楽しかったです。川村さんの仕事には感心しきりでした。

リアリティーを大切にした演出

——『スマイル』のプリキュア5人は、それぞれ属性がありますね。

そうですね。意外とこれまでの『プリキュア』って属性を持っているキャラが少なかったので、今回はアクションに面白みと変化を持たせるために、サニーが火、ピースが雷といった明確な属性を持たせました。

——初めてプリキュアに変身したときに、サニーが名乗りを恥ずかしがったり、マーチが髪のボリュームに驚いたりする様子も新鮮でした。

マーチのフワフワは、演出の門由利子さんのアドリブでしたね。実際にあの姿になったらそんな動きするよね！って思って笑っちゃいました。やはり普通、「変身」なんてしたら絶対に驚きますよね。服が変わったり、身体機能が変わったりするんですから。それに対してそれぞれのリアクションがあって当然ですよね。そういう当然のリアリティーを描きたかったんですよ。

——リアリティーといえば、11話でなおが虫に助けてもらいながらも、最終的にやはり苦手なままというのもリアリティーがありました。

いわゆる「アニメっぽく」、最後は克服しましたっていうのが僕はどうも腑に落ちなくて。やはり苦手なものは苦手ですよ（笑）。でも助けてもらったから少しは好きになったかもしれないのと、何より小さい命をバカにするな！っていうのは、なおの本心であって。そんな気持ちを描きつつ、あの話は小人になるというアニメーション本来のドキドキする面白さを描いています。

——その感情のリアリティーのもとに、少しずつですが、成長していくみゆきたちの様子がほほえましかったです。

やよいも、最終的には泣き虫と言われているほど泣かなくなりましたしね（笑）。まぁ涙は流すけど、芯は本当に強くって。でも、彼女はみゆきたちと知り合って積極的な自分が出せるようになってはいますが、ほかの人の前ではなかなかそうはいかないんですよね。34話でもクラスで絡むとそんなに前には出ていけなかったし。

——れいかの成長といえば、留学に行きたくないと言えた43話でしょうか。

今までだったら大人の意見に従ってしまっていたと思いますから、ああして自分の意見を言えたことは成長だったと思います。ただ、本作における成長っていうのは、実はなかなか目に見えるものではなくって。ほんの少し、ほんの少しの積み重ねでした。それが僕の中での中学2年生としてのリアリティーでもありました。ただ何かを考えて行動しなきゃいけない状況になったときに、彼女らは自分たちなりに考えています。それが小さな成長ですね。異色な形ですが、あかねとブライアンの恋っぽい話（36話）もそんな成長と彼女たちの側面を表したと思います。

——あかねの気持ちとしては、本当に恋だったんでしょうか？

見ているとわかりますが、あかねはいわゆる恋心で動いていません。僕のイメージではあれはあくまで友情の話。成長して大人になったあかねが、ふと「初恋っていつだったかな」と思い返したときに、あのときだったのかなって少し照れて思い出すくらいのものですね。

——『スマイル』は1話でみゆきが転校してきて、少しずつみんなが仲よくなっていく過程も楽しかったです。

本編では明言していませんが、この中学校はふたつの小学校の生徒が集まってきているという設定で、なおとれいかはもともと同じ小学校だった。でも、やよいは別の小学校出身で、あかねは中学になってから転校してくる。しかも、4人は1年生のときはバラバラのクラスで、2年生で初めて同じクラスになったんです。だからなおとれいか以外はみんな〝初めまして〟の出会いに近いんです。

——それは、みゆきが入るということが前提にあって考えられたのですか？

僕としては、みゆきの目線と視聴者の目線を合わせたかったんです。なぜなら、最初から主役には深い友情の友達がいて……と言われても観ている方はたぶんピンとこなくて、設定として消化するしかない。そうすると、言葉に深みが感じられないので、ちゃんとゼロから始めて人間関係を構築していきたいなと。そうしないと説得力も生まれない。例えば「転校したてでひとりぼっちの私に気遣ってくれたあかねちゃん」に対してのみゆきの「守りたい気持ち」とかのほうが、彼女たちの気持ちが伝わるんじゃないかと考えました。

そして多くの人は、幼稚園や小学校、中学校での初登校の日は周りに知らない人だらけだけど、気がついたら友達になっていた経験ってあると思うんですね。それと同じ感じで、フラットな関係の5人が偶然出会い、プリキュアという部活みたいなものに入って仲よくなっていったというイメージでやりたかった。そんな環境の子たちの気持ちなら理解できるので、演出しやすいかなぁと。

奇をてらわない〝当たり前〟のストーリー

——声優のキャスティングに関しては、オーディションだとうかがいました。

そうですね。『プリキュア』シリーズのプリキュア役に関してはいつもそうです。オーディションに来ていただいて、あらかじめお願いした役を演じてもらいます。選考にはプロデューサーなどいろんな人がいますが、SDとしての僕の選考基準は「キャラクターに声が合っているか」「うまいか」でした。あとは5人の声色のバランスとか、キャラクターと声優さん本人との人間的距離感とか……これは勘になりますけど。

——福圓美里さんはピース、田野アサミさんはマーチで受けていたそうですね。

そうでしたね。福圓さんのピースも田野さんのマーチも、聞かせてもらってすぐに「これは違うな」と思いました（笑）。でも「ん？」って思ったのが福圓さんで、「ハッピーもやってもらっていいですか？」とお願いしました。これも勘ですけど、「もしかしたら」って思うところがあったんだと思います。田野さんは「実は関西出身なので、あかねも受けたい」と申告があり、受けてもらいました。田

●鉄人戦士ロボッター

35話に登場した、やよいの好きなアニメ『鉄人戦士ロボッター』に登場するロボット。タケルという少年が搭乗して戦う。

“初めて”の感じを大事に作っていきたかったんです

野さんは達者とは言えなかったんですけど、彼女の持つ明るさがあかねのキャラクターと重なり、お願いすることにしました。でも田野さん自身、自分の技術が追いついていないことをわかっていて、あかねがメインの回にはひとり先にスタジオにやってきて、練習させてくれと言って黙々とリハーサルをしていました。そんな本気の姿を見ていたら、僕も頑張らないとな、と元気をもらいましたし、どんどん上手になっていく彼女を見てまた勇気ももらいましたね。あかねを見ているようでした(笑)。金元寿子さん、井上麻里奈さん、西村ちなみさんもキャラに合っているかとうまさ、5人のバランスなどを考えた結果お願いしました。3人ともうまいです。キャンディの大谷育江さんとジョーカーの三ツ矢雄二さん、そのほか三幹部などはキャスティング担当の小浜さんと入念に打ち合わせて決めています。

——プリキュア5人全員がまったく違った声質でしたよね。

それは僕の中にある子ども向けアニメの鉄則で、メインのキャラは明確に声が違って芝居も違う人を選びたかったんです。色と同じで、そのほうが明確に個性がわかるので。

——オーディションをして難しいことはなんですか？

そうですねぇー……答えがわからないってことですかね！　ほとんど何も決まってない状態でしたし（笑）。結果オーライな部分はたくさんありました。正直な話、声優さんが違っても、監督やキャラデザインなどほかのスタッフが違ってもそれなりの作品にはなったと思います。でもね、「このメンバー」でないと「この『スマイルプリキュア！』」には絶対にならなかったんです。そして「この『スマイルプリキュア！』」が僕は大好きなんですよ。みんなで一緒に全力で作り上げてきた、「この『スマイルプリキュア！』」が。そして、一緒に仕事をしてもらう以上、やはりその作品を観てくれる視聴者や自分たち自身がすごく愛せるものであってほしいと強く願っているので、そのためにできることは全力で考えてやりました。スタッフみんながやってよかったと胸を張れる作品にする責任が、SDやプロデューサーの責務であると思っていますので。でもまぁそれは裏の話で、やはり一番は子どもたちに面白いと思ってもらうことが目標でしたね。

——そのために、どんな工夫をされましたか？

一緒に頑張れる人たちと、一緒に頑張れる空気や力を発揮できる環境を作ること、ちゃんと観てもらいたい人に向けて楽しく面白いアニメを作ることです。SDの仕事はそれだけです。具体的には、最初に話した「作品が持つ雰囲気」を全力で作ったあとに、女児にわかりやすく想像と理解がしやすい物語構成で話を作ることでした。幼稚園児は『プリキュア』で初めて起承転結のある映像の物語を観る子も多いだろうから、大人たちから見れば当たり前の展開のものでも、ていねいに作っていこうと。

8話のみゆきとキャンディの入れ替わる話が顕著ですが、入れ替わる話なんて、アニメでよく見ますよね。だからどうしてもその次の〝面白さ〟を模索してしまうけど、そうじゃない。まずもし自分が入れ替わったらどうなるのか。驚くのが当然で、その〝初めて〟の感じを大切に作っていきたい。そういうことを、スタッフみんなに伝えていました。

——各回のアフレコの前には、大塚SDからこの話で伝えたいテーマというのがキャストさんに伝えられたそうですね。

声優さんは台本しか読んでない状態なので、当日映像を見せられてもその話数のテーマや真意をつかむのに時間がかかる。だから最初に伝えたいことと大切なところをちゃんと提示して、理解してもらう。声優さんは達者な人たちだったので、「だったらこうしてみないか？」みたいな「予想を超える演技」のやりとりができる。それができれば思っていた以上にその回が面白くなるんです。「より力を発揮できる環境」を作るということです。実際、アフレコ現場で心奪われる名演技はたくさんありました。その本気さに触れた瞬間、鳥肌が立ちました。福圓さんをはじめ、みなさん本当に素晴らしかったです。

——劇中では、行事を描くエピソードも多く、見応えがありました。エイプリルフールの回（9話）やハッピーがロボットになる回（35話）は大塚SDがぜひやりたかったと……。

そうですね！　4月1日が放送の日になることなんてなかなかないですから、ぜひエイプリルフール話をやろうよ！と。ちびっ子が「今日はエイプリルフールか！」って知れば、そのネタで一日中遊べるでしょ？（笑）でも、変なうそをついたら、やよいみたいに大変なことになっちゃうよって言いつつね。ロボットの回はハチャメチャなギャグですね！「えぇえぇえ!?　なにこれ!?（笑）」って思わせる笑いの絶えない爆笑な回です！『スマイルプリキュア！』の真骨頂です。表現の幅を仕切るのが難しいので、僕自ら演出をしました。

表情にもうそがないように

——今回、キャラクターのコミカルな表情作りについては、いろいろと指示をされたそうですね。

はい。特にギャグ顔の使い方は注意しました。ギャグ顔は面白いんですが、多用するとふざけて見えてしまう場合があるので。いつもギャグの表情を使っていると、大切なことを言う場面での説得力を失う可能性がある。だから、あくまで基本は〝ノーマル顔〟にして、ギャグ顔はポイントで使うこと……というスタンスで表情作りをしました。

——表情といえば、女の子だけど鼻水が出てしまっている泣き顔の描写などがリアルでしたね。

そうですね。本当に泣くと鼻水出ちゃいますからね。僕は、本気で泣いたり感情が出ていたりすることに心が揺さぶられるので、感情表現の範囲の限りでの描き方で描いています。実際に絵コンテを考えているときは僕自身そのキャラクターの気持ちになりきるので、本当に鼻水たらして泣いちゃいます（笑）。23話の最終回のみんなとか、泣きながら、不細工アカオーニにしがみつくピースとか、最だけど、でもこれだけは譲れないんだー!!!　っていう気持ちに心打たれるんで、それを表現したいなと。そのためにはあんな感じの顔になっちゃうんです（笑）。またそれに作画監督の山岡直子さんが見事に応えてくれて！　すごくいい、本気の表情をしていると思います。

▲キャラ表に忠実なノーマルなディテールの表情。全体の表情は、基本的にはこれが大前提とされた

▲ギャグ顔として使用してもいいとされた顔。輪郭が丸くなったり崩れるところはあるが、鼻や白目は省略されない

▲点目や鼻がなくなる、輪郭がまんまるになるなどの顔。大塚SDは、演出の指示がない限りは、この顔の使用をNGとした

自分で決めることの大切さを伝えたい

――SDとして思い入れのある話数は？

全話数全力で取り組んだので、出来不出来も含めて全部大好きです。だからどれかを選ぶのは難しいですが、33話から39話にかけての、みんながメインのにぎやかな話は大好きですね。

各話の出来でいうと、演出さん個人の活躍も見逃せません！　ベテランの芝田浩樹さん演出回は安定感があり、ご本人の人のよさが出ていて、3話や9話などはやよいの柔らかさがとてもよく出ていて好きですし、大変勉強させてもらいました。門由利子さんは、持ち前のやさしさと明るさで4話のなおの話や21話を描いてくれて、34話のクラスメイト間のいざこざの話も心やさしくまとめてくれました。岩井隆央さんは絵コンテの内容をていねいに画面に落とし込むよう演出してくれて、安心してお任せできました。土田豊さんは6話、13話、20話、29話ほか、とても楽しい『スマイル』の礎のような話数をいっぱい作ってくれました。田中裕太さんはシリーズの肝である22話をまとめてくれたり、36話ではあかねの微妙な心の機微を、そして43話では圧倒的な表現力で驚かせたりしくれました。珠玉の一本ですね。境宗久さんは19話、27話、41話と作品の深みとなる話を全部描いてくれました。特にやよいの名前の由来を描いた19話は見事です。そして11話と18話では処理演出、25話、39話、46話では絵コンテ演出を担当してくれた三塚雅人さんもとても一生懸命に面白い話数をたくさん演出してくれました。仕事への貪欲さが素晴らしかった。そして映画の監督を務めてくれた黒田成美さん。『スマイルプリキュア！』の世界観を守りつつ女性らしいやさしさにあふれた映画を作ってくれて、非常に満足しています。全体的にうまくいったのも、各演出さんの特徴を知り、それが一番生かせるシナリオとの組み合わせを考えてくれた製作担当の額賀康彦さんのおかげですね。同じシナリオでも演出さんとの相性でその出来は天地の差に広がりますから。

――出演声優の皆さんは、18話の運動会が印象に残っているようです。

僕も好きですねー。23話の絵コンテを後回しにして演出の三塚雅人さんと作りこんでいました（笑）あの話はいろいろ詰まっていますね。せっかくなので、声優さんたちとは違う話をしますね。僕はあのやよいのメンバー入りを反対していたクラスメイトの気持ちがすごくよくわかるんですよ。悪気はないんですが、やはりクラスメイトたちはあんな風に思っているはずですよね。それに傷つくやよいの気持ちもよくわかる。そして気を落としたやよいになおという「やよいと頑張りたい」と言ってくれる人が現れて、やよいは一生懸命に頑張る。最後はその一生懸命さに心打たれたクラスメイトがみゆきを押しのけて声援を送るシーンは、たぶんなかなか現実ではないけど、今の僕の理想なんです。昔の自分はそうできなかった。本当はしたかったのに。あの回には、青春時代に「一生懸命になれなかった自分」が形を変えていろいろなところに出てきます。そして、できれば今青春時代を過ごしている人には恥ずかしいかもしれないけど、後悔のないようにぜひ一生懸命いろんなことにぶつかってほしいな、という思いがあってあの話を作りました。最後にこけちゃうのは、それを伝えたかったからですね。

――22、23話で、キャンディを助けるかどうかをひとりひとりで決めたのも印象的でした。

本作でのメインテーマになりますね。「大切な事は自分で考えて自分で決める」。僕は学生時代に、ひとりの友達との友人関係を真剣に考えないといけない事態に陥ったことがあったんです。でも、そのときの決断を周りにゆだねて流されてしまったんです。精神的に幼かったのもありますが、やはりそのときの後悔は今でもずっと引きずっていて、自分で考えて自分で決断しないと前に進めない、と。だから、どうするかを決めなければいけない状況になったみゆきたちに、誰かの力を借りずに自分で決めてほしかったんです。

あれね、僕は正解ってないと思っています。強いてあげれば、誰かの意見に流されて答えを選ぶことが不正解。当然アニメですから、みんな集まってキャンディを助けに行くって流れになるんだろうけど、問題はそこではなく、そうなるまでの過程をきちんと描きたかったし、自分たちにとっての友達の意義を確かめたかった。そのために5人それぞれに考えてもらいました。

――まさに、最終回でキャンディが言っていた「大切なことは自分で考えて、自分で決めるクル」につながると。

そうです。自分で考えて自分で決断して、自分で責任を持って動けば、少なくとも後悔はしないんじゃないだろうかって、今の僕はそう思うのでそういう流れになりました。

――みゆきたちも、最終回までは本当の意味での大切なものは何かというのは見つけられずにいましたよね。

そうですね。難しいところですが、それがリアルだと思います。もしかしたら最終回をへても何もわかってないかもしれない。ただ自分の気持ちには素直になれたとは思います。どうも僕は、達観した神様みたいなことを言う中学2年生に感情移入できなくて。それはアニメでしょって割り切れなくて。だって、みゆきたちはしょせん14歳の女の子。偉そうに「これが正しい」なんて言える理由も根拠もないんです。最終回で彼女たちは自分なりの答えを見つけますが、それをほかの人に押しつけるつもりはありません。あの子たちが、あの年齢で考えて自分たちなりに何かを導き出したことに意味がある。それが少しでもちびっ子にも伝わっているといいなと思います。ウルトラハッピーになるためには、素直に一生懸命生きることなんだと思うんですけど、それってものすごく難しいことです。

――そういうところも、リアルですよね。三幹部も後半になると、自分たちはどうなるのかと、気持ちが揺れていましたし。

三幹部にもちゃんとお話はありますが、45話では軽く描いています。その話を掘り下げすぎると、話の主体がプリキュアではなく三幹部の話になってしまう。そうするのは容易だけど、本作において「主役はプリキュア」というのを揺るがせたくなかったので、プリキュア側からわかる情報くらいを提示しています。「なんかよくわからないけど、いやなことがあったのかな」と感じてもらえるものにハッピーたちが少し気づいてあげて、どうしたらいいんだろう……くらいの見せ方になっています。

少しだけ言うと、彼らは「今大人になった僕ら」自身、もしくは僕らの可能性でした。意地っ張りな中高校生の男子が、何かのきっかけでひねくれて不良になったのと同じです。本当は38話みたいにみんなで遊びたかったんですけど、意地や見栄でそう言えなかった。おまけにずっといやがらせをしてきた手前、今さら仲間に入れてくれとも言えず、家庭環境もきっと運悪くひどいもので、結果自暴自棄になってしまった。でもそうなったのは自分の弱い心に打ち勝てなかった自分のせいだともわかっている。幸せになりたいけど、意地やプライドとか、いろいろなものが邪魔をして素直になれない……という、もしかしたらそ

▲最終回間際の作業中、川村さんから大塚SDにプレゼントされたイラスト。川村さんは「頑張っている大塚さんを応援しなければ……」と思ったとか

んな不幸な自分もありえたかもしれない。そんな存在ですね。

——そんな中、ピエーロとジョーカーの存在はどのようなものだったのでしょうか？

ジョーカーは人の闇の部分でしょうか。人間のいやな部分の集まりみたいな存在。46話でも自らは手をくださず、一番ずる賢く確実に勝てると思った方法でプリキュアたちを痛めつけてきます。ピエーロは先の見えない未来の不安や絶望そのもの。ただそれ自体に意思はなく、いつの間にか人の心をおおっていくもの……って、なかなか概念的で難しいですよね。三幹部が思春期の悩みで、ジョーカーやピエーロは僕らが抱える未来への漠然とした不安で、それが敵の姿をしていますが、そうした絶望や闇には、最終的には自分自身に打ち勝つしかない。それを絵としてどう表現するか、ということでした。

キャストもスタッフも全員で作り上げた『スマイル』

——『スマイルプリキュア！』の放送が終わって、今の率直な感想は？

スタッフがめちゃくちゃ頑張ってくれました。各話の脚本家や演出家、作画監督や原画マン、美術に仕上げ、撮影、音響スタッフに声優さん。そして何より全体を取り仕切る制作は、昼夜休日問わずに働いてくれました。感謝に尽きます。

こうして僕がインタビューを受けていると、「俺様が作ったんだ」みたいになりがちなんですが、そうじゃないです。芝居がうまいのは声優さんの力だし、変身シーンがカッコいいのはアニメーターさんの力。その力を引き出しているのは制作さんだし、ほかの細かい部分に気を遣ってくれているのは演出助手さん。彼らがいるからこそ、クオリティーを保って1年間作ってこられました。だから『スマイル』のいい部分は全部、スタッフの努力のたまものなんです。ぐっ！と吸い込まれるようなキャラの動き、表情、色、声の芝居はすべてスタッフの本気です。心揺さぶられるようなフィルムには欠かせない、魂の刻印です。

——素晴らしいスタッフに恵まれたんですね。

本当にその通りです。特に制作の執念はものすごかった。僕自身、いろんなスタッフの仕事ぶりに勇気や元気をもらいました。その分僕にはよりよい作品を届ける責任があったので、全力で面白くする方法を考えましたし、この作品に関わる人が作品を愛してくれて、もっと描きたいとか、もっと演じたいとか、もっとよくしたい！と思ってもらえるにはどうすればいいかをずっと考えていました。

——では、最後にファンにメッセージをお願いします！

ちびっ子にとって心に残る楽しい作品になればいいなと思って、スタッフ一同一丸となって作った『スマイルプリキュア！』です。少しでも楽しんでもらえたなら本望です。忘れがちだけど、常日ごろ自分たちの隣にある大切なことを思い出せるよう、今の自分たちに寄り添う感じの作品を目指しました。作品で難しいことを語るのでもなく、深みのある作品を目指すのでもありませんでしたが、観終わって「あぁ、楽しかった！」と思ってもらえたなら、今日一日ウルトラハッピーに過ごせるんじゃないかなと思っています。もし一度でもそんな感じになってもらえたならそれが最高に幸せです。いろんな面白さや楽しさ、ドキドキワクワク、喜怒哀楽を全48話に詰め込みました。もしひとつでも心に残る、好きなエピソードがあれば、それだけでもうけもんです。一緒に制作してくれたすべてのスタッフと、楽しんで観てくれたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。みんないろいろあるとは思いますが、楽しくいきましょう！

みんな笑顔でウルトラハッピー！

Staff Interview 2

シリーズ構成 米村正二

各話に込められたテーマを感じてほしい

うそっぽさのないキャラクター作り

——米村さんは、『プリキュア』シリーズには、2010年に放送された『ハートキャッチプリキュア！』から脚本に携わっていらっしゃいますね。

はい。2011年放送の『スイートプリキュア♪』にも参加させていただき、その後2011年の8月くらいかな。梅澤（淳稔）プロデューサーから、次のシリーズのシリーズ構成をやってほしいと依頼がありました。

——その段階では、プリキュアは5人だというのは決まっていたのですか？

決まっていました。シリーズ構成のところに話が来るタイミングは作品によってまちまちですが、『スマイル』に関しては梅澤さんが企画を立てて、大塚さんがシリーズディレクター（SD）に決まり、その段階でだいたいの方向性は固まっていたようですね。

——各キャラクターの性格についても、その時点でほぼ決まっていましたか？

はい。例えばみゆきですと、最初に大塚SDと打ち合わせをしたときから、彼女が徹底的に前向きな性格だというのは言われていましたね。

——米村さんから提案したことはどのようなことでしょうか？

正直、記憶が曖昧になっていて、誰が何を言ったのかは覚えていないんですが（笑）、みゆきの「星空」という苗字は僕から提案したんだったと思います。

みゆきは当初、徹底的に前向きな女の子として設定されましたが、僕はただ前向きなだけの人というのはうそっぽいなと思ったんですね。「地獄を見る」じゃないですけど、心の闇を感じたことがないのに、常に明るく元気でいられるなんて、説得力がないなと。だから、僕の中では、みゆきは普通の女の子と同様に、当然落ち込むことがあるというイメージでした。落ち込んでいるときに希望を感じることってどんなことだろう、と考えて、夜の星空かなぁと思いついて。それがそのまま通った形だったと思います。

——ほかのキャラクターの性格はどのように決まったのでしょうか？

基本的には、スタッフみんなで話し合いながら、ひとりひとり決めました。

あかねは一番ストレートに、あっさりまとまったんじゃないかな。みゆきは基本的には前向きだけど、過去には悲しいこととやつらいこともあったという前提で描いているんですが、あかねはそれよりはストレートに、夢は努力して実現するということを体現している子だと考えています。関西弁は、大塚SDの希望でした。最初は、「関西弁で話す子は、子どもたちに受け入れられるのか」という話もあったんですよ。でも、とにかくやってみようということになりました。結果的には彼女のキャラクターにも合っていたし、よかったと思いますね。

——やよいはみゆきやあかねと比べると、すごくおとなしい子ですよね。

やよいに関しては、引っ込み思案でマイナス思考の強いキャラクターではあるのですが、それが前に出すぎないように注意しました。彼女は、絵を描くことが好きだというのは最初から設定としてありましたね。子どもはマンガが好きなので、親しみを感じてもらえるのではないかと考えて、マンガ家を夢見ているという設定が作られていきました。

——虫や怖い話が平気だということが意外だなぁと感じました。

やよいは気弱ではあるんですが、自分の世界がないわけではありません。人に流されるだけのキャラクターではないんですよ。9話のエイプリルフール話で、うそをついた後のことをいろいろ想像していたように、心の中の世界はとても広い子なんだと思います。

——ギャップという点では、なおもギャップの多いキャラクターでしたね。

確かに（笑）。なおは、責任感が強くて周りを引っ張っていけるし、さわやかなので後輩から人気のあるキャラクターだったんですよね。当初はそういうシーンもあったんですが、話が進むにつれて「家族愛」の強い子になりました。大塚SDも弟妹が多いので、そういうキャラクターを入れたかったのかな。

——なおといえば、18話の運動会では、最後に負けてしまったのが印象的でした。

制作中は、最後は逆転勝ちにしようという案もあったんですよ。でも、僕がなおを転ばせたくなってしまった（笑）。リレーの選手を選んだのはなおですが、それが原因でやよいが陰口を言われて、少し5人の絆が弱まりかけていたんですね。そこで言い出しっぺのなおが転んでしまったらどうなるのか。みんなが一緒になって悔し涙を流してくれるところを見せられれば、友情が深まるのがわかってもらえるのではないかなと考えたんです。

——なおは、よくれいかに「なおは昔から～」と過去のいろいろなことをバラされていましたね。

そうですね（笑）。でも、なおはれいかのよき理解者として描いているんです。れいかはまじめでありながら、ちょっと天然というか跳ねている部分があって。完璧にまじめでもよかったんですが、僕はそういう子を作ろうとすると、つい面白い方向にいかせたくなってしまう。

そんな理由もあってちょっとずれたところのある子ですから、人に理解されない部分も多いんじゃないかと思いました。そんなれいかをわかってあげられるのが、なおなんだろうなと。

ちなみに、れいかのお父さんはほかの家族が濃すぎて出番がなかっただけで、決して仲間はずれにしているわけではありません（笑）。

Profile

【よねむら・しょうじ】6月7日生まれ。愛知県出身。脚本家。シリーズ構成を担当した主なアニメ作品は、『怪談レストラン』、『グイン・サーガ』、『ガラスの艦隊』など。特撮では、『仮面ライダーカブト』のメインライターを務める。

敵には怖さだけでなく親しみやすさも持たせた

――先ほどみゆきの苗字は米村さんの発案だったとうかがいましたが、プリキュアの名前や決め技、名乗りもスタッフで相談されたのですか？

全スタッフ総出で、夜中の3時までかけて決めましたね。みんなで意見を出し合って、最後は多数決で、という感じなので、名前や決め技に関しては最初から意味を持たせようとしているわけではないんですよ。過去のシリーズのキャラと重ならなければ、なんでもありな感じです（笑）。

――ピースの「ピカピカぴかりん～」の名乗りは衝撃的でした。

あれは最後までもめました（笑）。でも、最終的には、今までのシリーズにはなかった名乗りだし、ちょっと面白い感じがするからいいだろうということになりました。じゃんけんも子どもが好きですからありだろうと。少しでも子どもたちが、ピースのじゃんけんを楽しんでくれていたらいいのですが。

――敵キャラクターも個性が際立っていました。

ウルフルンは、確かに見た目はカッコいいですが、そこまで人気が出るとは思いませんでした（笑）。

三幹部に関しては、もともと「スマイル」の世界が絵本をテーマにしていることもあって、絵本に登場する悪役の定番の狼と魔女と赤鬼をモチーフにしました。僕は長年『アンパンマン』の脚本に携わっていたこともあって、語尾に何かをつけて話をさせるのが好きなんですよ。ウルフルンの「ウルッフッフ」っていう笑いも僕が勝手に入れました（笑）。

――三幹部は敵でありながら、どこか憎めないところがありましたよね。

敵との戦いは、あまりシリアスにやりすぎると、子どもたちが疲れてしまうと思うんですね。ですから、時々肩の力を抜くことができたらいいなという思いもあって、三幹部にはまじめなんだけどちょっと抜けている愛らしい部分が出るようにしました。

――一方、黒幕であるジョーカーとピエーロは怖い感じで。

怖く描きすぎると子どもが恐がるので、そのバランスは注意しました。ジョーカーは自分の手を汚さずに行動するほうが悪い雰囲気が出るのではということもあり、三幹部をおだてながら、自分が求めている方向に彼らを動かそうとするキャラになりました。そのため、後半になるまではあまり表だった活躍がなかったんです。

――『プリキュア』の定番である妖精は、今回どのようなイメージで作られたのですか？

最初はキャンディだけが決定していました。ただ、キャンディがすべてを知っていると、お話がさくさく進みすぎてしまって、都合が悪いんですね（笑）。だから、キャンディはちょっと幼く、プリキュアやメルヘンランドの事情に詳しくないキャラクターになりました。

でも話が進んでいくにつれて、今度は事情を知っていて、説明してくれるキャラクターが必要になってきて。それで登場したのが、お兄ちゃんのポップです。

――物語のクライマックスで、キャンディが人間と同じ姿に変身するというのは、最初から決まっていたのですか？

キャンディがロイヤルクイーンの娘であるという設定はおぼろげにではあったのですが、それが本編に登場するかどうかはまったく決まっていませんでした。進んでいくにつれて出すことにしようという話になり、最終的にみんなで打ち合わせをして、ああいった形で登場することになりました。

“面白く、わかりやすく”脚本作りのテーマは

――今回のシリーズでこだわったことはなんでしょうか？

これは「スマイル」に限ったことではありませんが、『プリキュア』は1話完結の話なので、まず30分だけで面白い話になることですね。それから、メインターゲットである子どもたちが観て理解できるわかりやすさ。打ち合わせのときに一番時間をかけたのは、テーマを突き詰めることでした。脚本は曖昧なテーマで書き始めることも多いんですが、今回はとにかくテーマを絞り込むことに気をつかいました。

――例えば？

そうですね……。透明人間になる話をやろうとか、恋愛ものにしようとか、最初の打ち合わせの段階で出てきたとして、それを物語に入れ込むのは難しくはないんです。ただ、「スマイル」は、透明人間になったり恋愛をしたりする物語を作った結果、何を感じてほしいのかというテーマがなくてはならない。ただ面白かったね、チャンチャンでは終われないんです。

19話のやよいが自分の名前の由来を知る話も、ただ由来を知りました、で終わらないように練りに練った結果、家族への愛が深まるというテーマになった。そのテーマをひねり出すのに、すごく苦労をしたので、それが子どもたちに伝わっていれば、うれしいですね。

――『プリキュア』シリーズは全般的に、学校行事がていねいに描かれている印象があります。

僕は『スマイル』は小学生以下の子が中心に観てくれていることを考えていたんです。そういう子たちにとって、中学生の文化祭やクラブ活動は未知なものですし、憧れもあると思う。その子たちがもう少し大人になったら、自分たちも『スマイル』で観たような文化祭やクラブ活動を楽しんでみたいと思えるようなお話を描いていくように努めました。

――シリーズ構成という立場で全話に関わっていらっしゃいますが、個人的に思い入れの強いエピソードは？

スタッフがプチ最終回と呼んでいた23話ですね。23話は脚本の段階から大塚SDと頭をつき合わせて考えた回なので、特に印象に残っています。

シリーズ全話に関われるというのは本当に幸せなことなのですが、33話の映画撮影の話は僕自身が脚本を担当したかった（笑）。もともと物語の中でキャラクターが映画を作ったり、その映画のストーリーが本編とリンクしたりする、という話が好きなんですね。だから、うらやましいなぁと思いました。

それから、35話のハッピーがロボになる話は、女の子がいかにロボットに興味がないかというのが如実に感じられて面白かったですね。あのエピソードは、女性に脚本をお願いしたんですが、なおとあかねのロボットに対する興味のなさが本当にリアルで（笑）。女の子と男の子は違うんだなぁと改めて感じました。

――『スマイル』に関わっていた時間を振り返ってみていかがですか？

とにかく時間を費やしたし、気をつかってやったなというのが実感です。先ほどもお話ししましたが、脚本のテーマの絞り込みには時間がかかりました。最初の頃はテーマが曖昧な形で脚本を進めてもらってしまい、あがってきたところでひっくり返したこともあって、各脚本家の皆さんには苦労をかけたなぁと。

――では最後に、ファンにメッセージをお願いします。

シリーズ構成として、テーマの絞り込みから関われたこともあり、がっつりやったなという達成感のある作品になりました。その作品で、皆さんが少しでも楽しんでいただけていたらうれしいです。1年間『スマイルプリキュア！』を観てくださった皆さん、本当にありがとうございました。

Staff Interview 3

キャラクターデザイン 川村敏江

色のイメージを大切に、個性を描き分けた5人

丸めにシンプルにでも瞳には目ヂカラを！

――川村さんは今回、キャラクターデザインとしては『プリキュア』シリーズ2度目の採用になりますね。

　そうです。大塚隆史さんがシリーズディレクター（以下SD）を務める新作『プリキュア』ということで声をかけていただき、オーディションに参加しました。

――前に担当した『プリキュア5』の経験を踏まえて、デザインで気をつけたところはありますか？

　『プリキュア5』は線が多く、とにかく描くのが大変だったので、今回はアニメーターさんが描きやすく、動かしやすいように、極力線を減らしてシンプルにしました。これは大塚SDの意向でもありました。あと、シリーズ2度目の担当ということで、意図的に前の時とは絵を変えるようにしました。

――初めてキャラクターを見たときは、シンプルというよりはむしろ、かわいらしくて、かつ華やかな印象を受けました。

　頭身と年齢感を下げることは意識しましたね。『スマイル』のキャラクターは、「3〜6歳の小学校未就学児童をターゲットに」というコンセプトがはっきりしていたので、そういった小さい子たちがとっつきやすいキャラクターにしたかったんです。だから全体的に、丸めでかわいめの感じに作りこみました。

――瞳がキラキラしているところは、シンプルといえない気もするのですが。

　アップになったときの顔のポイントは「やっぱり目だろう」ということで、目ヂカラを重視して、ハイライトをたしていったんですが、なんだか止まらなくなって……。本編を観たときに、「やりすぎた」と思ってしまいました（笑）。

――実際のデザイン作業は、どのように進めましたか？

　最初の5人のプリキュアバージョンをデザインするのに、作業時間は一週間もなかったんです。決まっていたのは5人ひと組ということだけだったので、5人をざっくり並べて、同時に描き進めていきました。シルエットで明らかに個性と差が出るように、そして集合したときにそれぞれの個性が出るようにと、描いては消しの繰り返しでした。

――その時点でキャラクターには、どういうオーダーがあったんでしょうか？

　大塚SDからはまずベースの5色を教えてもらって、「5色のイメージカラーがひと目でわかる感じにしたい」という要望がありました。そこからそれぞれの色の持つ特徴を考えつつ、まずは好きに描かせていただきました。

　ピンクと黄色は、女の子が一番好きな色なので、一番親しみやすいデザインに。中でも黄色は、この子が一番幼い感じになるのかなと考えました。オレンジは、意思がハッキリ出る、はつらつとしたイメージ。ブルーは落ち着いた感じで、お姉さん的。緑は、私の中では一番しっかりしているイメージでした。ピンクがなかなか決まらずまとまらなくて、主人公なのにデザインが最後になりました。

――どのように苦労されたんですか？

　基本的にセンターって、アクが少ない子が多いんです。みゆきは天真爛漫でムードメーカーでおっちょこちょい……と個性はあるのですが、絵で表現しづらいんですね。どこにでもいる、観る人みんなが共感できる子ということもあって難しかったですね。

　ヘアスタイルに関しては、歴代のプリキュアたちをふりかえって、どういう髪形だとかぶらないかなと考えて。ヘアカタログをなんとなしに見ていると、今風のゆるく編んでふわっとふくらませたようなお下げがあったんですね。あぁ、こういうのもかわいいなと……ボリュームをたしたらいけるんじゃないかと思いました。ピンクは横幅を出し、ほかの4人の髪形は上に盛る。全員並ぶとすごいな……と思いながら描きました（笑）。

――日常の姿は、プリキュアバージョンのあとにデザインしたんですか？

　そうです。『プリキュア5』のときは日常姿を決めてからプリキュア姿

◀プリキュア5人の瞳の設定。アップになればなるほど、ハイライト（白い光の点）がたくさん入る。「ちょーUPの時のみ！」では中央にさらにひとつ追加される。5人の目の違いにもご注目！

Profile

【かわむら・としえ】3月9日生まれ。岩手県出身。マングローブ所属。『プリキュア』シリーズでは『Yes！プリキュア5』、『Yes！プリキュア5GoGo！』に続く、2度目のキャラクターデザイン担当となった。ほか、主なキャラクターデザイン作品は、『カーニヴァル』など。

をデザインしたんですが、「スマイル」は逆で、プリキュア姿から考えました。日常姿は「このプリキュアを通常のスタイルにする場合は、どうしたらいいんだ？」というところから発想しました。通常バージョンでも、5人並んだときのシルエットに差が出るように、ロングへアからショートヘアまでそろえました。
　中でもれいかは考えやすかったですね。優等生だから、ロングヘアでおとなしめのパッツンがいいかな、と。
　マーチが髪を上で結わえているので、なおはポニーテールにしました。サイドのツインを残してショートボブにしようかとも考えたんですが、ちょっとおとなしすぎたので、快活さを出すために。
　やよいは、引っ込み思案でおとなしめの性格ということだったので、そういう子は「たぶん、おでこや耳やフェイスラインを出したくないんじゃないかな」と考えて、髪をかぶせてかぶせていった結果、この髪形になりました。
　あかねは、シルエットをわりとそのまま残してショートヘアに。後ろだけちょっと伸びたところを結んだのは、個人的な昔の憧れを入れてみたところです。私は子どものころ、髪が伸びるとすぐ母に切られてしまって、伸ばすことができなかったんですね。でも、あかねのような結び方なら髪の短い子でもマネできるかな、と思って。
　みゆきは迷いました。お下げも考えたんですがおとなしすぎる。私、迷ったらいろいろ巻いちゃうくせがあって（笑）。結果的に、お団子の変形バージョンみたいな、コロネスタイルになりました。
――みんなかわいくておしゃれですね。
　一応全員、ヘアアクセサリーを何かしらつけている感じにはしました。子どもが真似できるような髪形がいいかなと思って、何かしらでマネできるポイントを作っています。みゆきのコロネはちょっと難しいですが（苦笑）。

お着替えは楽しい♪個性とバリエーション

――みゆきたちは制服を、それぞれ個性豊かに着こなしていますね。
　制服は「切り替えがあるワンピース」です。ポイントがほしいなと思って、ネクタイをつけました。みゆきの制服が一番ベースの状態です。でもさらに、キャラごとに差別化をはかりたくて。衣替えの季節に女の子を見ていると、カーディガンを羽織ったり腰に巻いたり、というバリエーションがある。それが面白いかなと思って、今の感じにしました。
――中盤から登場したプリキュアのプリンセスフォームは、いかがでしたか？
　最初の企画の段階で、「パワーアップアイテムとしてティアラが出てくる」という話は聞いていたんですが、さらに「何か上に羽織る」ということになり、しかも「ボリュームがほしい」と言われて……「動かすのが大変だー！」と（笑）。
――そのほか劇中では、いろんなコスチュームがありましたね。
　30話で下半身が魚になっちゃったりね（笑）。基本的にお着替えがあると、観ている方も楽しいかなと思います。私服のパターンは、どうしても限られてしまいがちなので、こんなふうに毎回チェンジできるのもいいなと思います。デザインは私が全部起こしたわけではなく、各話の作画監督さんにも、いろいろ作りこんでもらいました。
――38話「コドモニナ〜ル」の小さくなった姿のかわいさといったら……！
　みんなの髪形を残しながら小さくするのに工夫が要りました（笑）。どうやったらこの髪形で子どもっぽくかわいく見せられるのかと。アカオーニとウルフルンも小さくなって、敵味方全員の目線が同じ高さになった、唯一の回ですよね。私も観ていてずっと笑っていました！
――バッドエンドプリキュアは、どのようにデザインしたんですか？
　基本は小悪魔系。人のダークサイドのイメージです。純粋に「影の姿」という感じにして、人格が出ないようにと考えました。登場が45、46話だけというのもあって、あまり印象が残りすぎないように、とデザインしましたね。
――小さい女の子が憧れる「プリキュア」で、外せないところはありますか？
　5人の中の誰かに、自分の理想が反映されているキャラがいればいいなと考えています。やさしい感じのビューティが子どもには人気みたいですね。
　あと作品全体として、できるだけいやな場面を作らないように、というのはあります。たとえば決意の表情も、きつくしすぎると子どもは「怖い」と思ってしまうようなんです。でもそういうものを削りすぎると、曖昧な表情ばかりになってしまう。総作画監督として各原画に修正を入れるときも、そのさじ加減を探りながら描いていました。

内容てんこもり！濃厚なシリーズでした

――メイン以外のキャラのお話もお願いします。まずはキャンディとポップから。
　キャンディは、幼稚園児ぐらいの年齢のイメージで、悪意なくイタズラしちゃう無邪気な面が出せればいいなと考えました。
　「妹ラブ」のポップは、わりと自由に描かせていただきました。実は、あれはうちの実家にいる犬のシェルティーがモデルなんです。
　ポップとキャンディふたりが出てくる回は、「ああ、かわいい兄妹だなあ」と目尻を下げながら観ていました（笑）。
――敵役のデザインはどのように考えられましたか？
　狼、赤鬼、魔女。「物語」に登場する敵役として象徴的な3人が選ばれたわけですよね。大塚SDのオーダーとしては「小悪党にしてほしい」と言われました。完全なワルではなく、憎めないところもあるようにしてほしいと。
　三幹部は、大塚SDから「さっとこんな感じで」というアイデアをいただいて、それを練っていきました。西洋っぽいイメージで、マントをつけていて、体格がよくて、怖そうで……。アカオーニが一番大きいと思ったので、バランスを考えてアカオーニは大きく、ウルフルンは細長くしました。マジョリーナは、熟女系にするかおばあちゃん系にするか、両方の案があったんです。結果的に差をつける意味でおばあちゃん系にして、あの体格差になりました。
　ジョーカーは、出てくるのがまだ先だと思っていたら、「OPで1カット出ます」と言われて、非常に急いでデザインした記憶があります（笑）。色も何パターンかある中から決めたんですが、「白がベースの色」の敵役は、あまりないと思っ

▲バッドエンドプリキュア5人の設定。45、46話で登場した、ジョーカーが作り出した悪のプリキュアだ。全員が本来の姿よりも、大人びた妖しげな雰囲気をかもし出している

たので、大塚SDに「白が入ったバージョンが面白いのでは？」と伝えました。

――クラスメイトのデザインも川村さんが起こされたのでしょうか？

クラスメイトは、サブでキャラクターデザインを手伝ってくれた山岡直子さんにお願いしました。大塚SDの考えたイメージラフをもとに、全部山岡さんが考えてくれました。34話はそのクラスメイトがみんな出る話で、その回の作画監督を山岡さんに担当してもらえて本当によかったです。みんなとても個性的で。クラスメイトって同じような顔になりがちなんですけど、みんないろいろとキャラクターが立っていて面白かったです。34話では豊島くんがかわいかったですね。意地っ張りで。あの回は、クラスのみんなで何かをする時に起こるいざこざが表現されていて面白かったし、最後の衣装もすごかったです！　山岡さん、ありがとうございました！

――1年を通して、特に印象に残っているエピソードを教えてください。

一番は38話の「コドモニナ～ル」ですね（笑）。でも愕然としたのは、24話でしょうか。重い23話が終わったと思ったら、いきなりみんな妖精になっていて（笑）。大塚SDに、「川村さん、5人の妖精姿を考えてくださいっ！」って言われて、笑っちゃいました。

――1年をふりかえり、最終回を終えた感想をお願いします。

ふりかえると、内容てんこもりだったなぁと思います。スタートした当初は、どんなふうになるのか想像できなくて……。本当に、大塚SDが絞り出したアイデアが詰まっている感じですよね。大塚SDは、アイデアと引き換えにどんどんやせていっちゃうし……。今まで担当したどのシリーズよりも、濃厚だった気がします。自分も学校行事に参加したような気分なんですよね。あぁ、あんなこともあった、こんなこともあったと。『プリキュア』にメインスタッフで参加したのは2回目なので、最後の打ち上げは、冷静に迎えられるかなと思ったんです。でも声優さんが挨拶されたとき、いろんなことが頭をよぎって、ぶわっときちゃって……。自分も中に入っている、そんな1年だったんだな、と思いました。

そしてキャラクターデザインという立場上、作画のスタッフの方々への感謝の気持ちがいっぱいです。山岡さんをはじめ、支えてくれた作画監督陣、原画陣。本当に大変だったと思いますが、放送を見るたびにその頑張りがとても伝わってきて感激していました。大変な制作状況の中、一生懸命キャラクターを楽しく演技させてくれてありがとうございました。そして制作進行さんにも本当にご迷惑をおかけしました。番組を支えてくれたすべての方に感謝です。でも本当、無事に終わってよかったです（笑）。

――最後に、ファンへのメッセージをお願いします。

1年間観ていただいて、ありがとうございました。まさかウルフルンがあんなに人気になってグッズまで出るとは……。それが一番の驚きです（笑）。

『スマイルプリキュア！』は、デザインでもいろいろな表情を百面相的に楽しめる作品になっていて、本当に見応えがありました。そんな楽しみが、観ている子どもたちに伝わっているとうれしいです。

1年を通しての作品を、こうした本の形でふりかえって、また楽しんでいただけたらいいなと思います。これから出るDVDも一緒に楽しんでいただけたら、もっと素敵だなと思います（笑）。本当にありがとうございました！

▲月刊アニメディア2013年1月号「月刊アニメ道場」のページで、川村さんが描きおろした「『スマイルプリキュア！』の描き方」。似せるためのポイントをひと言ずつアドバイスしている

▲上のイラストと同じ記事内で、読者にプレゼントされた１点モノの「お言葉色紙」。川村さんご自身は「追いつめられてからが強いタイプ」とのことで、右下に自画像が……

Staff Interview 4

プロデューサー 長谷川昌也

『プリキュア』を観たことで子どもたちが元気になってくれたら

——長谷川さんはプロデューサーという立場で、どういったことを考えながら、制作にのぞまれましたか?

日曜日を楽しいものにしたいという気持ちが一番にありましたね。『プリキュア』を観た子どもたちに、「今日一日何かするぞ、頑張るぞ!」って思ってもらえるようになればいいなと。例えば、外が雨でも『プリキュア』を観ることによって、気持ちが明るくなるような、モノクロだった世界がカラーになってくれたらというイメージですね。

——『スマイル』はみゆきたちが透明人間になったり、みゆきとキャンディの体が入れ替わったりと、とてもにぎやかな印象がありました。

マジョリーナの道具が便利でしたからね(笑)。何をやったら楽しいかということはスタッフみんなで考えるんですが、透明人間になる話だと、普通だと透明になったことでいたずらをする、みたいな話になりがちなんですね。でも、プリキュアが進んでいたずらをするのはどうだろう……と。最終的には、透明になるよりも姿が見える方がいいや、で落ち着くんですが、透明人間になるのがつまらないことであれば、やる意味がない。作るからにはテーマがある面白い話にしたいと欲張った結果、脚本家の皆さんは相当苦労したと思いますね。僕らは好き勝手言っているだけなので(笑)。

——そんな中で、特に印象に残っているエピソードは?

2話のサニーが初めて変身する回は好きです。友達のハッピーがアカンベェに苦しめられていて、ウルフルンから「人間ごときが」と言われ、「関係あるかーい!」って言ってから変身するんですけど、そこがカッコよかった。序盤でしたが、これでいけるんじゃないかと手応えがあった回でもありました。

印象に残っている話は、33話の時代劇ですね。ヒーローオールスターズみたいだし、一体感もあるしオチもある。31、32話がキャンディが怠け玉の中に閉じ込められてしまい、それを助けに行くんだけど、戻ってこられないかもしれない……という重いエピソードだったので、いい意味での再スタートの話数になったと思います。

——クライマックスに向かうと、どうしてもシリアスになりますよね。

そう、だから一度ピエーロを撃退した後の23話以降は、がらっと変わって夏休みの楽しい話なんです。子どもにとって夏休みは、花火やお祭りがあったり、海に行ったりして楽しいじゃないですか。夏休みで一緒に遊んで仲よくなり、絆を深めていくわけですから。

僕も子どもの親として、子どもにはのびのびと遊んでほしいんです。勉強もしてほしいけど、思いっきり遊んでほしい。だから、『プリキュア』を観て、海に行きたいとかお祭りに行きたいと思ってもらえたら最高だなと。

——楽しいエピソードを経て、後半はどんどんシリアスになっていきました。

『スマイル』は、結果は出なかったけど、その過程で得たものは大きいということを、1年間通して描いてきたんですね。やよいがコンクールで金賞をとるわけでもなく、れいかが留学をするわけでもなかった。でも、その結果に至る前には自分でどうしたいかを考えている。そこが大事なんだよと。48話でキャンディが言った、「大事なことはちゃんと自分で考えて自分で決める」というセリフに1年間が集約されていますね。

——ところで、『スマイル』では、敵役にも人気が出ましたね。

子どものために作った結果、大人に受けているのであれば、それもいいかなと思っています。正直、敵役に人気が出るのは僕たちも予想していなかったんですが、彼らの人気が出たことで作品全体に立体感が出たのではないかなと。

三幹部だけでなく、キャスティング全体がよかったと思います。担当の小浜さんが素晴らしかったし、彼のような方々が支えてくれているから、才能と実力を持った人たちが集まり、素晴らしい現場になったんだと思います。「面白い」ものを作ろうという思いってアフレコ現場全体に伝わるんですね。どんどん役者さんがノってくれるようになって、そのライブ感はテレビの前の子どもたちにも伝わるし、子どもたちが喜んでくれていることで制作チームの元気にもなる。すごくいい現場だったと思います。

——最後に、ファンに向けてメッセージをお願いします。

朝、『プリキュア』を観たことで子どもたちが元気になってくれる、そんな作品になったのではないかと思っています。笑顔の日曜日が迎えられるように頑張りましたし、みんなで最後まで走りきった作品になりました。1年間観てくださって、ありがとうございました。

Profile

【はせがわ・まさや】6月30日生まれ。兵庫県出身。東映アニメーション所属。これまでの担当作品は、「スイートプリキュア♪」アシスタントプロデューサー、「映画プリキュアオールスターズNewStage みらいのともだち」、「映画スマイルプリキュア! 絵本の中はみんなチグハグ!」プロデューサーなど。

Staff Interview 5

プロデューサー
梅澤淳稔

みんなで力を合わせることの大切さを、楽しみながら感じてほしい

Profile

【うめざわ・あつとし】2月21日生まれ。東京都出身。プロデューサー。東映アニメーション所属。『フレッシュプリキュア！』から『スマイルプリキュア！』まで、4作品の『プリキュア』シリーズプロデューサーを務める。

——2012年に放送される『プリキュア』は、企画の時点ではプリキュアがひとりだけだったとうかがいました。

そうです。でも、東日本大震災があったことで、今はひとりで頑張る時期ではなく、みんなで力を合わせていかなければいけないのではないかと考えました。そこで、企画を一から作り直して、5人のプリキュアができあがりました。"みんなで"というテーマが最初にあったので、できるだけ人数は多くしたかった。7人とか12人とかもシミュレーションはしました。ですが、TVの画面サイズ的なことも考えて、5人がベストだろうというところに落ち着きました。

全体の物語に関しては、もちろん話し合いはしますが、基本的には大塚シリーズディレクター（SD）にお任せしました。私たち制作陣ではなく、観てくれる子どもたちが喜んでくれるものを作ってほしいということだけお願いしました。

——梅澤さんがプロデューサーを担当された『フレッシュ』、『ハートキャッチ』、『スイート』に登場するプリキュアたちは、ちょっとドジだったり、苦手なものがあったりしますよね。

観ている子どもたちに、なんとなく自分に似たプリキュアがいるなと思ってもらいたいんです。ですから、完璧なヒーローではなくて、ヌケたところがあるキャラを作りました。例えば、なおはお化けが苦手ですが、お化けが平気な子だったら、「お化けが苦手なあの子でもプリキュアになれるんだから、自分も頑張ったらなれるかも」と思ってくれるかもしれない。そういう身近さを目指しました。

——今回、プリキュアそれぞれに妖精はつきませんでしたね。

今回の妖精は、プリキュアたちが力を合わせる理由となる存在でした。敵に捕まったり危険にさらされたりして「助けなきゃ！」と思わせる役。ですから、複数は必要ありませんでした。でも、そのままだと話が進まなくなってしまうので、導き手としてポップに登場してもらったんです。

——『フレッシュ』、『ハートキャッチ』、『スイート』では、物語中盤でプリキュアが増えましたが、今回は最後まで5人のままでした。

この3作でプリキュアが増えたのは、私がやりたいと思っているテーマを凝縮して浮きぼりにするキャラが必要だったからなんです。例えば『フレッシュ』でいえば、テーマは「幸せとは何か」だったのですが、プリキュアにも敵にもそれぞれの思う幸せがある。そのままだと平行線にしかならないので、どちらが本当の幸せなのかと悩むキャラクターとしてせつな（キュアパッション）を登場させ、彼女はプリキュア側の幸せを選んだので、プリキュアが増える形になりました。

『スマイル』に関しては、テーマが「みんなで力を合わせる」ことでしたし、そのことに関して悩むキャラはいなかったので、追加の必要はありませんでしたね。

——敵として登場した三幹部は、憎めないキャラクターでした。

私の中では、彼らは敵ではありません。先ほども言いましたが、敵には敵の思いがあるんですね。それはその時点ではプリキュアとは相容れないかもしれないけれど、悪とは限らない。もしどこかで折り合えれば、明日は手をつないで遊べるかもしれない、そんな存在として考えています。一方で、ジョーカーやピエーロは、人のネガティブな部分を具現化したイメージです。ネガティブな部分というのは人間には誰しもあるものですから、これも悪ではない。ですから、ピエーロたちとの戦いでは、ネガティブな自分にも負けないようにしようということを表現したかったんです。

——ところで、EDのダンスが『フレッシュ』から3Dになったのは梅澤さんの提案があったからだそうですね。

それまでもEDでダンスはしていたのですが、どうしても2Dの描写だと限界があって、一部分しか動かせないこともあったんです。でも、子どもたちに通して踊ってもらいたかったので、『フレッシュ』でプロデューサーになってから3Dにして、全身が動くようにしてもらいました。『スマイル』は、最終回のEDでハッピーが踊っていますが、大塚SDは外したかったみたいなんですよね。でも、子どもたちに今日はプリキュアが踊っていないってガッカリされたくないので、あそこだけは私の意見を押し通しました（笑）。

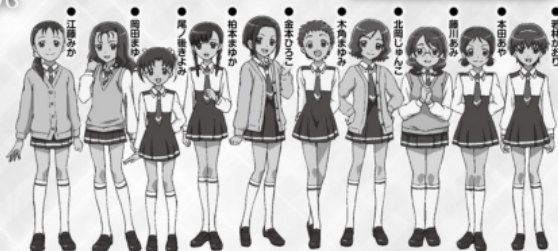
——最後に、ファンにメッセージをお願いします。

私もこれで『プリキュア』は卒業になります。理屈はいらないので、楽しんで観てくれたら一番うれしいですね。何年か経ったときに、あのときの『プリキュア』は面白かったねと言っていただけたら最高です。ありがとうございました。

設定資料集

ここまでに紹介できなかったサブキャラクターや、小物、ゲストキャラクターなどをご紹介。アカンベェがひと目でわかる、カタログもあるよ！

みゆきたちのクラスメイト

●脇だいすけ
●柳谷ゆうさく
●宗本しんや
●松谷かずあき
●野川けんじ
●中田ぜんじろう
●豊島ひでかず
●富田ただあき
●佐藤かずや
●木村さとし
●北原ともふみ
●木下かずふみ
●岡部かつとし
●犬塚しろう
●井上せいじ

●ブライアン

イギリスからみゆきたちの中学に留学してきた男の子。好奇心旺盛でほがらかな性格。日本語も上手。あかねと仲よくなる。

座席表

担任：佐々木先生

木下	若林	やよい	井上	尾ノ後	岡部
江藤	松谷	中田	本田	富田	岡田
柳谷	北岡	木村	なお	れいか	北原
あかね	豊島	金本	野川	佐藤	木角
みゆき	犬塚	藤川	宗本	柏本	脇

●入江先輩
生徒会長。女子生徒から人気がある。

●倉田なおき
生徒会で書記を務める1年生。

●美川
3話に登場。少女マンガを描くのが得意で、学校でも人気がある。

●蘇我
3話に登場。美術部の部長。美術コンクールで入選した経験がある。

●成島
3話に登場。女の子を美人に描くことで有名な男子。

●寺田るな
生徒会で会計を務める1年生。

●中村良子
18話に登場。1組のリレーのアンカーで、なおと1位を争う。

●名倉ゆか
2話に登場。バレー部のエースだと言われている。

●先輩たち
4話に登場。屋上でお弁当を食べる場所を譲るように、みゆきたちに迫る。

先生

●佐々木なみえ先生
みゆきたちのクラスの担任。担当教科は英語。

●片野先生
担当教科は体育。

●堀毛先生
担当教科は社会。

●土田先生
担当教科は国語。

実はチャーミング!?
アカンベェ カタログ

三幹部やピエーロが作り出したアカンベェを全網羅！
意外と憎めない顔をしたアカンベェも多い!?

● スプリング遊具アカンベェ(8話)

● レンガアカンベェ(1話)

● コートローラーアカンベェ(9話)

● バレーボールアカンベェ(2話)

● ソース入れアカンベェ(10話)

● ポスターアカンベェ(3話)

● タンポポアカンベェ(11話)

● ゴールポストアカンベェ(4話)

●トイベンダーアカンベェ(12話)

● 鏡アカンベェ(5話)

● 大凶アカンベェ(13話)

● アキカンアカンベェ(6話)

● 通天閣アカンベェ (14話)

● 樹木アカンベェ(7話)

ポップ変化！

● シールド

22話に登場。ジョーカーによる攻撃からプリキュアたちを守ろうとした。

● プレス機

6話に登場。アキカンアカンベェを挟んで、プリキュアたちを助けた。

● ペガサス

21話に登場。メルヘンランドの「ペガサスの日」を説明するために変身。

● オオワシ

23 話に登場。プリキュアたちを背中に乗せて、バッドエンド王国に運んだ。

キャンディの小物 COLLECTION

● ヘアブラシ

● ビーズメーカー

キュアデコルとビーズを使って、アクセサリーを作る機械。

● 本

キャンディは、本の中に入った状態で地球にやってくる。

● ドライヤー

ゲストキャラクター

● 松原巡査

交番に勤めるおまわりさん。発明した道具がなくなって探しに来たマジョリーナの相手をしている。

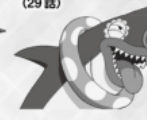
● スマイルちゃん

44話に登場。幼いころのみゆきと友達になってくれた少女。彼女のおかげで、みゆきはほかの子に声をかける勇気を得た。

● FUJIWARA

17 話に登場。みゆきたちが住む街で行われる、お笑いコンテストのゲストとしてやってきた。あかねは、彼らの大ファン。

● バレーボールアカンベェ２号（40話）

● ギター型ハイパーアカンベェ（34話）

● ジョーズ緑鼻アカンベェ（29話）

● スーパーアカンベェ（24話）

● カーネーションアカンベェ（15話）

● 怪人ハイパーアカンベェ（41話）

● ワルブッターハイパーアカンベェＡ（35話）

● タイマー緑鼻アカンベェ（29話）

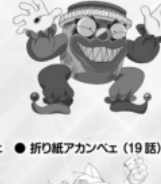
● カキ氷スーパーアカンベェ（25話）

● 問題集アカンベェ（16話）

● ワルブッターハイパーアカンベェＢ（35話）

● ピン緑鼻アカンベェ（29話）

● 看板アカンベェ（17話）

● 毒リンゴオリハイパーアカンベェ第一段階（42話）

● ワルブッターハイパーアカンベェ（35話）

● モグラ緑鼻アカンベェ（29話）

● お祭りスーパーアカンベェ（26話）

● 玉入れアカンベェ（18話）

● 毒リンゴオリハイパーアカンベェ第二段階（42話）

● ハートペンダントハイパーアカンベェ（36話）

● ピラニアスーパーアカンベェ（30話）

● 蚊遣り豚スーパーアカンベェ（27話）

● 折り紙アカンベェ（19話）

● ミラーハイパーアカンベェ（43話）

● 投票箱ハイパーアカンベェ（37話）

● ショベルカーハイパーアカンベェ（31話）

● 学校スーパーアカンベェ（28話）

● ビックリ箱アカンベェ（20話）

● ハイパーアカンベェジョーカー（43話）

● ドングリハイパーアカンベェ（38話）

● ローラーコースターアカンベェ（32話）

● ゴンドラスーパーアカンベェ（29話）

● 笹アカンベェ（21話）

● レンガハイパーアカンベェ（44話）

● ガラス靴アカンベェ（39話）

● カメラ型ハイパーアカンベェ（33話）

● ロケット緑鼻アカンベェ（29話）

● 岩ヘビゴーレムアカンベェ（23話）

Gakken Mook

2013年3月30日　第1刷発行

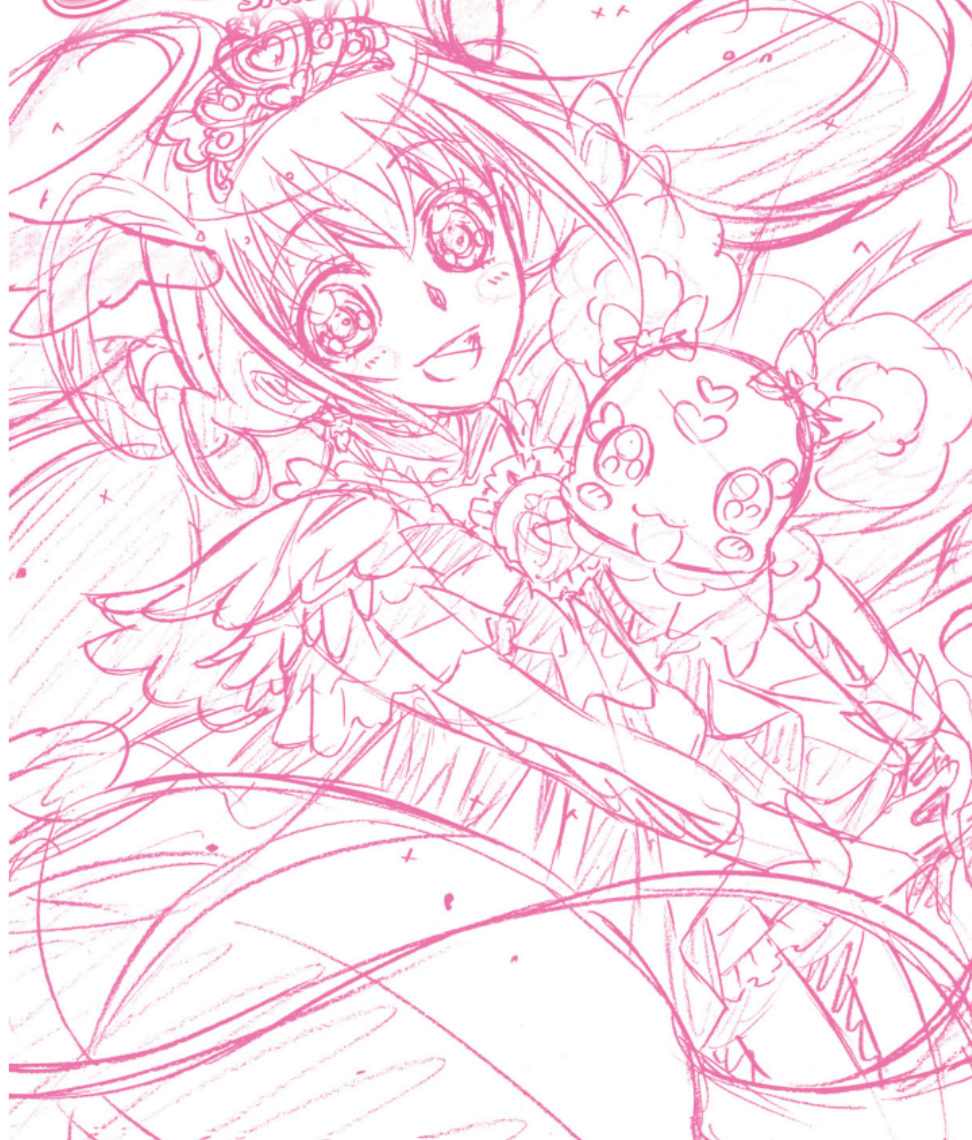
発行人	三木浩也
編集人	吉岡 勇
発行所	株式会社　学研パブリッシング 〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
発売元	株式会社　学研マーケティング 〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8
印刷所	凸版印刷株式会社
編集	水野二千翔
編集・執筆	宮村妙子(アイプランニング) 野下奈生(アイプランニング) 矢野真弓
デザイン	根本綾子、KAMATA DESIGN
カバー&表紙イラスト	原画／川村敏江
撮影	江藤はんな
ヘア&メイク	町田恭子(e-mu)
製作協力	東映アニメーション株式会社 東映株式会社

Staff

企画:西出将之(ABC)／三宅将典(ADK)／清水慎治(東映アニメーション)
プロデューサー:松下洋幸(ABC)／佐々木礼子(ADK)／梅澤淳稔(東映アニメーション)／長谷川昌也(東映アニメーション)　原作:東堂いづみ〈連載／講談社「なかよし」(漫画・上北ふたご)〉／「たのしい幼稚園」／「おともだち」ほか　シリーズ構成:米村正二
音楽:高梨康治　製作担当:額賀康彦　美術デザイン:増田竜太郎　色彩設計:佐久間ヨシ子
キャラクターデザイン:川村敏江　シリーズディレクター:大塚隆史　制作協力:東映
制作:ABC／ADK／東映アニメーション

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト　http://hon.gakken.jp/

みんなえがおで
ウルトラハッピー!!

スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!

Gakken Mook
スマイルプリキュア！
コンプリートファンブック　電子版

2023年5月　　version1.0発行

発行人　　村田剛
編集人　　村田剛
企画編集　　馬渕悠

発行　　株式会社 Gakken
〒141-8416　東京都品川区西五反田2-11-8

【お問い合わせ】https://ebook.gakken.jp/contact/（電子出版専用）

学研グループの書籍·雑誌についての新刊情報·詳細情報は、下記をご覧ください。
学研出版サイト https://hon.gakken.jp/

※本商品に記載している情報は、紙版の発売当時のものです。
※キャストページなど、一部のページで紙版と異なる写真を使用しています。